

JFA NEWS

特集

ストライカー 育成

JFAが進めるストライカー育成
対談:影山雅永 U-20日本代表監督
×森山佳郎 U-17日本代表監督
Jクラブの取り組み～ガンバ大阪
選手に聞く

7 NO.447
2021.
目情報号

見上げる空は、ひとつだ。

サッカー選手の頭上には、いつだって空がある。

勝利のあとの青空。

朝練で見た、夜明け前のインディゴの空。

涙でにじんだ曇り空。

少年たちの見上げる、限りなく高い空。

色や形は一つ一つ違う。それでも、すべての空はつながっている。

日本代表・新ユニフォームのコンセプトは「日本晴れ」。

それは、それぞれの空をひとつにしたスカイカラーージュ。

勝利を目指す選手に、声援を送るサポーターに、

すべての一人一人に、最高の日本晴れを。

信じよう。見渡す限りの青空に、日の丸が掲げられる瞬間を。

“日本晴れ”

サッカー日本代表2020ユニフォーム



OFFICIAL SUPPLIER

CONTENTS

特集

ストライカー育成

003 JFAが進めるストライカー育成

006 対談:影山雅永 U-20日本代表監督
×森山佳郎 U-17日本代表監督

009 Jクラブの取り組み～ガンバ大阪

010 選手に聞く
岡崎慎司 選手
小林悠 選手(川崎フロンターレ)
大迫勇也 選手(ヴェルダー・ブレーメン)

066 第32回オリンピック競技大会
(2020/東京)登録メンバー決定

【特別企画】

022 グラスルーツ対談(後編)
～一般社団法人TRE
068 5人制サッカー日本代表の挑戦

【連載】

024 隔月連載 JFAホットスポット
「サッカーe日本代表、初の公式大会の裏側」
052 隔月連載 私とフットボール
山田亜希子
「女子がもっと気軽にフットサルができる環境を」
054 隔月連載 フットサル道場
ブルーノ・ガルシアフットサル日本代表監督
「リーダーシップとエンパワメント」
056 いつも心にリスペクト
大住良之
「森保監督:感謝を力に」

◎JFAの理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、
人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

◎JFAのビジョン

サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、
人々が幸せになれる環境を作り上げる。
サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、
人々に勇気と希望と感動を与える。
常にフェアプレーの精神を持ち、国内の、さらには
世界の人々と友好を深め、国際社会に貢献する。

◎JFAのバリュー

エンジョイ◎スポーツの楽しさと喜びを原点とすること
プレーヤーズファースト◎選手にとっての最善を考えること
フェア◎オープンかつ誠実な姿勢で公正を貫くこと
チャレンジ◎成長への高い志と情熱で挑戦を続けること
リスペクト◎関わりのあるすべてを大切に思うこと

【日本代表】

059 キリンチャレンジカップ2021
SAMURAI BLUE vs セルビア代表
060 FIFAワールドカップカタール2022アジア2次予選兼
AFCアジアカップ中国2023予選
SAMURAI BLUE vs タジキスタン代表
SAMURAI BLUE vs キルギス代表
062 国際親善試合
U-24日本代表 vs U-24ガーナ代表
U-24日本代表 vs ジャマイカ代表
064 国際親善試合
なでしこジャパン vs ウクライナ女子代表
065 MS&ADカップ2021
なでしこジャパン vs メキシコ女子代表

【大会・試合】

017 天皇杯 JFA 第101回全日本サッカー選手権大会 開幕
018 Fリーグ2021-2022 開幕
020 日本女子フットサルリーグ2021-2022 開幕
025 月刊レポート～JFAリリースインフォメーション&活動報告
036 会議レポート
041 DATA BOX
048 蹴球通信
057 日本サッカーミュージアム
071 サッカーファミリー広場
072 次号予告

※本誌の記事・写真・図表などの無断転用を禁じます。
表紙・目次および本誌内のクレジットの記載のない写真
©JFA、©JFA/PR、©J.LEAGUE、©WE LEAGUE、©F.LEAGUE、©Walrix

特集

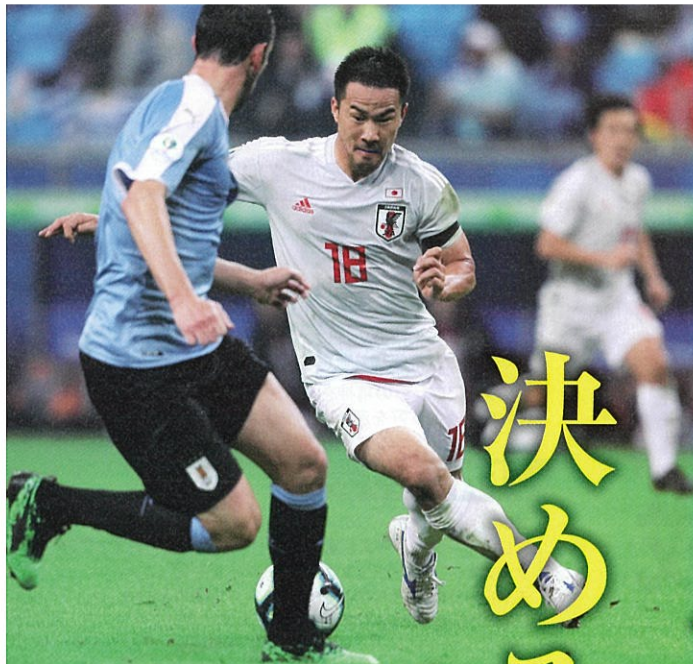
ストライカー育成

自分が

ゴールを

決める

FWに求められる能力と姿勢



日本サッカー協会（JFA）は2020年、14年ぶりとなるストライカーキャンプを開催した。トリアルではあったが、同キャンプを再開させた狙いはどこにあるのか。今号では、JFAが目指すストライカーの育成ビジョンをはじめ、影山雅永U-20日本代表監督と森山佳郎U-17日本代表監督の対談、ガンバ大阪の取り組み、選手インタビューを通して、日本サッカー界全体でいかにストライカーを育てていくかについて考えたい。



JFAが進める
ストライカー
育成

日本全体で 「理想の日本人ストライカー」 を考えるきっかけに

ストライカーの発掘・育成を目的とした「JFAストライカーキャンプ」が昨年、トライアルという形で再開した。2006年以来、14年ぶりの開催となった同活動にはどのような狙いがあるのか。ストライカー育成において、日本サッカー協会(JFA)が掲げるビジョンや今後の展望などについてお伝えする。

世界のサッカーの流れを踏襲 ポジションに特化した活動

2020年12月、JFAストライカーキャンプトライアルが開催された。2006年以來の開催となった同キャンプでは、全国各地からU・14年代の選手16名を招集し、「ストライカーになる!」のテーマの下、3日間のトレーニングを行った。限られた時間ではあったが、オン・ザ・ピッチでのシユートテクニクに特化したトレーニングに加え、オフ・ザ・ピッチでもレクチャーや個人面談、フィードバックを行うなど、ストライカーになるためのさまざまなエッセンスを盛り込んだ。

このキャンプに関して、前JFAユース育成ダイレクターで選手の指導にもあたった池内豊氏(現、JFAアカデミー福島EASTチーフコーチ)は、「選手たちは3日間でこれまで打ったことがないほどの数のシユートを打った。短期間で成長したことを確認することができた。キャンプ後の彼らのプレーを見ていると成果は明らか」と手応えを語る。

こうしたポジションに特化した活動は世界でも着目されている。今年1月に行われた第12回JFAフットボールカンファレンスの中で、アーセン・ベンゲル氏(FIFAグローバルフットボールデベロップメントチーフ)も「トレーニングは個別化が重要で、個人のキャリアを

伸ばすためにも、トレーニングセッションでそのポジションに対する個別の取り組みが必要になっている」と提言している。

その点において、日本ではGKの発掘・育成を目的としたナショナルGKキャンプが1999年から継続して行われている。回を重ねる中で指導内容はブラッシュアップされ、現在ではU・24日本代表の大迫敬介(広島)のように若くしてJリーグでレギュラーとして活躍する選手、あるいは小久保玲央(ライオン)やSLベンフィカ/ポルトガル)のように、既に海外に活躍の場を移している選手を輩出するなど、取り組みの成果は出てきている。

そうした中、長年の日本サッカーの課題とも言える「得点力不足」を解消すべく、JFAが再始動させたのがストライカーキャンプだ。2003〜06年に開催されていたキャンプでは、永島昭浩、武田修宏、福田正博、黒崎久志、長谷川祥之といった歴戦のストライカーがコーチとして参加。当時のキャンプ参加者から、柿谷曜一朗(名古屋)や大迫勇也(ブレーメン/ドイツ)、川又堅基(千葉)ら、後にサムライブルー(日本代表)に名を連ねる選手たちが巣立っている。

その後、世界のサッカーの流れが変化する中で、JFAは、日本が世界と戦うために優先して強化すべ



昨年トライアルとして開催されたJFAストライカーキャンプ。U-14年代の選手たちが切磋琢磨した

きポイントを見直したため、ストライカーキャンプは一時休止された（07年からナショナルトレーニングキャンプU・16のファンクショントレーニングに移行）。しかし、各ポジションに優秀な選手がそろい、個人戦術や組織力もレベルアップして世界と対等に戦える十分な素地ができ上ってきたことから、満を持してストライカー育成に再び着手することにした。

反町康治JFA技術委員長も「ストライカー不足と評価される悔しさを晴らすような選手が出て

議論を重ねながら理想のストライカー像を

では、実際に日本ではどのようなストライカーを発掘・育成すべきなのか。池内氏は「ゴールを奪う力を持っているのは大前提」としつつ、JFAとしての考えをこう話す。

「まず、世界における日本人ストライカーの現在地を考えると、優れたテクニックを持つ“2列目”の選手が多く生まれ、彼らのようなタイプの選手が中盤、そしてFWとしてゴールを奪う役割を担っている傾向にある。大型で、パワーを生かすタイプは、日本人の身体的特徴を踏まえても、なかなか出てきていないのが現状。そういう中でストライカーの定義付けをするのであれば、『ゴールから逆算したプレーができ、ポストプレーをこなしながら、ゴールへの推進力がある選手』としてもいいのではないかと考える」

とはいえ、世界を見渡すと、リオネル・メッシ（アルゼンチン）のようにドリブル突破を得意とするタ

イプやルイス・スアレス（ウルグアイ）のように個人での打開もゴール前でのシュートも長けているタイプ、ロベルト・レヴァンドフスキ（ポーランド）のようにポストプレーやゴール前でのシュートのスペシャリストタイプなど、さまざまなタイプのストライカーが各国にいる（下表参照）。『このタイプこそ日本人ストライカーの理想』と切り切るのは現状では難しく、『これこそ、日本が求めるストライカー像なのではないか』といった多くの議論を重ねていくべき段階にある」と池内氏は続ける。

サムライブルーの大迫勇也などは、屈強な相手DFに對しても当たり負けをしない。その強くしなやかな身体を生かしたポストプレーは的確で、2018 FIFAワールドカップロシアにおいては、ポストプレーからチームがシュートに至った回数で全チームのランキングトップに入っている（下表参照）。しかし、大迫のようなタイプで、世界を舞台に戦えるストライカーは日本ではまだ少ない。



世界にもさまざまなタイプのストライカーがいるが、それぞれチームの中心として君臨している（写真はポーランドのロベルト・レヴァンドフスキ）

■2018FIFAワールドカップロシアでポストプレーからチームがシュートに至った回数

順位	選手名	回数
1	大迫勇也（日本）	8回
2	ゴンサロ・ゲデス（ポルトガル）	6回
	ロメル・ルカク（ベルギー）	
	ジェゴ・コスタ（スペイン）	
	ラダメル・ファルカオ（コロンビア）	
	マリオ・マンジュキッチ（クロアチア）	

※パスが成功してシュートに至った回数。センターFWで先発出場した試合が対象
 出典：博報堂「データで振り返ると新たな発見が—2018 FIFAワールドカップロシア大会—」

■ヨーロッパで活躍するストライカーの分類

分類	選手名
①個人のドリブル突破からのシュートを得意としている	リオネル・メッシ（170cm／アルゼンチン）
	モハメド・サラ（175cm／エジプト）
	サディオ・マネ（175cm／セネガル）
	キリアン・エムバペ（178cm／フランス）
	ソン・フンミン（183cm／韓国）
②個人の打開、ゴール前のシュートもコンスタントに決める	ルイス・スアレス（182cm／ウルグアイ）
	チーロ・インモービレ（183cm／イタリア）
	クリスティアーノ・ロナウド（185cm／ポルトガル）
③ポストプレーとゴール前のシュートのスペシャリスト	ロベルト・レヴァンドフスキ（185cm／ポーランド）
	ハリー・ケイン（188cm／イングランド）
	エルリング・ブラウト・ホランド（194cm／ノルウェー）
	カリム・ベンゼマ（187cm／フランス）
	ロメル・ルカク（190cm／ベルギー）

※カッコ内は身長と国籍



特集

ストライカー育成

一方で、スピードを武器にする浅野拓磨(ポーフム/ドイツ)や、2列目やサイドを主戦場とする仲川輝人(横浜F.M./2019シーズンのJ1リーグ得点王)らも高い得点力を持っており、彼らは日本人の特徴を生かしたストライカーであるとも言える。最近では、万能タイプのオナイウ阿道(横浜F.M.)らもストライカー候補に名乗りを上げている。

どういったストライカーを日本の中で育成していくのか、また、そのために育成年代では何に取り組むべきなのか、ストライカーキャンプをきっかけにして多くの議論が交わされることが期待されている。



サムライブルーの浅野拓磨は、持ち味のスピードを発揮して活躍する

得点力不足の解消に向けて ゴール前でのトレーニング は必須



日常のトレーニングから「ゴール前の攻防」を増やすことが求められる

ストライカーを育成する、または得点につなげるための要素として、ゴールへの意欲はもちろん、スピードや高さ、ボディークンタクト、シュートテクニック、決断力などさまざまなことが挙げられる(下図参照)。しかし、それらを高めていくことを考えると、ゴール前での攻防のトレーニングが不足しているというのが課題として挙げられる。

池内氏は「意識的に『ゴール前のトレーニング』を増やさなければ、得点力不足の課題は解消されない」と話す。また、今年度からJFAユース育成ダイレクターに就任した影山雅永U・20日本代表監督も「ゴール前のトレーニングが圧倒的に不足している。スペイ

ンのサッカーが世界を席巻し、日本もボールポゼッションを重視する流れに乗る中で、シュートを打つというサッカーの本質から外れてしまった部分があると感じる」と、同様の見解を示している。

U・17日本代表の森山佳郎監督も、「得点力不足の課題を解決する上で、そもそもゴール前のトレーニングは足りているのか。世界のストライカーは、前を向く準備をし、前を向いたら自然にしかける姿勢を常に持っている。ペナルティーエリアに入れない、シュートを打たせてもらえないといった厳しいトレーニング環境をいかにつくっていくかが大切」と指摘する。

そのような現状を踏まえ、昨年のストライカーキャンプトライアルではゴール前のさまざまなシチュエーションを想定したシュートの反復練習を徹底して行った。短期間のキャンプではあったが、選手たちのシュートテクニック、そしてゴールを奪うことに対するメンタル面を含めた成長が見取れたのは大きな収穫だ。

しかし、キャンプのトレーニングだけで終わるのではなく、参加した選手たちがそれを所属チームに持ち帰り、自発的に自身の課題解決に向けたトレーニングに取り組み、またチームメイトにも良い刺激を与えることで、このキャンプもさらに意味のあるものになっていく。

サムライブルーの合宿では、大迫

得点につなげるための要素

得点をとるための素質・素養がある

- ゴールへの意欲(ゴールからの逆算を常に意識してプレーしている)
- スピード、高さ、ボディークンタクト、シュートテクニック、決断力、さまざまなボールに反応できる身体能力など

働き掛け

シュートにつながるテクニック(ゴールは動かないからこそ特に大切な要素)

- ・シュートのスピードと正確性
- ・ワンタッチシュート(ヘディング、ボレーなど)
- ・ミドルシュート力
- ・コントロールからシュートのスピード
- ・シュートに持っていくためのコントロール(浮き球、あらゆる角度から)
- ・ドリブルからのシュート
- ・左右両足を使える
- ・動きながらのコントロール

シュートにつながる動き

- ・マークを外す動き、タイミング
- ・ワンタッチでシュートを打つための動き
- ・ダイアゴナル、プルアウェイ

シュートにつながるパス、クロス

- ・クロス
- ・スルーパス
- ・コンビネーションからのラストパス

セットプレーのキッカーの養成

勇也や南野拓実(リバプール/イングランド)、久保健英(レアル・マドリッド/スペイン)らが、練習の後に、残ってシュート練習をする姿が幾度となく見られる。トップ選手たちもそれだけシュート練習を大事にしているのだから、育成年代の選手たちが地道にシュート練習に取り組むのは当然のことと言えるだろう。

ストライカーキャンプは単にその期間における強化だけではなく、「得点力不足という課題に対して取り組むべきこと」について、日本全体で考える新たなきっかけにしたいと、JFAは考えている。

今後もストライカーキャンプを継続する中で、ゴール前のトレーニングの必要性を発信し続け、全国の指導者と共に理想的な日本人ストライカーの発掘・育成に取り組んでいく。

影山雅永

U-20日本代表監督

対談

森山佳郎

U-17日本代表監督



特集 ストライカー育成

まずはチャレンジさせてみよう!

年代別の日本代表を率いて世界と戦ってきた二人の指揮官は、ストライカーに必要な素養と、それを育む指導をどのように考えているのか。影山雅永U-20日本代表監督と森山佳郎U-17日本代表監督に話を聞いた。

○オンライン取材日:2021年6月18日

型にはまったFWは
相手からしたら怖くない

——優れたストライカーに共通しているものは何だとお考えですか。

影山 シンプルですが、点を取りたいという強い気持ちです。

森山 普段から「俺が点を取って、チームを勝たせるんだ」という意気込みで試合に臨んでいる選手は、ほかの選手とは違います。「エースのお前が点を取れ」と言われてきたタイプは、たかましい点取り屋になることが多い。誰が点を決めてもいいというチームでは、ストライカーらしいストライカーはなかなか育つてこないと思います。点取り屋としての素質を持っていても、連係に難ありと判断されて控えに甘んじる選手もいます。FWは絶対機でシュートを外しても「何かありましたか」とふてぶてしい顔をするくらいでいい。失敗を恐れないメンタリティーを持つていくことが重要です。

影山 近年、日本の社会では失敗しないことが良しとされる風潮もありますが、サッカーではリスクを冒してでも果敢にチャレンジしてほしい。私も森山監督

も、積極的にトライするように選手たちに言っています。指導者の仕事は、ストライカーの資質を持ったタレントを見いだし、点を取る能力をさらに引き出すことだと思っています。

森山 FWでもいろいろなタイプがいますからね。日本代表で活躍している浅野拓磨選手はスピードで裏に抜け出しますし、U-24日本代表の上田綺世選手（鹿島アントラーズ）は絶妙なオフ・ザ・ボールの動きでマーカーを外して点を取ります。選手一人一人の特長を見極めて指導しなければなりません。

影山 とはいえ、型にはめて教え込んでしまうと、選手は指示通りのプレーしかなくなります。

森山 そう、指導者が教えられないこともあります。（Jリーグ通算得点ランキング2位の）佐藤寿人さんの話ですが、彼は現役時代に元イタリア代表FWのフィリップ・インザーギのビデオを擦り切れるまで見て、研究していました。やはり、学びたい、身につけたいという強い意志がないと本当の力にはなりません。指導者から教えられたことをそのままやるだけでは突き抜けて成長し

ていくことはない。型にはまったFWなんて相手からしたら怖くないですから。

——ストライカーの資質はどのようなところに垣間見えるものですか。

影山 トレーニングを見ていれば分かります。例えば、最前線で相手を背負ってくさびのパスを受け

たときのファーストタッチ一つをとつてもそう。何も考えずにポストプレーをこなして味方に落とす選手もいますが、強引にターンしてゴールに向かってもいいんです。縦パスを受けたとき、ワントラップでシュートが打てる場所にボールを置く選手には素質を感じます。

森山 最初からその可能性が見えなくても、指導者が促すことで伸びる選手もいます。私は「今はできないでも、君なら絶対に成長できる」とチャレンジさせています。やはり結果が伴わないと自信はつきませんので。どんな欲にゴールを狙い続ける姿勢を植え付けていくことも必要でしょう。FWがまずゴールを狙う意識を持たなければ、チームのコンピネーションも生きません。状況に応じて判断することも大事で

すが、強引にシュートを打つてもいい。自ら局面を打開するプレーをとがめることはありません。

影山 (指導者が選手に) リスクを冒すことを許容してあげれば、選手も少しずつ変化していきま

チャレンジしながらが一番のミス

——ストライカーがミスを恐れない環境をつくるために、年代別代表ではどのような取り組みをしているのでしょうか。

森山 U-17日本代表では、トレーニングキャンプの初日に「みんな光るものを持っているから、ここに呼ばれているんだ。とにかく自分の持ち味を出してくれ。ミスはしてもいい。チャレンジしないことが一番のミスだ」と選手に伝えていきます。ミーティングでは、海外の指導者や選手たちが、日本の選手について話しているインタビュー映像を見せたこともあります。元名古屋グランパス監督のアーセン・ベンゲルさん、Jリーグのヴィッセル神戸で活躍した元スペイン代表のダビド・ビ



森山佳郎U-17日本代表監督



影山雅永U-20日本代表監督

ジャさん、サガン鳥栖でプレーした同代表のフェルナンド・トーレスさんもみんな同じ見方をしていました。「日本の選手たちはミスを極端に恐れている」と。この問題は、私たち日本の指導者が思っている以上に、根深いものと捉えています。選手たちには「悔しくないのか」とハッパをかけました。ミスしてボールを奪われたら、取り返せばいい。「まずはチャレンジしてみてください」と言い続けています。

影山 森山監督がチャレンジ精神をたたき込んでくれたこともあり、U-20日本代表に昇格してくる選手たちはたくましいです。私が率いた2019年のU-20ワールドカップに出場したメンバーの半数近くは、U-17日本代表時代にワールドカップをはじめ、アフリカ、アジアなどで海外遠征を経験していました。彼らは自己表現することが習慣化しています。ヨーロッパ、南米の強豪国と対峙しても、気後れすることは一切ありません。タフになっていると感じます。

——年代別ワールドカップでは、世界トップレベルのストライカーたちを目の当たりしてきたと思います。違いは感じましたか。

影山 臆する必要などないのですが、世界との差は認識して

います。19年のU-20ワールドカップで大会得点王になったノルウエーのFW、エルリング・ブラウト・ホランド(現、ボルシア・ドルトムント)には、その1年前のリスボン国際トーナメントU18でその能力をまざまざと見せつけられました。あのとき、日本はノルウエーに引き分け以上で優勝することができたのですが、最終試合を支配しながらもハーランドの2発だけでやられたんです(●12)。われわれも「なんだ、この選手は！」と驚きました。試合後、ノルウエーの監督に聞くと、「彼は特別なストライカーなんだよ」と教えてくれました。本当にその言葉通りでした。ポルトガルのジョアン・フェリックス(現、アトレティコ・マドリード)もそうですが、年代別代表で対戦した選手たちが、現在、UEFAチャンピオンズリーグや各国の代表で活躍しています。日本の選手たちにとっては刺激になっています。「彼らはもう大舞台で活躍しているのに、俺たちはまだまだです」という声も聞きました。森山監督も同じようなことを選手から聞いていると思います。確か17年のU-17ワールドカップでイングランド代表と

対戦したときは、フィル・フォーデン（現、マンチェスター・シティ）がいましたよね？

森山 フォーデンだけではなく、カラム・ハドソン・オドイ（現、チェルシー）もいました。2人とも既にトップの代表でプレーしています。当時、U-17日本代表でワールドカップに出場した菅原由勢（AZアルクマール）は、UEFAヨーロッパリーグでマンチェスター・ユナイテッドと対戦したときに、U-17イングランド代表で10番を背負っていたアンヘル・ゴメスと顔を合わせ、「あのときの日本の選手だな」と言われたそうです。鈴木冬一（ローザンヌ）、谷晃生（湘南ベルマーレ）らに聞いても、「17年のイングランド戦が、その後のキャリアにおいて自分の基準になっている」と話していました。年代別ワールドカップの経験は大きいですよ。実際に大会を終えた後、当時のメンバーたちは続々とJリーグでデビューしました。頭の中身がガラリと切り替わったのでしょうか。飛躍的な成長を遂げたと思います。

ゴールに迫るプレーを 思う切のやみぞつぼ

——世界大会での経験を経て、

FWを育てる上で再検証した点
はありますか。

森山 前を向くための準備、相手との駆け引きなど、学ぶべきことは多々ありますが、強調したいのは、ゴール前での強度の高いトレーニングを増やすことです。19年のU-17ワールドカップにおいて、日本はアタッキングサードに侵入した回数で全出場国のトップ4に入りながらも、ペナルティエリア内のタッチ数は平均値を下回っていました。つまり、厳しいプレッシャーがかかるペナルティエリアにはほとんど侵入させてもらえなかったのです。強豪相手には、なかなかシュートを打たせてもらえないのが実情です。ゴール前のチャンスは一瞬です。ワンタッチまたは相手をかわした次のタイミングで打つためのスピード感がないと難しい。

ヨーロッパなどの列強を超えるには、国内の試合で世界基準の状況をどれだけつくれるかにかかっています。日本ではペナルティエリアにすんなり侵入できているのに、世界に出た途端、相手の迫力に圧倒されてシュートを打てなくなるようでは、レベルアップしていきません。そのため、われわれは練習からシュートを打たせないための厳しい守備を徹底してい

るのです。

影山 世界を意識すれば、練習から高い強度を求めるのは当然のことです。日本が戦うのは海外のチームです。代表での活動の時間は限られています。そこはこだわっていきなさい。日本国内でも厳しい守備の中でゴールを狙う姿勢を打ち出すことが必要だと考えます。

森山 以前、研修のためにスペインのバルセロナ、エスパニョール、ビルバオなどの練習を視察したとき、どのクラブのどの年代でも、自分たちと相手のゴールを近づけて少人数のシュートゲームをしていました。では、日本はどうか。そもそもゴール前のトレーニングは十分でしょうか。いま一度、考えたほうがいいかもしれません。

——最後に、全国の指導者へのメッセージを込めて、ストライカーを育てていく上で大切にしたいことは何ですか。

影山 繰り返しになりますが、ピッチでリスクを冒すことを許容していただきたい。特にゴールに迫っていくプレーを思い切りやらせてほしいですね。選手自身が「俺が決めてやるぞ」というメ

ンタリティーを育んだとき、指導者がコーチングするチャンスがきます。日本代表のコーチングスタッフから聞いた話ですが、よくシュートを打つ久保建英選手（ヘタフェ）でさえ、大迫勇也選手（ブレメン）と南野拓実選手（サウサンプトン）の積極的な姿勢を見て「僕なんかまだまだ」と自戒していたようです。大迫選手と南野選手は長年ヨーロッパでプレーし、習慣として体に染みついてい

るのでしょね。ゴール前では常にリスクを冒してチャレンジしていくのがサッカーなんだ、という

指導をしていければ、選手はどんな変わっていくと思います。

森山 リスクを冒した先にある得点の喜びをもっと感じることができる雰囲気をつくってもらいたい。もちろん、その得点につながるラストパスを出した選手もいれば、その前に展開した選手もいる。さらにその先をたどれば、相手からボールを奪った選手もいます。ゴールから逆算してプレーすることを意識づけ、今以上にチーム全員でそのゴールに歓喜してほしいと思います。



日々の試合と練習を厳しいプレッシャーのもとで行うことが、ストライカーの成長を促し、日本サッカーの発展につながっていく（写真は高円宮杯JFAU-18サッカープレミアリーグ2021）



Jクラブの取り組み ～ガンバ大阪



大黒将志ストライカーコーチと共に 日本を代表するストライカーを育成する



点取り屋を生むために ポストを新設

2021年1月、ガンバ大阪は元日本代表FW大黒将志氏のアカデミーストライカーコーチ就任を発表した。Jリーグアカデミーでも前例のないポストを新設した理由を、坪倉進弥ヘッドコーチング(HOC)はこう説明する。

「アカデミー年代の選手を育

成する中で、やはりゴールを奪える選手を輩出したいという思いがあり、それならばストライカーに特化したコーチがいてもいいかなと。GKコーチはどのクラブにもいますが、ゴールを奪つためのコーチにFW陣を指導してもらって、日本を代表するストライカーを育てたいと考えました」

その大役を担う大黒氏はG大阪のジュニアユース、ユース出身。坪倉HOCは「大黒コーチはG大阪のアカデミーで育っていますし、日本を代表するストライカーでした。彼が経験したこと、彼にしか伝えられないポイントを伝えてほしいと考えました」と説

明する。体格的に恵まれているわけではないが、ポジショニングや動き出しの妙、多彩なフィニッシュのパターンで多くのゴールを生み出してきた大黒氏は、ストライカーを育てる人材としてまさに適任と言える。

大黒コーチは基本的にはチームのトレーニングに参加し、コーチの一員としてトレーニングをサポートしながら、前線の選手にアドバイスを送っている。また、FWに特化した動き出しのタイミングや正しい体の向き、ボールを動かしながらのフィニッシュ、映像編集による指導など指導項目は多岐にわたり、細かく丁寧にアドバイスする。

FWの意識が高まることで 全体に好循環が生まれる

新チームが始動し、大黒コーチ

が就任してから約半年が経過した。その間、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で約5週間、活動を休止した時期もあったが、ストライカーコーチ導入の効果は如実に出ていますと坪倉HOCは語る。

「FWの動き出しについて丁寧に指導していますが、FWがどれだけ良いポジションを取って素早い動き出しをしても、ボールが出てこないゴールにはつながりません。FWを指導する中で、パスの出し手側がFWの動きを常に気にするという相乗効果が表れました。他の選手のFWに対する意識が高まり、チーム全体での前への推進力も上がっています」

G大阪は攻撃的なスタイルをクラブのフィロソフィーとしている。これまでブラジル人選手がFWを務めることが多かったが、坪倉HOCは「フィニッシュに関わる人材はアカデミーで育てたい」と力を込める。得点力に優れたFWがトップチームに昇格してJリーグで活躍すれば、その先には日本代表や海外移籍も待っている。坪倉HOCは移籍

市場における価値の観点からもストライカー育成の重要性について、「ストライカーのように勝負を決められる選手の市場価値は高い。そういった選手を育て、海外へと送り出せば、いろいろな意味でクラブに還元される部分があります」と説明する。

「大黒コーチが育てるFWに対しては、トップチームへの練習参加や海外遠征、海外留学も含めてより高いレベルの環境を与え、いろいろなることを肌で感じられるような環境をつくっていきなさい」と坪倉HOC。大黒コーチと共に世界にも通用するストライカーの育成を目指している。



ガンバ大阪時代のアカデミーで育ち、トップチームでプロデビューを果たした大黒将志コーチ。その後、11クラブを渡り歩き、Jリーグ通算177ゴールを記録した

ゴールは 自分を証明する手段



**10代で出会った指導者に
芯の強さを育んでもらった**

——ストライカーとしてプレーするようになったきっかけを教えてください。

岡崎 小学2年生に宝塚ジュニアFCでサッカーを始めたときはDFだったのですが、4年生のとき、FWを任されていた選手が引越して「FWをできる人はいないか」ということになり、僕が立候補しました。試合でたくさん点を取っていたので、そのときからFWとしてプレーするようになりました。

——宝塚ジュニアFCはどんなチームだったのですか。

岡崎 田尻克則さん（故人）というアイデア豊富な監督の下、みんな伸び伸びとサッカーをしています。田尻さんはどの選手も平等に試合に出場させる監督で、選手をさまざまなポジションでプレーさせていました。かくいう僕も、FWだけではなくGKとしても試合に出ていたんですよ。

——それは意外ですね。

岡崎 幼い頃、2歳年上の兄と近くの公園でよくサッカーをしていたのですが、そこにある遊具をゴールに見立ててシュートを打ち、一人はGKとしてそれを止めるとい

う遊びに明け暮れていました。そんなこともあって、GKが得意だったんです。もともとFWもやりた

いから、試合があるときは前半にGK、後半はFWでフル稼働していました。自分たちのゴールを守って、相手のゴールを狙う。決定的な仕事をするヒーローのような役割を演じたいという気持ちが一

——小学生時代も含めて10代のときに点を取るために工夫していたことは何ですか。

岡崎 ボールが来たら飛び込む、ゴールが見えたらシュートを打つ、そういう積極性を大事にしています。宝塚ジュニアFC時代、田尻監督のほかに山村俊一さんというコーチにサッカーを教わりました。山村さんは「小手先のテクニックを使ってシュートに持ち込むより、外してもいいから全てインス

テップで打て」と。「膝から上の浮き球には全て頭から飛び込んでいけ」という豪快な方でした。少し偏っているかもしれないけれど、芯の通った指導が僕には響き、プロになつてからも「生ダイビングヘッド」を座右の銘として掲げてきました。

——プロ1年目はトップチームで出場機会を得ることができず、サテライトでボランチやサイドバツ

クとしてプレーすることもありました。FWとして大成した理由をどう分析されていますか。

岡崎 複数の要素が絡んでFWとして勝負できるようになったと思います。技術を磨いたことも、体を鍛えたことも、考え抜いたこともそうです。一つ言えるのは、ゴール前に思い切り飛び込んでいくこと、積極的にゴールを狙うことなど、小さい頃からやってきたことをプロになつても突き詰めた結果、それが自分の長所として残ったのかな、と。

——常にゴールを狙っていた、と。

岡崎 サイドやボランチでプレーすることになつても、最終的に自分が勝負すべき場所はゴール前だという考えを捨てず、それを貫きました。

僕をFW以外のポジションで起用した背景に、例えば、FWでプレーをさせるのはまだ早いから中盤で試してみようという狙いがあったのかもしれない。でも、僕はその要求に応えようとするだけではなく、「FWとしても通用することをアピールしよう」と考えながらプレーしていました。

自分が本当にやりたいことをするには、芯の強さが必要です。工夫することや考えることも大事ですが、それ以前に「こうなりたい」という意志がないと、考

ゴール前の気迫あふれるプレー、周囲を生かす献身的な動きでドイツ、イングランド、スペインで世界トップクラスのDFとしてのぎを削ってきた。日本を代表するFW、岡崎慎司選手にストライカー論を聞いた。

○オンライン取材日：2021年6月25日

えてプレーすることにつながりません。その点、僕は小中学生で田尻監督や山村コーチに、高校時代には黒田和生監督にFWとして勝負するんだという信念を植え付けてもらったと思っています。

FWは得点なくして説得力がない

——海外に行つてからのターニングポイントはいつだったと捉えていますか。

岡崎 マインツに加入した13年が僕のキャリアの分岐点と言えます。順風満帆だったわけではありましたが、そこから2カ月はゴールから遠ざかりました。幸運だったのは、そのときチームの点取り屋の枠が空いていたこと。さまざまな選手が1トップを試されたのですが、誰もフィットしなかった。そんな中、徐々にチームの特徴を理解し始めた僕が第10節のブラウンシュバイク戦で久しぶりにFWとして出場し、2得点を挙げた。その試合がきっかけとなり、シーズン2桁得点を挙げる事ができました。

——当時の監督、トーマス・トゥヘルは先のUEFAチャンピオンズリーグでチェルシーを優勝に導いています。

岡崎 トゥヘル監督は速攻型のチームをつくるのがうまく、マインツでも堅守速攻の戦術を浸透させていました。守備ブロックをつくってから相手ボールを奪い、素早く前線に送るというサッカーはイメージしやすかったですし、僕にフィットするだろうと予想していました。トゥヘル監督はかたくなに誰かを1トップで起用するのではなく、誰がイメージと近いかをプレーさせながら当てはめていった。アピールしやすかったですね。

自分のやりたいことを理解してもらうことが大事なんです

岡崎 そこには葛藤が生まれます。自分の希望を監督にくみ取ってもらいたい一方で、試合に出るにはチームのために戦うことも不可欠だからです。例えば、試合に出たいがために、本意ではないけれどFWとは異なる役割でチームの短所を補おうとします。そうすると、監督が「シンジは中盤がやりたいのか」と勘違いし、FW以外のポジションで起用するようになる。結果、僕は点を取るポジションで試されもせずに落選の烙印を押されます。まるで、好きな女の子に告白する前に振られてしまうような状態に陥るわけです(笑)。監督から自分の理想とする役割をくみ取ってもらえないと、選手はもどかしい。協調性があり、フォア

ザ・チームに徹する日本人のFWほど、海外でこの問題に直面しやすいと感じています。

19年にストライカーにこだわってスペインに移籍しました。ゴールと向き合い続けている理由は何かですか、

岡崎 選手として生き残る一つの手段ということもありますし、単にゴールを奪う瞬間が好きだというのも理由の一つです。FWが報われる瞬間って、ゴールを取ったときだけなんです。どれだけ巧みなポストプレーで仲間の得点をアシストしても、守備に走り回ったとしても、ゴールを奪わなければ認められません。ゴールがないと何もひっくり返らないと、FWをやっている感じがして、点を取ることには、自分がやってきたことを証明する最大の手段で、得点なくして説得力はないのかな。「点を取ることでだけか全てではない」という持論はありますが、

——世界トップレベルではどんなストライカーが求められると思いますか。

岡崎 ヨーロッパ最高峰のリーグは年々スピードが上がっているのは速い方がいいし、フィジカルに長けていた方がいい。そういう選手たちにあと一つ、例えば試合の流れを読む力や動きの質、味方と連携する柔軟性があれば、どのチームでも重用されるはず。なぜなら、身体能力の高い選手や体が大きい選手は、持って生まれ



2007年4月15日、川崎フロンターレ戦でプロ初得点を記録。真骨頂ともいえるダイビングヘッドでのゴールだった

た能力に頼りがちで、考えることや工夫して動く習慣がついていないから。一方、僕がレスタター時代に2トップを組んだジェイミー・パーディーは俊足でありながら自分へのパスを予測し、そのスペースを空けておくための準備を繰り返している。パーディーには二つの特長があるから、今でもトップレベルで活躍しています。

——最後に、優れたストライカーを育てる上で指導者にお願ひしたいことは。

岡崎 自分がここまでやってこられた要因を考えたとき、周りに何かを否定されたことが一度もなかった点が大きかったように思います。指導者の方々には、選手たちの特徴を引き出せるように見守ってもらいたい。内に秘めるタイプがいても、その秘めたものを発見して、選手が化けるためのサポートをしてもらいたいです。僕が清水のサテライトでボランチとしてプレーしていたときは、田坂和昭コーチ(当時)が「ゴール前に行つてもいいから絶対に(守備に)戻ってこい」と僕の意図をくんだ上で指導してくれたからこそ、ゴールを目指してプレーし続けていいんだと希望を抱くことができた。選手の希望を見だし、新たな道筋を立ててくれる指導者が求められるのではないかと思います。

小林悠選手(川崎フロンターレ)

練習から自分を追い込んで 強靱なメンタルを 身につけた



大学1年時に MFからFWに転向

——小林選手はいつ頃からFWとしてプレーしていたのでしょうか。

小林 小学生のときは、得点に絡むポジションではありましたが、おしゃれなスルーパスやDFの間に浮かせたパスなど、テクニカルなパスを出すことに楽しさを感じていました。高校時代まではゴールを決めるよりアシストの方が好きでしたね。拓殖大学1年生のとき、AチームのFWの選手がけがをしてしまい、練習試合のときに監督から「FWをやってみないか」と言われたのが転向したきっかけです。

——FWでのプレーに魅力は感じられたのでしょうか。

小林 それまではMFだったので、あまり相手DFと駆け引きをすることがなかったのですが、初めてFWでプレーしたときに、くさびを受ける動きに相手が食いついてくるのが分かって、その瞬間に背後に抜け出してボールをもらえた場面がありました。相手DFとの駆け引きの楽しさや奥深さを感じて、FWって楽し

いポジションなのかもしれない、と思いました。

——ストライカーとしての自信を深めたきっかけはありますか。

小林 1年生の時に関東大学サッカーリーグ2部で新人賞を受賞し、1部リーグのチームと混合の1、2年生選抜に選ばれて合宿に参加したのですが、そのときに「1部の選手がいる中でも結構やれるな」と感じました。その後、3年生で2部リーグの得点王になって、それはすごく自信になりました。

——学生時代に影響を受けたストライカーはいますか。

小林 一番参考にしていたのは佐藤寿人さんです。僕も身長がそんなに高いわけでも体格的に恵まれているわけでもないのに、動き出すときの駆け引きやワンタッチで決めるフィニッシュの動きはよく見ていました。僕自身にスピードがあればそんな駆け引きは必要なかったでしょうし、背が高くヘディングが強かったり、体が強かったりすれば違うプレースタイルになったと思います。相手のマークを外してフリーになることがゴールにつながると



川崎FがJ1初優勝を果たした2017シーズンはキャプテンとして歓喜の輪の中心に。自身も得点王、ベストイレブン、最優秀選手に輝いた

——MF時代と比べて、メンタルの部分にも変化はあったのでしょうか。

小林 大学2年の頃に先発で出るようになり、中盤とFWとではマインドを変えないといけないと気付きました。試合でMFがシュートを外すのと、FWがシュートを外すのでは重みが全く異なります。FWはシュートを決めなければいけない、という思考に変えていかなければならなかった。日々のシュート練習

攻撃的なサッカーでJ1リーグをリードする川崎フロンターレ。その中で攻撃をけん引しているのが小林悠選手だ。拓殖大学1年生のときにFWに転向し、その才能が開花。プロ入り後もコンスタントに得点を重ね、2016シーズンから5年連続で二桁得点を継続している。多彩な得点パターンを誇る点取り屋にFWとして大切にしていることを聞いた。

○オンライン取材日：2021年6月24日

での意識が大きく変わり、外すたびに「お前が外すとチームが負けるんだぞ」と自分に強く言い聞かせるようになりました。

**プロでも得点を量産
ゴールを決めて信頼を得る**

——MFからFWへと転向した
ことによる、生粋のFWにない
強みはありますか。

小林 FWをずっとやってきた選手よりもMFの気持ち分かると思います。中盤をやっていた分、パスの出し手の気持ちも分かれますし、どういう状況のときにどう動いてほしいかなど、出し手の考えを理解しながらプレーできる点がずっとFWをしてきた選手との違いだと思います。

——FWとして受けた指導の中で印象に残っていることはありますか。

小林 振り返るとFWとしての指導って一度も受けていないんですよね。FWの指導はFWだった人にしかできないと感じています。だからストライカー育成コーチみたいな存在は絶対に必要だと思います。僕が引退したら、自分が持っている知識や引き出しを若い選手に教えたいと今か

ら思っています。

——プロ入り初年度はけがの影響もあって試合出場は限られましたが、2年目から12得点と得点を量産しました。プロの世界で早々に活躍できた理由とは？

小林 試合で使ってもらえただが一番ですね。2年目はほとんど途中出場だったので、途中から出てゴールを決められる選手ということで当時の相馬直樹監督（現、鹿島アントラーズ監督）から信頼してもらいました。プレー時間は短かったですし、今よりも下手で、得点を決める以外に何もできない選手でしたけど、チャンスに必ず顔を出すような心掛け、そこで仕留めることにフォーカスしていました。チームにとつて、途中から出てくる若手がゴールを決めるといのはかなり大きかったと思います。

——ゴールを決めるために必要なことは何でしょうか。

小林 どれだけ試合を想定して練習できているかだと僕は思っています。練習でのシミュートがうまくても、試合になると決められなくなる選手は結構います。例えばシミュート練習で「ラスト3

本」と声がかかったとき、僕はその3本にめっちゃくちや集中して、ほぼ決めます。試合ではそういう本もシミュートを打ってませんし、練習でラスト3本と言われたときに決められないようでは試合でも得点は奪えないと思うので、練習からすごく意識してやっています。

**FWは特別なポジション
強い気持ちが大事**

——16年からは5シーズン連続で2桁得点を挙げています。相手に研究される中で、どのようにゴールを取り続けてきたのでしょうか。

小林 確かに、僕の背後への動き出しはかなり対策されて、早めにラインを下げるDFも増えてきています。でも、それだけに頼ってきたわけではなく、自分の中のプレーの引き出しがどんどん増えていきますし、練習からどうすれば向上できるか、どうすればゴールを決められるかを考えながらやっています。対策

されればされるほど自分が成長できると感じながらやっているの、2桁得点を続けられているのだと思います。

——けがの影響もあり、昨シーズンからは途中出場することも多くなりましたが、その中でも得点を挙げ続けられる要因は？

小林 ベンチスタートのときも、試合に入るときに自分を追い込むというか、「この試合を決めるのは俺だ」と自分に言い聞かせ、若い頃と同じメンタルで臨むようにしています。得点へのこだわりは年齢を重ねても変わりません

し、むしろより鋭くなってきたというか、研ぎ澄まされている部分もあります。自分が試合を決めてきたという自負があるからこそメンタルを高められるのかな、と思っています。

——FWとしてプレーする育成年代の選手たちへのアドバイスと、指導者の皆さんにお願いします。

小林 FWは特別なポジションだと思っています。ゴールを決めればヒーローになれますし、決めなければ批判されます。メンタルの強さがすごく大事なポジションなので、常に「自分が勝負を決める」という強い気持ちを持つてほしいと思います。練習中のシミュート練習から自分を追い込み、それを乗り越えていけば強いFWになれるはず。そういうメンタルを備えた選手が育ってくれば日本の将来は安泰ですね。指導者の方々には、FWの選手にもっとゴールを意識させてほしいです。今は守備やポゼッションに関わることも重視されますが、やっぱり得点を奪うことが大事だと僕は思っている、そこにこだわりを持たせてあげられるようにしてほしいですね。



DFとの駆け引きに長けた小林。フィニッシュの種類は左右両足やヘディングなど実に多彩だ



点が取れなかったら
次の試合で取れるように
全力で準備をするだけ

日本を代表するストライカーとして、海外でも活躍する大迫勇也選手。屈強なDFにも当たり負けしないポストプレーや多様なシュートなどを武器に成長を続けている。
サムライブルー(日本代表)でも得点を量産する前線のキーマンに、ストライカーとして歩んできた道のり、成長のターニングポイント、また、普段から心掛けていることなどについて聞いた。

○オンライン、取材日：2021年6月22日

しっかりと考えながら
少しずつ自信をつけた

——サッカーを始めた当初は、FWではなかったそうですね。

大迫 ポジションはトップ下でした。中学1年生のときに監督からFWでプレーすることを勧められ、実際にやってみると点を取る楽しさを感じることができました。トップ下のときも点を取るのが大好きで、守備の局面でも前に残ってしまいうことがありましたけど(苦笑)。

——練習ではどのようなことに気を付けていたのでしょうか。

大迫 少年団でサッカーをしていた小学生のときは、基本の反復練習を多くしていました。僕自身はシュート練習が一番好きで、何かに気を付けて練習するというよりも、楽しい雰囲気はありつつもその中で負けたくない気持ちを持ってプレーしていました。それで、サッカーにどんだんのめり込んでいきました。

——中学生年代で意識されていたことは？

大迫 監督がすごく厳しい方だったということもあり、サッカーに真剣に向き合うようになりました。プロになりたいという思いもあり、監督からも「頑張ればプロになれるぞ」とプレッシャーをかけてもらっていたので、それも良

かったと思います。キャリアのターニングポイントを聞かれると、中学での3年間と答えます。練習は厳しかったですが、選手としての基盤をつくってもらいました。

——自分の才能に対する自覚も、すでに芽生えていたのでしょうか。

大迫 中学2年生の後半くらいからですかね。高校生と一緒に練習をさせてもらっていたので、中学生相手であれば余裕を持ってプレーできるようになっていました。

——中学3年時の2005年10月

には、日本サッカー協会(JFA)によるGK+ストライカーキャンプ(西日本)に招集されました。

大迫 それまでは知らない選手とサッカーをしたことがほとんどなかったのですが、あまり居心地が良かったので、あまり居心地が良かった記憶があります(苦笑)。それはともかくとして、自分はそのような環境に慣れるまで時間がかかるタイプなので、中学生からそういう活動に参加できて、将来的には役立ったかなと思います。

——キャンプに参加して意識は変わりましたか。

大迫 キャンプには同年代のトップ選手が集まっていたので、その刺激をチームに持ち帰ることができたのは大きかったと思います。普段からより高い目標を持って練習を



高校3年時には、全国高等学校サッカー選手権大会で得点王に輝いた

する、という意識が変わっていき
ました。

——鹿児島城西高校に進学後は、
年代別の日本代表に選出されるなど、
飛躍を遂げていきました。

大迫 中学3年生の途中くらいから、自信はすごくありました。どのようなプレーをするか、しっかりと考えながら、少しずつ自信を付けていった感じですね。高校では結果を出すことによって自信を得られましたけど、もちろんチームメートにも助けられました。

——高校生になると、「点を取ってくれ」というプレッシャーをより強く感じるようになったのは？

大迫 いや、プレッシャーはなかったです。自信がありましたし、自分は点を取れると思っていましたので。

——点を取るために、自分のプレーを見つめる作業はしていたのでしょうか。

大迫 サッカーノートをつけていましたね。僕は中学、高校と片道1時間かけてバスで通学していたので、そこにいろいろ書き、サッカーについて考えました。疲れて寝てしまうこともありましたが、そこでサッカーを考える癖がついたと思います。

——自分のプレーを映像で見るともありましたか。

大迫 祖父が毎試合見に来て、映像を撮ってくれましたので、よく見ていました。自分のイメージと実際のプレーを照らし合わせるのはとても大事だと思うので、それも成長する上では良かったのかもかもしれません。

次にまたチャンスが来たらもう一回打ちいく

——高校卒業後は、鹿島アントラーズに加入しました。常勝軍団の一員となって得られたことは？

大迫 練習に参加したときから、激しくて厳しくて、個々のレベルがしっかりとっていると感じました。僕にとって幸運だったのは、ブラジル人のマルキーニョス、田代有三さん、興梠慎三さん、佐々木竜太さんと、いろいろなタイプのFWがいたことです。みんなリー

グでもトップの選手たちですからそのプレーを見ながら「こんなこともできるんだ。よし、自分もやってみよう」と練習で試したりしました。それはすごく楽しかったですね。

——その後はサムライブルー（日本代表）に選出され、ドイツ・ブンデスリーガのクラブに在籍し、FIFAワールドカップに2度出場しています。国際舞台でプレーする中で、ストライカーが背負う重任とどのように向き合っていますか。

大迫 調子が良いときは良いし、悪いときは悪い、と割り切って考えています。

——そうやって割り切れるものなのでしょうか。

大迫 これだけ長くプレーしているとそうなります（笑）。点を取れなかったことを引きずっても、しょうがないですからね。点が取れなかったら、次の試合で取れるように全力で準備をするだけ。その繰り返しですがサッカーだと思っています。

——引きずらないための対処法は？

大迫 練習するしかありません。気持ちがあすつきりした、と思えるまでやります。

——試合中に決定機を逃した後の

気持ちの切り替えはどうしていますか。

大迫 「次、打てば入る」という感じですね。これも引きずってもしょうがないですし、シヨックを受けているところを少しでも見せると、相手が喜ぶだけなので。すぐ切り替えて、次にまたチャンスが来たらもう一回打ちにいけます。

——ブンデスリーガでは、フィジカルの強いDFとのマッチアップが多いと思います。そこで心掛けていることはありますか。

大迫 単純に体を当てるだけではダメです。当たるタイミングや角度を考える。それから、体の軸がブレないようにする。フィジカルについては着実に上がっているし、まだまだこれから良くなると思っ

ているので、個人練習にも取り組んでいます。

——森保一監督が率いるサムライブルーでは前線の柱であり、勝敗の責任を背負う立場になっています。プレーする上で大事にしていることはありますか。

大迫 まずは自分がしっかりとプレーを見せること、違いをつくり出すことを心掛けています。結果的にそれが若い選手やチーム全体の助けになると思いますので。

——大迫選手が目指すストライカー像をお聞かせください。

大迫 苦しいときにチームを助けられる存在、というのが理想のストライカー像です。点がほしいときに取れるFWを自分自身は求め続けています。

——育成年代でFWとしてプレーする選手たちにアドバイスをいただけますか。

大迫 自分自身の経験を踏まえて言うと、中学3年間が一番伸びる時期、一番大事な時期だと思います。プロになれるかなれないかはそこで決まるとも思うので、サッカーに真剣に取り組んでほしいですね。そして、しっかりと土台をつくってほしい。

高校生年代では、プラスアルファを求めていかなければいけないと思います。ヨーロッパでは16〜18

歳の選手が僕らプロと一緒に練習をしています。

ストライカーなら点を取るイメージを持つことも大事ですが、育成年代から強い体もしっかりとつくってほしいですね。

——一方で、指導者に意識してほしいことは何かありますか。

大迫 ドイツでは、プロの環境に高校生の選手がいることが当たり前になっていきます。かつてのドイツはそこまで若い選手が出ていなかったけれど、育成年代の指導システムを変えてそうなった、と。日本もそれに追いつかないといけないと思いますし、16歳や17歳でプロに交じってプレーする選手をどんどん増やしてほしいと思います。

——最後に、サムライブルーを応援してくれているファン・サポーターへメッセージをお願いします。

大迫 FIFAワールドカップカタール2022のアジア最終予選がもうすぐスタートします。アジアのレベルはどんどん上がっていますし、ヨーロッパのレベルはそれよりも上がっていると思うので、まずは最終予選で良い結果を残す。そして、来年のワールドカップでアジア代表としてヨーロッパ勢、南米勢と戦い、しっかりと勝ち切りたい。そのために成長していきたいです。



チャンスを逃してもすぐに切り替え、またシュートを狙いに行くと話す大迫選手

CONEXT 21 PRO

[コネクト21 プロ]



©2020 adidas Japan K.K. adidas, the 3- Bars logo and the 3-Stripes mark are trademarks of the adidas Group.

2021年FIFA 主要大会
公式試合球



天皇杯 JFA 第101回全日本サッカー選手権大会

101回大会が開幕！新たな歴史の一步を踏み出す

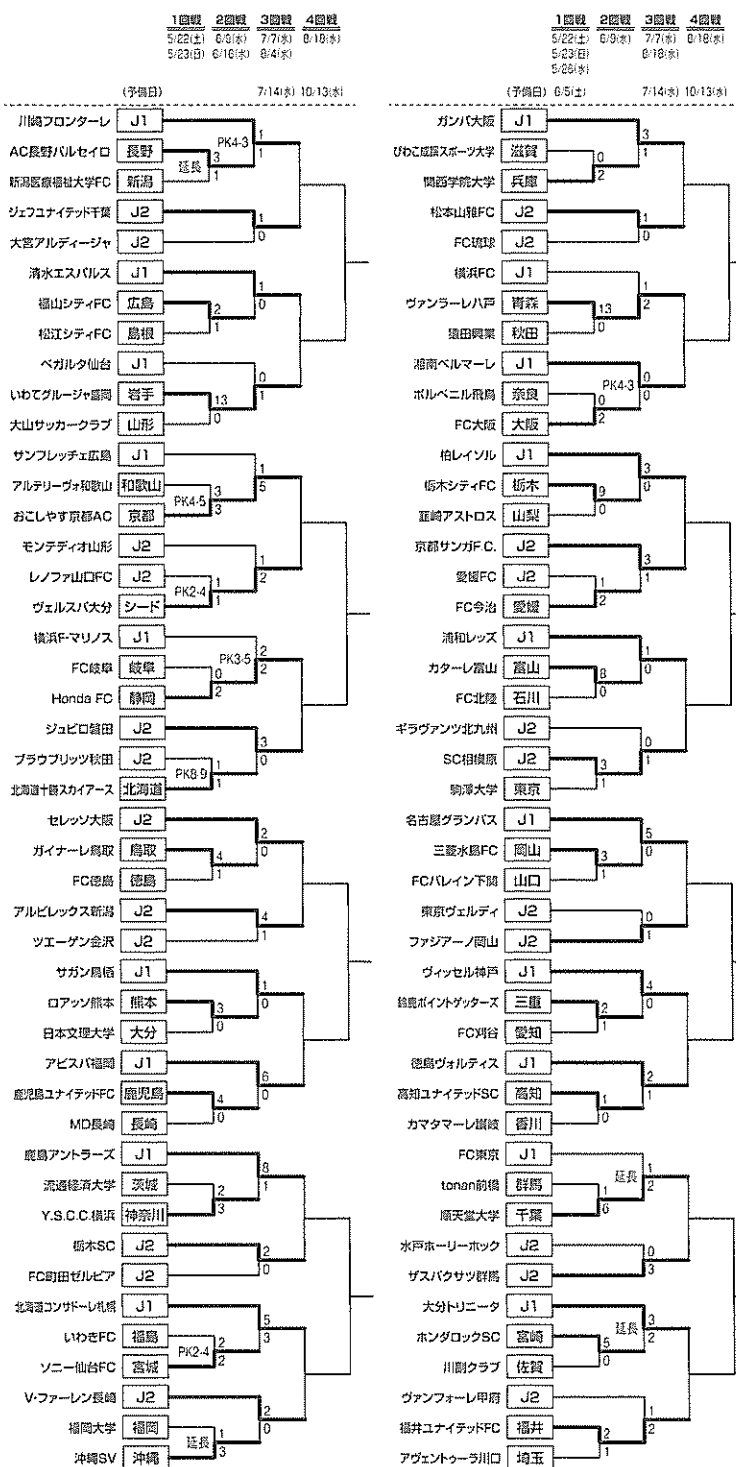


1回戦・SC相模原vs駒澤大学



2回戦・川崎フロンターレvsAC長野パルセイロ

1回戦～ラウンド16(4回戦)組み合わせ



※各々決勝以降の組み合わせはラウンド16(4回戦)終了後に発表予定

開幕から波乱含みの展開に

前回大会は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、大会方式や日程が大幅に変更となったが、今年度は例年通り開幕した。J1、J2のチーム増加に伴い、今大会は第99回大会から2チーム増えた90チームが参加。日本一の座を懸けた大会は5月22日にその戦いの幕が切つて落とされた。

1回戦はJ2の4チームと47都道府県代表にアマチュアシードのヴェルスバ大分が加わり、52チームが出場した。初出場の北海道十勝スカイアース(北海道)がブラウブリッツ秋田(J2)を、FC

今治(愛媛県)が同じ県で活動する愛媛FC(J2)を破るなど、波乱含みの1回戦となった。一方で、鈴鹿ポイントゲッターズ(三重県)を率いるスペイン人女性監督のミラグロス・マルティネス監督が自身2度目の大会で初勝利をつかみ、新たな風を吹き込んだ。

tonan前橋(群馬県)対順天堂大学(千葉県)では関係者に新型コロナウイルスの陽性反応が認められたとして延期。また、緊急事態宣言の発令によりキックオフ時間の変更なども発生したが、試合は無事に行われ、2回戦進出チームが決定した。

2回戦からJ1勢が登場

6月9日と16日に行われた2回戦にはJ1チームも登場。前回王者の川崎フロンターレ(J1)は長野パルセイロ(長野県)に苦しめられるも、PK戦の末に3回戦進出を決めた。ガンバ大阪(J1)は関西学院大学(兵庫県)と対戦。第98回大会でアップセットを成し遂げた関西学院大だったが、今回はJリーグの意地を見せたG大阪が3-1で勝利した。

J1勢が順当に勝ち進む中、今年も天皇杯の見どころの一つでもある「ジャイアントキリング」が起きた。

まずはFC東京(J1)と対戦した順天堂大だ。前半早々にFC東京が先制するも、順天堂大が試合終盤に追いつき、最後はFC東京のアカデミー出身である小林里駆がPKを決めて格上を撃破した。5回目の出場となるおこしやす京都(京都府)は、サンフレッチェ広島(J1)に先制するとその後も得点を重ね、5-1という衝撃のスコアでJ1チームを破った。過去に何度も大番狂わせを起こしてきたHonda FC(静岡県)も横浜F・マリノス(J1)をPK戦にまで追い詰めた。PKスコア5-3で勝利。3回戦へ駒を進めた。

開幕

リーグの2021-2022シーズンが幕を開けた。
ディビジョン1の12チーム、ディビジョン2の6チームがしのぎを削る今シーズン。
長い戦いを制するのはどのチームか――。

© SHINAGAWA CITY



© FuchuAFC



F1第1節・立川府中アスレティックFC vs ベスカドーラ町田

© FUGADOR SUMIDA



F1第2節・フウガドールすみだ vs 名古屋オーシャンズ

15年目がスタート 存在感を示せるか

2021年は、日本フットサル界にとって勝負の一年となる。

これまでは、FIFAフットサルワールドカップが開催される年にはFリーグの観客数は増加傾向にあった。2012年には、フットサル日本代表がワールドカップベスト16に進出したものの、その年以降、リーグの観戦者は減少。2016年にアジア予選で敗退し、FIFAフットサルワールドカップコロンビア2016に出場する機会を逸したことも観客減少の一つの要因と考えられる。

今年9月、リトアニアでフットサルワールドカップが開催される。1年延期されたものの開催だが、日本はこの大会への出場が決まっておらず、実に9年ぶりに世界最高峰の舞台に立つこととなった。代表の活躍が、今後の日本国内でのフットサル人気を大きく左右することは間違いない。

ワールドカップ開幕を約4カ月後に控えた5月22日、ディビジョン2の2021-2022シーズンが幕を開け、その2週間後の6月5日にディビジョン1が開幕した。例年、リーグ戦の開幕前に開催されているFリーグオーシャンカップがコロナ禍で延期となり、昨年に続いてリーグ戦からスタートするシーズンとなった。ワールドカップの開催期間はリーグが

中断する。シーズン序盤の注目ポイントは、フットサル日本代表候補らの活躍ぶりだろう。現在の代表選手のはほとんどは、Fリーグでプレーしている。ワールドカップに代表選手として出場できるかは、Fリーグでどれだけ活躍するかに懸かってくる。

5連覇を目指す名古屋 各チームの補強にも注目

シーズン開幕後の6月18日には、立川府中アスレティックFCが森岡薫の加入を発表した。森岡は2019・2020シーズン途中でベスカドーラ町田を退団し、その後、スペイン1部リーグのバルロ・フェロールへ移籍。Fリーグで通算9度の優勝経験を誇り、最優秀選手賞と得点王を4回ずつ獲得している。日本フットサル界で存在感を放つ森岡の国内復帰には、熱烈なFリーグファンならずとも関心を寄せた。これまでFリーグ通算331試合に出場し、297得点を挙げている森岡にとって、通算ゴール数を300に到達させることはもちろんだが、Fリーグで活躍して代表に復帰することも大きな目標になる。限られた時間の中で、森岡がどれだけのパフォーマンスを見せられるかという点も注目に値する。

優勝争いは、名古屋オーシャンズが中心になるだろう。名古屋は過去14シーズン

のうち13度のリーグ優勝を誇り、「絶対王者」と呼ばれるプロクラブだ。在籍する登録選手16人のうち代表でキャプテンを務める吉川智貴ら11人が現役代表選手であり、残る5人のうち2人は外国籍選手。名古屋の試合を見れば、日本トップレベルの力が一目で分かると言っても過言ではない。

4節を終えた時点で、名古屋は唯一4連勝を飾っており、早くも順位表の一番上に君臨している。今シーズンの新加入選手はアカデミー(下部組織)からの昇格選手のみとなっているが、昨シーズン途中に加わったフットサルタイ代表のスパウット・トウエンクラインがようやくチームに馴染んできて開幕から先発出場を続けている。既に2ゴールを記録し、アシストでもチームに貢献している。昨シーズンのリーグMVPである元フットサルブラジル代表のペビータ、昨年12月に日本国籍を取得してワールドカップ出場を目指すオリベイラ・アルトゥール、開幕直前に今シーズン限りでの現役引退を発表した日本代表の星翔太、チームのキャプテンであり守備の要でもある星龍太と、タレントには事欠かない。

積極的な補強を見せたのが、元フットサル日本代表の小宮山友祐監督が率いるバルドラール浦安とホルクバレット北九州だ。浦安は、フウガドールすみだのエースだったガリンシャをはじめ、アサノ竜也、



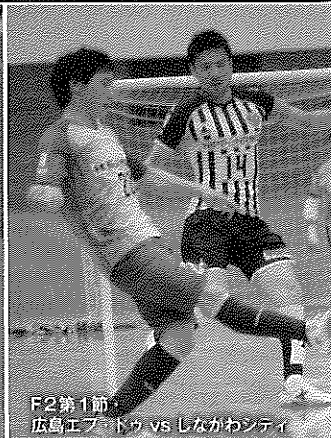
Fリーグ2021-2022



F1第1節 立川府中アスレティックFC vs ベスカドーラ町田



F1第1節 バルドラール浦安 vs 湘南ベルマーレ



F2第1節 広島エフ・ドウ vs しながわシティ

【大会概要】

■ディビジョン1

開催期間：2021年6月5日(土)~2022年1月16日(日)
大会方式：ホーム&アウェイ方式による2回戦総当たりリーグ戦(全132試合)

参加チーム(12チーム)

- ・エスポラーダ北海道
- ・バルドラール浦安
- ・フウガドールすみだ
- ・立川・府中アスレティックFC
- ・ベスカドーラ町田
- ・Y.S.C.C.横浜
- ・湘南ベルマーレ
- ・ポアルース長野
- ・名古屋オーシャンズ
- ・シュライカー大阪
- ・ボルクバレット北九州
- ・バサジィ大分

■ディビジョン2

開催期間：2021年5月22日(土)~2022年1月16日(日)
大会方式：3回戦総当たりリーグ戦(全45試合)

参加チーム(6チーム)

- ・しながわシティ
- ・ウィンセドール白山
- ・アグレミーナ浜松
- ・デウソン神戸
- ・広島エフ・ドウ
- ・ボルセイド浜田

■昇格・降格

新型コロナウイルス感染症の他、やむを得ず試合が消化できなかった場合は、以下の通り試合が実施された時点で、2021-2022シーズンのリーグ戦は成立する。

【成立基準】

- ディビジョン1:1回戦総当たり(11試合/チーム)
- ディビジョン2:2回戦総当たり(10試合/チーム)

※1:ディビジョン1、ディビジョン2ともにリーグ戦が成立した場合は、原則として入替戦を実施する。昇降格の対象となるのは1チーム。

※2:各ディビジョンにおいて、1試合でも消化できなかった場合の順位決定は、原則として、未消化試合の節(同節の他の試合を含む)を除く、実施されたすべての試合の勝点・得失点を加算し、順位を決定する。リーグ戦が成立しない場合は、順位を決定しない。

※3:不測の事態、その他、上記に拠らない事象等については、実行委員会にて協議し決定する。

山下純平といった最前線でゴールを狙うピヴォの選手を多数補強。小宮山監督が好む、攻撃的な戦術を体現できるチームへと進化を遂げている。

一方の北九州も、同じ九州のライバルであるバサジィ大分から田村龍太郎、シュライカー大阪から前鈍内マティアス・エルトンという代表経験のあるレフティを獲得。昨シーズン、優勝争いを繰り広げた2チームから主力を引き抜いたことで注目を集めている。馬場源徳監督は彼らを加え、より攻撃的で魅力的な戦い方を目指している。どちらも序盤戦は苦しんでいるが、新戦力が融合して新しい戦い方がフィットしてくれば、リーグを盛り上げる存在となるだろう。

ベスカドーラ町田や湘南ベルマーレは、アカデミーから上がってきた選手がトップチームに定着。U・20フットサル日本

代表の活動にも参加して自信を深め、主力となりつつある。Y. S. C. C. 横浜は有力な大学サッカー選手を引き抜き、フットサル選手に転向させるというユニークな戦略に取り組んでいる。少し時間ばかりそつだが、この試みも興味深いところだ。

優勝争い激化のF2 抜け出すのはどなか

ディビジョン2でも、昨シーズン開幕前に代表経験者に加え、全勝で優勝したしながわシティ(昨シーズンまでトルエーラ柏)が、開幕戦で広島エフ・ドウに敗れる波乱のスタートとなった。各クラブが戦力アップさせており、3回戦総当たりとなったリーグ戦でどれだけチーム力を高めていけるかが、タイトル争いにも大きく影響しそうだ。

各クラブが新戦力や若手育成でリーグを活性化させようとしている一方、リーグもオフィシャルスポンサーであるアビームコンサルティング株式会社の企画・運営の下、「Abeam AWARD 2021・2022」の実施を発表した。これは競技力や勝点以外のいくつかの観点に基づき、Fリーグの活性化に寄与したクラブをランキング形式で表彰するというもので、1位に100万円、2位に50万円の賞金が贈られる。ファン・サポーターが選手やクラブと共に、どれだけピッチ内外でリーグやチームを盛り上げられるかが問われることになる。

新たな企画も始め、人気回復に乗り出したFリーグ。ワールドカップイヤーである今シーズンを盛り上げていく。

日本女子フットサルリーグ 2021-2022 開幕

日本女子フットサルリーグ(女子Fリーグ)の2021-2022シーズンが6月19日に開幕した。
10チームが参加し、全9節を戦った後、プレーオフでタイトルを争う。

女王・浦安を筆頭に 群雄割拠のシーズン

2017年に始まり、2021-2022シーズンで5シーズンを迎える日本女子フットサルリーグ。昨シーズンは、リーグ3連覇を果たしていたアルコ神戸からバルドラール浦安・ポニータスにリーグタイトルが移り、話題となった。6月19日に開幕した今シーズンもまさに群雄割拠の状態で、どこがタイトルを獲得するか分からないシーズンとなっている。

その理由の一つが、極めて短期決戦であること。リーグ戦は10チームによる1回戦総当たりで、来年1月9日まで7カ月にわたって行われ、その後、上位3チームがプレーオフでタイトルを争う。リーグ戦は一発勝負で、さらに試合数が少ないため、一試合の結果が大きな意味を持つ。連敗すれば一気に順位は落ちてしまう。また、第2節から第3節までは約3カ月の期間が空くため、最初の2試合で出た課題の修正に、この期間をどれだけ有効活用できるかも重要になる。

注目の優勝争いは、やはり今シーズンも浦安が中心になるだろう。一昨シーズン、レギュラーシーズンで1位になりながらも、



第1節・フウガドールすみだレディース vs アルコ神戸

プレーオフの結果2位だった同チームは、昨シーズン、悲願のリーグ優勝を成し遂げた。チームはこの結果に満足せず、新たにフットサル日本女子代表候補の篠井りさ、松本直美らを補強。今年に入ってから2度の代表候補合宿が行われており、浦安からは総勢12人も選手が選出されている。チーム内でのポジション争いもし烈だが、タレント力では他を圧倒している。

その対抗馬になると目されるのが、昨シーズンから女子Fリーグに参戦したSWHレディース西宮だ。日本女子代表の得点源である江口未珂、江川涼を擁し、姫路獨協大学時代には「女メッシ」と呼ばれて注目を集めた網城安奈、世界的にも高く評価さ

れるGK山本彩加といった代表選手がいる。連覇が途切れたアルコ神戸は3セットを組める選手層を有しており、その経験値を武器に女王奪還を目指している。昨シーズン2位の立川・府中アスレティックFCレディースも初タイトルを目指す。

小学生の頃から注目を集めてきた選手たちが、社会人、大学生となった篠井・丸岡ラックも勢いに乗ればタイトルを狙えるポテンシャルは持ち合わせている。

アジアトップレベルの 日本女子フットサル

日本女子フットサルは、認知度こそまだ低いですが、競技レベルの高さはアジアでもトップレベルだ。今年は2年ぶりとなる女子の国際大会も予定されており、AFC女子フットサル選手権では初優勝を目指す。そのフットサル日本女子代表のメンバー入りを目指している選手たちの奮闘にも期待がかかる。

女子Fリーグは、同一会場に全チームが集まるセントラル方式で行われているところも魅力の一つ。また、選手たちがピッチで見せるプレー以外に、もう一つリーグを盛り上げる要因となり得るのが、ライブ配信の存在だ。昨シーズンまではクラブ



バルドラール浦安・ポニータス第2節で合計14得点を挙げ、攻撃力の高さを見せた

が試合の動画を撮影して配信していたが、今シーズンからはSPONZONEでの配信が決定。試合に実況が付き、シーズンのオープニングマッチとなった浦安とミネルバ宇部の一戦では、フットサル委員長の北澤豪氏が解説を務めるなど、新たなアプローチをかけている。

参加チーム

チーム名	
エスポラーダ北海道イルネーヴェ	北海道
流经大メニナ龍ヶ崎	茨城県
さいたまサイコロ	埼玉県
バルドラール浦安・ポニータス	千葉県
フウガドールすみだレディース	東京都
立川・府中アスレティックFCレディース	東京都
篠井丸岡ラック	福井県
SWHレディース 西宮	兵庫県
アルコ神戸	兵庫県
ミネルバ宇部	山口県



日本サッカーの発展のため、
さらなる普及や次世代選手育成の促進を。

JFA Youth & Development Programme



OFFICIAL PARTNER

TOYOTA



molten
For the real game

TECHNICAL PARTNER

PHILIPS

TOA
東亜道路工業

GREENPROJECT PARTNER

FUJITA
DaiwaHouse Group

JYD SUPPORTER

日本総研
The Japan Research Institute, Limited

Deloitte
デロイト トーマツ

The Pokémon Company

JYD





「朝TRE」が子どもたちにいい影響を与えるワケ

日本サッカー協会（JFA）指導普及部グラスルーツ推進グループの松田薫二が、JFAグラスルーツ推進・賛同パートナーを訪問して話を聞く「グラスルーツ対談」。前号に続き、東京を拠点に全国に活動を広げるストライカー育成プロジェクト「TRE 2030」の主催者、一般社団法人TREの長谷川太郎代表との対談をお送りする。 ○対談日：2021年3月26日

「朝TRE」で勉強との両立も可能に

松田 長谷川さんが主催している「朝TRE」は、学校が始まる前の朝にトレーニングをする活動ですが朝に練習するメリットはどんなところにありますか。

長谷川 早寝早起き、朝食をしつかり取ることなど、今の子どもたちに習慣にしてほしいことが、「朝TRE」を通じて身に付くと思っています。

松田 東京の子どもたちの動向でよく聞くのが「中学受験のために小学4・5年生でサッカーをやめて塾に行く」というケースです。でも朝にサッカーをすれば、放課後に塾に行く時間取ることもできるかもしれませんね。

長谷川 大学サッカーは練習を朝だけにしているチームも多いのですが、それは授業と両立するためだと聞いています。また、朝に活動することは、指導者にもメリットがあります。サッカー指導者は、家族との時間が持てないことも多いからです。平日は夜遅くまでトレーニングをして、週末は遠征で家を留守にする。家族をろって、夜に食事をする時間をつくることも必

要だと思っています。

松田 ストライカーの育成だけでなく、社会課題の解決にも取り組んでいるんですね。そのような視点を持っている人は貴重だと思います。SDGs（※）への取り組みのように、社会課題に取り組むことが人々からの信頼につながっていくと思います。商業ベースのサッカー教室だけでなく、社会課題を解決するために、サッカーを用いて行動を起こしているのは素晴らしいことだと思います。

※国連が定める2030年までに持続可能な世界を目指す国際目標

大人が楽しむ姿を見せることが大事

松田 他にはどのような活動をされていますか。

長谷川 大人向けのサッカースクールを開催しています。その参加費の一部を、子どもたちのための活動費に充てるなどしています。

松田 大人になっても上達してサッカーをもっと楽しみたいですよね。大人がサッカーを楽しんでいる姿を子どもが見ることも大事なことでないかなと思います。「サッカーを続けていたら、大人になってもこうやってサッカーを楽

しめる」という気持ちになってもいいんじゃないかなと思います。

長谷川 そうですね。「将来、サッカーを楽しむためにもっと練習を頑張ろう」という気持ちにもなるかもしれません。子どもの頃に身に付けた技術は大人になっても落ちませんから。

松田 いろいろなことにつながっていきますね。

長谷川 僕が引退してからやってきたことの、点と点がつながっていいな。引退直後の選手の手助けになる活動もそうですし、自分が通ってきた道を少しでも整備することができればと思っています。

松田 プロを引退し、セカンドキャリアとしてサッカー以外の職業に就いたとしても、最初から順応できる人は少ないのではないかと思います。長谷川さんが考えているような「1.5キャリア」の場は必要ですね。

長谷川 例えば、引退してスクール活動をするとして、グラウンドを貸してくれる学校や行政と話をするのも、最初はハードルが高いですよ。でも、そこを越えようと協力者が出てきて広がっていきます。



一般社団法人TREの長谷川誠一郎氏

その部分のお手伝いといいますが、きつかけづくりができればと思っ
ています。

スポーツと勉強の両立はできる

松田 今の子どもたちは遊び場が減り、さらにコロナ禍によって外での運動機会が減り、エネルギーを発散する場が少なくなっています。保護者も子どもにスポーツ

や運動をさせたい気持ちはあるけど、勉強をする時間も必要だと考えると、そちらの方が優先されてしまう。そこに何か手を差し伸べられるといいですね。

長谷川 スポーツと勉強の両立は難しいと考える人が多いけど、やり方次第でできると思います。

松田 勉強ばかりしていても能率は上がらないし、たまにはリフレッシュして体を動かすことも必要ですよ。

長谷川 全ては時間の使い方で、やり方はいくらでもあると思います。ゆくゆくは「朝TRE」を、プロを引退した人たちが賛同アスリートのような形にして47都道府県で広げていきたいと思っています。

松田 セカンドキャリアに不安を抱えている選手が多い中で、長谷川さんの活動のように、サッカーを通じて社会との接点をつくるのはとても良い方法だと思います。

長谷川 ぜひ、多くの方々に認知していただけたらうれしいです。

次のステップのきつかけになる

松田 1リーグの選手は、目標に

向かって集中して取り組んできた経験があるので、努力する力や集中して物事に向かっていく力を持つていると思います。長谷川さんのようにきつかけを与えてくれる人がいれば、次のステップでも輝くことができる力を持っているのではないのでしょうか。

長谷川 その力を、うまく社会とつなげることができればいいですよ。僕自身、まだまだ模索中の身ではありますが。

松田 そのきつかけをつくる場という意味で、「1.5キャリア」という言葉はとても良いなと思います。階段の踊り場のような形で次のキャリアへの準備ができるのは良いことですよ。

松田 応援しています。ありがとうございます。ありがとうございました。

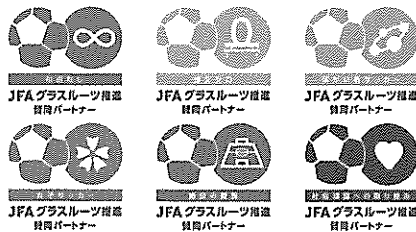
長谷川 僕が引退後に大事だと思ったのが、企画力や営業力、行動力です。つまり、自分で考えてアピールし、実行に移すことで、それはサッカーを通じて得られるものでもあります。試合に出るためには、自分の長所をアピールして周りに認められることが大切なので。

松田 まずは「朝TRE」をロールモデルに、引退者向けのワークショップをするのもいいかもしれません。自分の地元で、どんなことができるかを考えようというテーマも面白いと思います。自分を客観視して、自分の特徴を生かし、社会に貢献する。その結果が、次のキャリアにつながると思います。

引退試合もそうですが、何かを自分たちで企画して、SNSなどを通じてPRするなど行動を起こしてイベントを実施することができると、成功体験になります。それが自信につながり、次のステップ

に踏み出すきつかけになると思っています。

■ JFA グラスルーツ推進・賛同パートナー制度



日本サッカー協会(JFA)は、「JFA グラスルーツ推進・賛同パートナー制度」を設けています。これは、「JFA グラスルーツ宣言」に賛同し、賛同パートナーになっていただくことで、グラスルーツサッカーを拡大していくことを目的とした制度です。

同制度は、「引退なし」「補欠ゼロ」「障がい者サッカー」「女子サッカー」「施設の確保」「社会課題への取り組み」という6つのカテゴリーがあり、それぞれのテーマに沿って活動している団体やチームを賛同パートナーとして認定。同賛同パートナーとなった団体やチームの活動を好事例として日本全国に広く紹介することで、グラスルーツサッカーへの理解が深まり、その輪が広がることを期待しています。

日本サッカー協会はこの制度によって、年齢や性差、障がいの有無、国籍などにかかわらず、誰もがレベルや目的に合わせて気軽にサッカーを楽しめる環境を広げていきたいと考えています。

JFA.jp
https://www.jfa.jp/grass_roots/partner/

※情報提供：サカイイク (<https://www.sakaiku.jp/>)



JFA ホットスポット

第3回 eスポーツ・サッカー

サッカーe日本代表、初の公式大会の裏側

日本サッカー協会(JFA)マーケティング部 齊藤 亘

日本サッカー協会(JFA)の活動や各委員会、各部の取り組みに焦点を当てた「JFAホットスポット」。第3回は今年4月に開催されたサッカーe日本代表の初公式大会の運営について、担当者の一人であるマーケティング部の齊藤亘が紹介する。

型「コロナウイルス感染拡大の影響によって世界大会は中止となり、活動はオンライントーニングや岡崎慎司選手と共に出場した「StayAndPlay eFriends」などにとどまり、公式戦を行えないまま活動を終えていました。

今年3月に今年度の代表選手が決定し、国際大会に備えてきましたが、FIFAからアジア・オセアニア予選大会の実施が正式に通告されたのは4月上旬のこと。4月29日に開幕する大会に向けて急ピッチで準備を進めることになりました。初の公式戦とい

る必要はなかったのですが、選手間でコミュニケーションが取れた方が良いパフォーマンスが発揮できるのではという声があり、3選手が一堂に会することになりました。

ネット回線が良好で、複数名が集まって配信できる、という条件で会場を検討した結果、高円宮記念JFA夢フィールドに決定しました。夢フィールドは男女各カテゴリーで日本代表のトレーニング施設でもありますので、サッカーe日本代表が戦う上でも最適な会場です。

楽しめる工夫を凝らして eスポーツの魅力を発信

初の公式戦ということでeスポーツ選手の羽染貴秀さんをMCに迎えました。羽染さんは、他のeスポーツのイベントでも実況を担当されているスペシャリストです。事前の準備はプレイヤー名の読み方を確認するくらいで、進行など全てお任せしました。会場の関係で選手と同じ部屋で実況してもらったことになり、選手の集中力が削がれるのではないかと少し心配もありましたが、その懸念をよそ

に、会場には一体感が生まれ、結果的に良い方向に働いたと思っています。

結果は本誌でもお伝えした通り、サッカーe日本代表が優勝し、8月の世界大会への切符を手に入れました。大会終了後「eスポーツってこんなに面白いんだ」といった感想や、世界大会が懸かった一番を「最後まで食い入るように見た」という声も聞かれました。

アジア・オセアニア予選では、準備期間の短さや予算の関係から自分たちのこだわりが出せなかったことが反省点として残りま

「COP」では、eスポーツを知らない人のために、試合前に選手が自らのチーム構成の説明をする時間を設け、ゲストにタレントの貴島明日香さん、解説に元日本代表の佐藤寿人さんを招き、多くの人々に楽しんでもらえるよう工夫を凝らしました。

サムライブルーやなでしこジャパンをはじめ、日本代表の全カテゴリーをスポンサーとするキリンビバレッジ株式会社に特別協賛していただいたことも、公式大会を無事に成功させる大きな要因だったと思います。

JFAがeスポーツを事業として立ち上げた目的の一つにサッカーファミリーの拡大があります。近年、若年層の多くがモバイルなどでeスポーツを楽しんでいます。年齢、性別、障がいのあるなしにかかわらず誰もがプレーできる、それがeスポーツの魅力です。サッカーへの理解を深めていくためにもサッカーe日本代表の試合を見て、さらにその魅力に触れてもらえるように代表チームをサポートしていきたいと考えています。

初の公式戦に向けて 準備期間は1カ月弱

JFAは今年の4月から5月にかけて初の公式大会「FIFAe Nations Online Qualifier」を実施しました。この大会は8月に予定されている国際サッカー連盟(FIFA)主催の世界大会「FIFAe Nations Cup 2021」への出場権が懸かったアジア・オセアニア予選です。

サッカーe日本代表が発足したのは2020年4月でしたが、新



大会を優勝で終え、リラックスした表情のe日本代表とMCの羽染貴秀さん

日本サッカー協会（JFA）および各リーグ・連盟等のリリース情報、活動内容を報告します。

日本サッカー協会

アディダス ジャパン株式会社とオフィシャルサプライヤー契約に関する基本合意書を締結

JFAとアディダス ジャパン株式会社は6月17日、2023年以降の「日本サッカー協会オフィシャルサプライヤー」契約の基本合意に至った。

JFAは1999年よりアディダス ジャパンとオフィシャルサプライヤー契約を結んでおり、男女全年代のサッカー日本代表チームに加え、フットサル、ビーチサッカー、eスポーツ・サッカーの日本代表チームへのユニフォーム提供など、さまざまなサポートを受けている。今回の基本合意によって、サッカー日本代表チームのみならず、国内の各種大会や事業においてもサポートを受けられるようになった。JFAはアディダス ジャパンとの関係をさらに強化し、さまざまな取り組みを協働することで、「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する」という理念を具現していく。

■アディダス ジャパン株式会社 スティン・ヴァンデヴォースト代表取締役
日本サッカー協会との長期契約を延長できることを大変光栄に思います。アディダス ジャパンは、弊社理念である「Through sport, we have the power to change lives. (スポーツを通して、私たちには人々の人生を変える力があります。)」に基づき、この強固なパートナーシップを通して、サッカー日本代表へのサポートはもちろん、グラスルーツを含む日本サッカー全体の発展に寄与できるよう努めてまいります。先日発表した“Own the Game”戦略において、サッカーは優先的に取り組むべきスポーツカテゴリーのひとつです。サッカーは当社の長い

歴史の一部であり、今後もその一部であり続けるでしょう。

アディダスはサッカー業界のリーディングブランドとして、引き続き選手のパフォーマンス最大化に貢献し、あらゆるレベルのフットボーラーの皆さま、そして世界中のサッカーを愛する皆さまに、より豊かなスポーツ体験を提供できるよう革新的な商品・サービスを展開し続けます。

■JFA 田嶋幸三会長

アディダス ジャパン株式会社と2023年以降の「日本サッカー協会オフィシャルサプライヤー」契約の基本合意に至ったことを大変うれしく思います。アディダス ジャパンには20年以上にわたってご支援いただいておりますが、2023年からは、各カテゴリー日本代表だけでなく、日本サッカーの次代を担う選手の育成・強化、指導者・審判員などの人材養成、さまざまな国内の大会やグラスルーツなど、日本サッカー全体の発展をサポートしていただくこととなります。今年、JFAは創立100周年を迎えます。アディダス ジャパンとの新たなオフィシャルサプライヤー契約は、次の100年に向けて大きな価値を生むものだと思っております。

アディダス ジャパンには心から感謝申し上げますとともに、今後も手を携え、サッカー、スポーツを通じた人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献してまいりたいと思います。

JYDパートナー企業のニチバン株式会社とアスレティックトレーナーを育成する「SOCCER MEDICAL CAMP」を開催

JFAは、JFA Youth & Development Programme (JYD)のオフィシャルパートナーであるニチバン株式会社と、サッカーに関わるアスレティックトレーナーを目指す人を対象とした育成プロジェクト「SOCCER MEDICAL CAMP」を実施する（6月21日発表）。

同プロジェクトでは、日本サッカー界のメディカル領域で活躍するスタッフが、サッカーの現場で求められる知識、経験、考え方などを伝えるセミナーを実施し、サッカー界を支える次世代のアスレティックトレーナーを育成する。サッカーを安心・安全にプレーできる環境づくりを日本全国に定着させてメディカル領域からサッカー界の発展をサポートし、将来的な日本サッカー全体の強化を目指す。プロジェクト概要、参加方法などは下記の通り。なお、日程・講師、応募方法の詳細はJFA公式サイトを参照。

【概要】

趣旨 : サッカーに関わるアスレティックトレーナーを志す者を対象に、サッカーの現場におけるけが予防、応急処置、コンディショニング等の業務に触れる機会を提供する。講師は、JFAの活動に携わるドクターやアスレティックトレーナーらが務める。

主催 : ニチバン株式会社、公益財団法人日本サッカー協会

日程 : 2021年9月11日(土)～11月13日(土)
※詳細はJFA公式サイト参照。スケジュール、内容・講師は変更の場合あり。

実施方法 : 集合研修およびオンライン

会場 : オンライン形式、JFAハウス会議室、高円宮記念JFA夢フィールド

受講料 : 無料(会場までの交通費やオンライン開催時の通信費等は受講生負担)

受講人数 : 20名(推薦枠10名、一般募集枠10名)のうち一般募集枠10名の募集

求める受講者像 : 以下条件を満たす者(資格の有無は問わない)
・将来、サッカー界でアスレティックトレーナーとして活動を志す者(18歳以上、高校生は不可)
・アスレティックトレーナーとして基本的な知識があり、日本スポーツ協会推奨の基本的なテーピングが巻ける者
・高いモチベーションを持って全ての回に参加可能な者

選考スケジュール : 書類提出締切 2021年7月15日(木)必着(合格者には8月10日までに事務局から連絡)

その他 : 参加者に対して何らかの資格を付与するものではありません。スケジュール、内容や講師は変更となる場合があります。また、集合研修に関しては、新型コロナウイルスの感染防止対策を行った上で実施します。

国際協力機構(JICA)、JFA、Jリーグ、WEリーグが サッカーを通じた開発途上地域の発展に向けて連携協定を締結

JFAは、独立行政法人国際協力機構(JICA)と公益社団法人日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)、一般社団法人日本女子プロサッカーリーグ(WEリーグ)と6月9日、開発途上地域への国際協力の効果的な実施とスポーツを通じた国際協力の一層の発展を目的に連携協定を締結した。

スポーツは、持続可能な開発目標(SDGs)達成のために重要な鍵とされており、日本を含めた世界各国で、スポーツを通じた国際協力がこれまで以上に積極的に進められている。新型コロナウイルス感染症拡大により世界の状況が一変した中で、スポーツが人々の健康維持や健康増進に欠かせないものであるとともに、人々に勇気や希望をもたらす、離れ離れになった人々や社会を再び結びつけるなど、スポーツが持つさまざまな可能性が再評価されている。

JFAとJICA、Jリーグの三者は、2015年9月に連携協定を締結し、サッカーを通じた各国との国際交流や途上国への協力活動を行ってきた。JFAは、指導者をJICA海外協力隊として開発途上地域に派遣し、派遣先のサッカー選手、指導者、審判員などを育成。Jリーグは、JICAの「世界の笑顔のために」プログラム(※)を通じて開発途上地域にサッカー用品を寄贈した他、開発途上地域から来日したJICA研修員を試合会場に招待し、選手らとの国際交流の機会を創出するなど、緊密な連携を図ってきた。

今回、2020年7月に設立したWEリーグも連携に加わることとなり、女性活躍社会の推進をはじめ、性別や年齢、文化、社会的・経済的地位、障がいの有無などにかかわらず、誰もが輝ける社会の実現と社会の発展に向けてより一層力を尽くしていく。

※「世界の笑顔のために」プログラム:開発途上地域で必要とされている、スポーツ、文化、教育、福祉などの関連物品の提供者を日本国内で募集し、JICA海外協力隊を通じて世界各地へ届けるプログラム

【概要】

(1)目的

開発途上地域におけるサッカーを通じた人々の地域開発、地域振興、健康増進、生活レベルの向上、および災害復興・平和構築

(2)連携内容

- ①開発途上地域におけるサッカーを通じた国際協力
 - ・開発途上地域への日本人指導者の派遣および同地域からの研修受け入れなどを通じた、サッカー選手、コーチ、審判、マネジメント関係者等人材の育成および制度、仕組みなどの整備
 - ・開発途上地域に派遣されるボランティアらに対する技術的な支援、助言
- ②JリーグおよびWEリーグとJICA国内機関との地域連携
- ③開発途上地域における国際サッカー大会運営への協力
- ④国内外に対するサッカーを通じた啓発、広報

【今後の事業予定】

- ・日本人指導者、審判員らをJICA海外協力隊として開発途上国に派遣(JICA / JFA間では連携派遣にかかる合意書を別途、締結する予定)
- ・JICA / Jリーグ共同事業として、東南アジアにてJクラブのスクールを展開し、同スクールを拠点とし開発途上国の課題解決に向けた活動を実施
- ・プロサッカークラブを含む日本国内の関連団体から寄贈されたサッカー用品を開発途上国に送付(直近では、ギラヴァンツ北九州がホームゲーム時に収集したサッカー用品をJICAからジンバブエに送付予定)
- ・日本と開発途上国の女子サッカー選手の合同合宿の実施

■田嶋幸三 JFA会長

サッカーには大きな力があります。アジアの一員として、アジア各国の子どもたちがサッカーを楽しみ、未来に希望を持てる環境を広げていくことが、われわれサッカー界の使命だと考えています。JICAとJFA、Jリーグ三者の連携事業にWEリーグが加わることにより、アジアにおける女子サッカーの発展はもちろん、女性の社会的地位が低い国々の男女同権や女性活躍を後押しする力にもなるのではないかと思います。これからも四者が緊密な連携を取り、アジアのサッカーの発展に力を尽くしてまいります。

■北岡伸一 JICA理事長

JICAは1965年の青年海外協力隊発足当初からスポーツ隊員を開発途上国に派遣するなど、長きにわたってスポーツを通じた国際協力に取り組んでいます。本連携協定は、四者が持つ知見を存分に生かし、スポーツを通じた国際協力をさらに加速するものです。全ての人々がスポーツを楽しむ権利を有しているという考えの下、JICAは誰もがスポーツを楽しめる平和な社会の実現を目指します。

■村井満 Jリーグチェアマン

これまで多くのJクラブが、積極的な国際協力活動を実施してきました。サッカー、そしてスポーツが持つ力は、国境を越え、年代を越え、さまざまな人々にとって強く前進する活力を与えてくれるものだと思っています。Jリーグでもアフリカやアセアン出身の選手が多く活躍してくれています。私たちにとってますます身近になった各国と共に、誰もが健康で豊かな生活を送れる社会の実現に向け、これからも取り組んでまいります。

■岡島喜久子 WEリーグチェア

2015年から続くこの連携協定にWEリーグも加わることとなりました。WEリーグはWomen Empowerment Leagueの略称で、私たちみんな(WE)が主人公として活躍する社会を目指す、という思いが込められています。その名の通り、開発途上地域の女性や少女たちを力づける取り組みを積極的に展開していきたいと考えています。四者で手を取り合い、より一層スポーツを通じた国際協力に尽力してまいります。

SAMURAI BLUE 対 U-24日本代表においてクラウドファンディングによる募金活動を実施 ～寄付金は北海道の医療活動へ

JFAは6月3日、札幌ドーム(北海道)で開催した「SAMURAI BLUE(日本代表)対 U-24日本代表」において、医療活動などへの支援を目的とし

た募金活動を行った。

投げ銭のウェブサービス「KASSAI」を活用してファン・サポーター

から集まった募金は、コロナ禍の厳しい状況の中で試合開催に協力してもらった北海道の人々への感謝の気持ちを込め、北海道ならびに札幌市に寄付し、医療活動などに役立ててもらおう。返礼品には、この試合でSAMURAI BLUE、U-24日本代表の各選手が実際に着用したユニフォームなどを用意。感染症の治療にあたる医療従事者やエッセンシャルワーカーをはじめ、多くの人々の尽力があって日々の活動が成り立っている。JFAは、日本代表戦において医療従事者への感謝を伝えるバナー掲出などを行ってきたが、今後も医療従事者やエッセンシャルワーカーへの感謝の思いをさまざまな形で届けていく。

【募金活動概要】

実施期間：2021年6月3日（木）16:00～15日（火）23:59

概要：投げ銭ウェブサービス「KASSAI」を活用して集まった募金を北海道ならびに札幌市に寄付し、北海道の医療活動などに役立ててもらおう。

参加方法：ウェブサイトアクセスし、返礼品を購入することで参加できる。

<https://jfa-thankyou-medicalworkers.nug-get.jp/>

- 返礼品：①SAMURAI BLUE 6月3日選手着用ユニフォーム/着用選手サイン入り(洗濯済)(30,000円)※選手の選択不可
②U-24日本代表 6月3日選手着用ユニフォーム/着用選手サイン入り(洗濯済)(30,000円)※選手の選択不可
③ユニフォーム型オリジナルクッション(5,000円)
④ユニフォーム型オリジナルキーホルダー(2,000円)
⑤6月3日 SAMURAI BLUE / U-24日本代表 デジタルフォト(1,000円)
⑥サンクスメール(500円)
⑦SAMURAI BLUE・U-24日本代表招集選手サイン入り集合写真パネル(100,000円)※6月14日追加
⑧SAMURAI BLUE・U-24日本代表オリジナルユニフォームペアセット(6,000円)※6月14日追加

誰一人取り残さないサッカー体験～スタジアムでの感動を子どもたちに届けよう！プロジェクト U-24日本代表戦に聴覚障がいのある子どもとその家族を招待

JFAは6月12日、豊田スタジアムで開催した国際親善試合(U-24日本代表対ジャマイカ代表)に聴覚障がいのある子ども11人とその家族20人を招待した。

これはSDGsの取り組みの一環として行ったもので、今年3月26日と29日のSAISON CARD CUP 2021で募った投げ銭による応援資金(※)で、サッカー観戦が困難な子どもたちを招待した。

試合当日は、JFA職員らが手話や筆談などで観戦をサポート。また、U-24日本代表の中山雄太選手(PECズヴォレ)から手話によるメッセージ映像も送られた。

JFAは今後もサステナブルな事業展開への挑戦としてSDGsを推進し、さまざまな社会課題や環境課題の解決のために取り組んでいく。

※投げ銭のウェブサービス「KASSAI」を活用

【プロジェクト概要】

概要：専用ウェブサイトアクセスし、好きな返礼品を購入することで、プロジェクトに参加。システム利用料などの経費を差し引いた額を応援資金とし、普段スタジアムでのサッカー観戦がなかなかできない子どもたちをスタジアムに招待するために活用した。応募期間は2021年3月19日から3月30日。

招待：6月12日に豊田スタジアム(愛知県)で行われたU-24日本代表の国際親善試合に、聴覚障がいのある子ども11人とご家族の計20人を招待。名古屋駅からの交通手段やスタジアムでの観戦を、同様に聴覚障がいのあるJFA職員を含め、手話や筆談などでサポートした。福岡県での試合が無観客となったため、愛知のみの招待となった(参加者は愛知県在住)。

【参加者コメント】

■青井莉桜さん(中学1年生)

好きな選手を近くで見ることができて興奮しました。私はデフサッカー日本代表の選手になることを目指しているので、今日の試合を観て、より練習を頑張ろうと思いました。

■北山泰人さん(小学5年生)

相馬選手がドリブルをしてゴールにつなげ、他の選手が頑張った結果、日本が勝てたと思います。チームワークはとても素晴らしくて、僕も自分のチームで同じように真似したいと思いました。ジャマイカが日本の攻撃を頑張って守ったところもかっこよかったです。試合全体で良いシーンがいくつかあり、勉強になりました。

■青井有美香さん(保護者)

今日のような機会を子どもたちに下さり、本当にありがとうございました。いつもは画面越しで観ている選手たちを目前にして、いろいろな意味の刺激をもらえました。スタジアムで感じる緊張感は何とも言えない気持ち良さがありました。とても楽しい時間をありがとうございました。



招待された子どもたちはスタジアムの観客席 中山雄太選手は手話で子どもたちに動画メッセージを送った



JFA職員らが観戦をサポート

U-24日本代表

7月5日からの代表活動にトレーニングパートナーとして6選手が参加

JFAは7月2日、7月5日から始まるU-24日本代表の活動に、トレーニングパートナーとして6選手が参加することを発表した。トレーニングパートナーは、7月17日までチームに帯同し、U-24日本代表の東京オリンピックに向けた最後のトレーニングキャンプに参加する。メンバーは下記の通り。

【U-24日本代表トレーニングパートナー（7月5日～17日に参加）】

DF 鈴木 海音 (SUZUKI Kaito)

所属：ジュビロ磐田

生年月日：2002年8月25日

身長／体重：182cm／72kg

MF 武田 英寿 (TAKEDA Hidetoshi)

所属：浦和レッズ

生年月日：2001年9月15日

身長／体重：177cm／69kg

DF 山本 理仁 (YAMAMOTO Rihito)

所属：東京ヴェルディ

生年月日：2001年12月12日

身長／体重：176cm／65kg

MF 藤田 謙瑠チマ (FUJITA Joel Chima)

所属：徳島ヴォルティス

生年月日：2002年2月16日

身長／体重：172cm／70kg

MF 成岡 輝瑠 (NARUOKA Hikaru)

所属：清水エスパルス

生年月日：2002年7月28日

身長／体重：170cm／59kg

FW 櫻川 ソロモン (SAKURAGAWA Solomon)

所属：ジェフユナイテッド千葉

生年月日：2001年8月4日

身長／体重：190cm／91kg

なでしこジャパン(日本女子代表)

7月14日、MS&ADカップ2021でオーストラリア女子代表と対戦

JFAは6月25日、7月14日のMS&ADカップ2021でなでしこジャパン(日本女子代表)がオーストラリア女子代表と対戦することを発表した。試合詳細は下記の通り。

【MS&ADカップ2021 概要】

日時：2021年7月14日(水) 19:20 キックオフ予定

対戦：なでしこジャパン 対 オーストラリア女子代表

会場：京都/サンガスタジアム by KYOCERA

主催：公益財団法人日本サッカー協会

主管：一般社団法人京都府サッカー協会

後援：京都府、亀岡市

特別協賛：MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス株式会社

日本代表オフィシャルパートナー

：キリンビール株式会社、キリンビバレッジ株式会社

日本代表オフィシャルサプライヤー：アディダス ジャパン株式会社

テレビ放送：TBS系列にて全国生中継

過去の戦績：日本の9勝2分け5敗

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を行った上で開催

■高倉麻子なでしこジャパン監督

東京オリンピック前、最後の実戦の相手に、アジアの仲間であり、ライバルであるオーストラリアという素晴らしいチームが決まったことをうれしく思います。2023年にニュージーランドとの FIFA女子ワールドカップ共催が決まっているオーストラリアは、自国開催の大会を盛り上げるためにも東京オリンピックで上位進出を狙っていると思います。グループステージでFIFA女子ランキング上位のアメリカとスウェーデンという強豪国と戦うオーストラリアが、大会直前のこの一戦を非常に重要なものと位置づけていることは間違いありません。互いに真剣勝負を通して、この貴重な試合を価値ある時間にし、私たちもまた成長し、東京オリンピックに向かってチームに勢いをもたらすことができるよう、一丸となって全力で戦います。

フットサル日本代表

FIFAフットサルワールドカップリトアニア2021の組み合わせが決定

9月に開幕するFIFAフットサルワールドカップリトアニア2021の組み合わせ抽選会が6月2日(日本時間)、スイスのチューリヒにある国際サッカー連盟(FIFA)で行われた。フットサル日本代表はグループEに入り、アンゴラ、パラグアイ、スペインと同組になった。

【グループステージ組み合わせ】

グループA：リトアニア、ベネズエラ、カザフスタン、コスタリカ

グループB：ウズベキスタン、グアテマラ、ロシア、エジプト

グループC：タイ、ポルトガル、モロッコ、ソロモン諸島

グループD：パナマ、チェコ、ベトナム、ブラジル
グループE：アンゴラ、日本、パラグアイ、スペイン
グループF：アルゼンチン、アメリカ、セルビア、イラン

【フットサル日本代表マッチスケジュール】※日時は現地時間
9月14日(火) グループステージ vs アンゴラ(クライペダ)
9月17日(金) グループステージ vs スペイン(クライペダ)
9月20日(月) グループステージ vs パラグアイ(ヴィリニユス)
9月23日(木)・24日(金) ラウンド16
9月26日(日)・27日(月) 準々決勝
9月29日(水)・30日(木) 準決勝
10月3日(日) 3位決定戦、決勝

■ブルーノ・ガルシア監督

競争の激しいグループになったと感じています。優勝候補として常連で、現在FIFAランキング1位のスペインはその強さを十分に知っている相手です。パラグアイも昨年日本に招いて試合をしています。ワールドカップでの経験が豊かで、グループステージ突破を何度も果たしている南米の強豪です。アンゴラは未知の相手ではありますが、これで私たちの“海図”が出来上がりました。まずこの相手に9月14日にクライペダで勝ち、以前から掲げてきたワールドカップの舞台の主役たる脚光を浴びる一歩目を確実に踏むこと。道のりは簡単ではありませんが、私たちは大きな目標をエネルギーとして進むチームです。実現に値する取り組みを続け、最善の準備をして臨みたいと思います。頑張ります！

サッカーe日本代表

キリンビバレッジ社特別協賛によるサッカー e日本代表の国際親善試合を初開催

JFAはキリンビバレッジ社の特別協賛の下、サッカー e日本代表の「e国際親善試合KIRIN iMUSE CUP」を初めて開催した。同大会ではeマレーシア代表とオンラインで対戦。対戦の様子はJFA公式YouTube チャンネル「JFATV」で配信された。

8月にデンマークで行われる世界大会「FIFAE Nations Cup」に出場するe日本代表にとって、eスポーツ・サッカーにおけるアジアの強国マレーシアとの試合は貴重な強化の機会となった。

【大会概要】

大会名 : e国際親善試合KIRIN iMUSE CUP
(e国際親善試合 キリン イミューズ カップ)
日時 : 2021年6月24日(木) 20時配信
対戦 : e日本代表 対 eマレーシア代表
主催 : 公益財団法人日本サッカー協会
特別協賛 : キリンビバレッジ株式会社
日本代表オフィシャルパートナー
: キリンビール株式会社、キリンビバレッジ株式会社
日本代表オフィシャルサプライヤー
: アディダス ジャパン株式会社
配信 : 日本サッカー協会公式YouTube チャンネル「JFATV」
URL : <https://youtu.be/3fLUeJmLa0>
ゲスト : 貴島明日香さん
解説 : 佐藤寿人さん(元サッカー日本代表)

MC : 羽染貴秀さん
対戦形式 : オンライン(2vs2)/FUTモード(任意の選手でチームを構成)/延長、PK有り
3試合を戦い、勝ち数の多い国が勝利/プラットフォームはPlayStation®4
エキシビジョンマッチ
: eマレーシア代表との対戦後に貴島明日香さん+Jay選手vs佐藤寿人さん+Web Nasri 選手のエキシビジョンマッチを実施

■須原清貴 JFA専務理事

「e国際親善試合 KIRIN iMUSE CUP」の初開催にあたり、e日本代表をサポートして下さるキリンビバレッジに心より深く感謝申し上げます。e日本代表にとってKIRIN iMUSE CUPは、8月に出場予定の国際大会「FIFAE Nations Cup」に向けた、とても重要な強化の機会となります。選手たちには最高の試合をしてもらうことを期待しています。サッカーの多様な楽しみ方の一つとして、eスポーツはその大きな柱となっています。キリンビバレッジと共に、e日本代表の活躍の機会を創っていただけることをとてもうれしく、心強く思います。ファン、サポーターの皆さまには、芝の上のサッカーと同じような興奮や感動、緊張感を、eスポーツでも感じていただけるはず。ぜひ一緒に、画面の前でこの楽しさを共有しましょう。

JFAアカデミー福島

JFAアカデミー福島女子、2024年4月から福島県での活動再開

JFAは、2011年から静岡県で活動していたJFAアカデミー福島(女子)を2024年4月から福島県に戻し、同県での活動を再開することを決定した。同年4月に入校する中学1年生に加え、中学2年生から高校3年生まで5学年が一斉に帰還する予定(6月30日発表)。

なお、男子は、2006年の発足当初と比べて国内のユース年代を取り巻く基盤整備が大幅に進んだことから、これまで中高一貫の6年制としてきたものを中学3年制に変更。2021年から段階的に福島県への帰還を進め

ており、今年4月に第16期生の中学1年生が福島県での活動を再開している(2023年に中1から中3まで全学年がそろそろ予定)。一方、女子はこれまで通り、中高一貫教育(6学年)での活動となる。

JFAは、復興のシンボルであるJヴィレッジが2019年に再開した地で、再び世界に通用する人材の育成を進めていく方針。サッカー面においては、これまで同様、「個の育成」を徹底し、教育面においては「双葉地区教育構想」の下、福島県と連携し、サッカーを通じた国際交流や英会話など

JFAリリースインフォメーション&活動報告 月刊レポート

の教育プログラムをより充実させていく。

【JFA アカデミー福島の活動背景】

2006年：JFAアカデミー福島は福島県広野町（男子）、楢葉町（女子）にて開校。男子・女子ともに中高の6年制プログラムとして活動を開始。

2011年：東日本大震災の影響により、拠点を静岡県御殿場市（男子）、裾野市（女子）に移して活動を継続。

2018年：2019年4月のJヴィレッジ再開など、福島県での活動基盤が徐々に整ってきたことから、2024年4月からの福島県での活動再開に向けて帰還することが決定。

【JFAアカデミー福島女子、福島県内での再開方法】

(1)再開時期 : 2024年4月

(2)再開方法 : 2024年4月に静岡で活動する5学年の福島帰還に加え、中学1年生の入学をもって6学年がそろえる。2024年の4月時点で、中学1～3年生は楢葉中学校に入学/転校。高校1年生はふたば未来学園へ入学。また、高校2・3年生は、三島長陵高校の一部を借用し、運営されていたふたば未来学園のサテライト校から本校舎へ移転を図る。

(3)静岡県での活動 : 2024年3月の時点で、静岡県で活動している5学年は福島県に帰還（女子はこれまで通り、6年制で活動予定）。2024年3月末をもって静岡での活動は終了。

2021年JFA・Jリーグ特別指定選手

選手 : 久保藤次郎(くぼ とうじろう)
 ポジション : MF
 生年月日 : 1999年4月5日
 身長/体重 : 167cm / 64kg
 所属元 : 中京大学
 所属歴 : FCヴェルダン⇒名古屋グランパス三好FC⇒帝京大可児高校
 受入先 : 藤枝MYFC
 認定日 : 2021年6月15日

選手 : 三浦颯太(みうら そうた)
 ポジション : DF
 生年月日 : 2000年9月7日
 身長/体重 : 178cm / 70kg
 所属元 : 日本体育大学
 所属歴 : FCゴロアーズ⇒FC東京U-15むさし⇒帝京高校
 受入先 : ヴァンフォーレ甲府
 認定日 : 2021年6月15日

選手 : 近藤友喜(こんどう ともぎ)
 ポジション : MF
 生年月日 : 2001年3月21日
 身長/体重 : 172cm / 64kg
 所属元 : 日本大学
 所属歴 : 名古屋グランパスU-12⇒名古屋グランパスU-15⇒前橋育英高校
 受入先 : 横浜FC
 認定日 : 2021年6月15日

選手 : 福井悠人(ふくい ゆうじん)
 ポジション : FW
 生年月日 : 2003年7月12日
 身長/体重 : 165cm / 57kg
 所属元 : 相生学院高校
 所属歴 : アーバンベガサスFC⇒賢明サッカークラブ⇒賢明学院高校⇒神村学園淡路島

受入先 : カマタマーレ讃岐
 認定日 : 2021年6月15日

選手 : 加藤匠人(かとう たくと)
 ポジション : MF
 生年月日 : 1999年5月9日
 身長/体重 : 172cm / 68kg
 所属元 : 筑波大学
 所属歴 : 柏レイソルU-12⇒柏レイソルU-15⇒柏レイソルU-18
 受入先 : 柏レイソル
 認定日 : 2021年6月22日

選手 : 谷口栄斗(たにぐち ひろと)
 ポジション : DF
 生年月日 : 1999年9月30日
 身長/体重 : 181cm / 77kg
 所属元 : 国士舘大学
 所属歴 : 東京ヴェルディジュニア⇒東京ヴェルディジュニアユース⇒東京ヴェルディユース
 受入先 : 東京ヴェルディ
 認定日 : 2021年6月22日

※JFA・Jリーグ特別指定選手制度：サッカー選手として最も成長する年代に、種別や連盟の垣根を越え、「個人の能力に応じた環境」を提供することを目的とした制度。全日本大学サッカー連盟、全国高等学校体育連盟サッカー部、またはJクラブ以外の大学運営（学校法人）のチームに所属する学生選手、もしくは日本クラブユースサッカー連盟の加盟チームの所属選手を対象にJFAが認定した選手に限り所属チーム登録のまま、Jリーグ等の試合に出場可能となる。

2021年 JFA・WEリーグ/なでしこリーグ特別指定選手

選手 : 藤野あおば (ふじの あおば)
 ポジション : FW
 生年月日 : 2004年1月27日
 身長/体重 : 160cm / 53kg
 所属元 : 十文字高校
 所属歴 : 南大沢フットボールクラブ→日テレ・メニーナ・セリアス
 →十文字高校
 受入先 : 日テレ・東京ヴェルディベレーザ
 認定日 : 2021年6月17日

※JFA・WEリーグ/なでしこリーグ特別指定選手制度：サッカー選手として最も成長する年代に、「個人の能力に応じた環境」を提供することを目的とした制度。受入先のWEリーグおよびなでしこリーグ1部所属のクラブが、当該選手の高い能力をさらに伸ばすための環境を有し、かつ、同選手を各リーグの公式試合に積極的に出場させる具体的計画を有することをJFAによる認定の条件とする。認定要件を全て満たし、受入先クラブの申請に基づきJFAが認定した選手は、所属チーム（大学または高校等）に登録したまま、受入先クラブの選手としてリーグ等の公式試合に出場可能となる。

天皇杯 JFA 第 101 回全日本サッカー選手権大会

オンライン開幕記者会見および天皇杯返還式を実施

5月22日の「天皇杯 JFA 第101回全日本サッカー選手権大会」の開幕に先立ち、JFAは5月19日にオンラインによる記者会見を開催した。

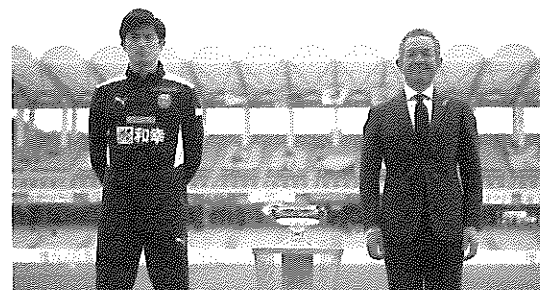
会見には、JFAの田嶋幸三会長、天皇杯実施委員会の須原清貴委員長（JFA専務理事）、第100回大会で優勝した川崎フロンターレから谷口彰悟キャプテンと中村憲剛リレーションズオーガナイザーが出席した。

今年、JFAは創立100周年を迎え、天皇杯は101回目の開催となる。田嶋会長は「天皇杯の歴史が私たちJFAの歴史と言っても過言ではない」と権威ある大会を強調。コロナ禍が続く中、「しっかりした予選、大会運営をしてくださった47都道府県サッカー協会、関係者、ボランティアの皆さんに感謝したい。皆さんと一緒に素晴らしい大会にしていきたい」と話した。

須原委員長は第101回大会の概要を説明した。初出場となる6チームには「フレッシュかつ果敢なプレーに期待したい」としつつ、「地域リーグ所属同士や大学生同士の対戦でも、舞台が変わることで異なる緊張感が出てくるのが天皇杯の面白さ」と見所なども紹介。「この厳しい環境でもスポーツ活動を継続できるのは、支えてくださる関係者や最前線で日々奮闘している医療従事者、各地域でクラブやチームを応援くださるファン・

サポーターの方々のおかげ。安全・安心を最優先し、しっかりとした予防対策を講じながら、今大会のスローガンでもある『新時代』を築いていく」と力を込めた。

5月16日には『天皇杯返還式』が等々力陸上競技場で執り行われ、川崎フロンターレの谷口キャプテンから須原委員長に天皇杯が返還された。谷口キャプテンは「一戦一戦を大事に、総力戦で戦いながら決勝を戦って、優勝杯を掲げたい」と抱負を語った。



5月16日には等々力陸上競技場で天皇杯返還式を行った。川崎Fの谷口キャプテン（左）と須原委員長

JFA U-18 女子サッカーファイナルズ 2021

今年9月、高校総体とクラブユースの上位4チームが対戦

JFAは U-18年代女子チームのさらなる技術力向上を目指し、新たに「JFA U-18女子サッカーファイナルズ2021」を開催することを決定した。同大会は、全国高等学校体育連盟の所属チームと、日本クラブユースサッカー連盟の所属チームが対戦し、U-18年代女子チームの真の日本一を決定するもの。大会には令和3年度全国高等学校総合体育大会の優勝・準優勝チーム、XF CUP 2021 第3回日本クラブユース女子サッカー大会（U-18）の優勝・準優勝チームの計4チームが出場し、9月18日、20日にサンガスタジアム by KYOCERA（京都府）で対戦する（6月24日発表）。

【大会概要】

趣旨 : 公益財団法人日本サッカー協会（以下「本協会」という）は日本国内における女子サッカーの技術向上と健全な心身の育成を図り、広く女子サッカーの普及振興に寄与することを目的とし、「高校」、「クラブ」のチームを対象とした単独チームの大会として実施する。

名称 : JFA U-18女子サッカーファイナルズ2021
 主催 : 公益財団法人日本サッカー協会
 主管 : 一般社団法人京都府サッカー協会
 協賛 : JFA Youth & Development Official Partner
 アイリスオーヤマ株式会社
 トヨタ自動車株式会社
 ニチバン株式会社
 株式会社モルテン
 日程 : 2021年9月18日（土）準決勝、9月20日（月祝）決勝
 会場 : サンガスタジアム by KYOCERA（京都府亀岡市）
 参加チーム : 令和3年度全国高等学校総合体育大会の優勝・準優勝の2チーム
 XF CUP 2021 第3回日本クラブユース女子サッカー大会（U-18）の優勝・準優勝の2チーム
 大会形式 : ノックアウト形式（第3位決定戦は行わない）。勝敗が決定しない場合はPK方式により勝利チームを決定する。

Jリーグ(日本プロサッカーリーグ)

「環境省とJリーグの連携協定」を締結

Jリーグと環境省は6月28日、連携協定を締結した。同日、小泉進次郎環境大臣と村井満Jリーグチェアマンが連携協定に署名した。

この協定締結を機に、環境省は、全国に57クラブあるJリーグとも連携して各種環境政策を展開するとともに、Jリーグは環境省の知見も活用して地域に根ざしたSDGsの取り組みを一層推進していく。連携協定の概要については、Jリーグ公式ウェブサイト参照。

【背景・経緯】

環境省は、地域資源を活用して、環境・経済・社会が統合的に向上する「地域循環共生圏(ローカルSDGs)」の実現を目指し、地方自治体、地域の企業、金融機関、市民団体、大学・学校等が一体となった地域社会づくりを進めている。また、最近では、国と地方の協働・共創による地域における2050年脱炭素社会の実現に向けて、「地域脱炭素ロードマップ」の策定を主導している。

Jリーグは、1991年の創設後、Jクラブの本拠地を「ホームタウン」と呼び、ホームタウンと定めた地域と一体となったクラブづくりを重要な

活動方針と定め、地方自治体、地域のスポンサー企業、サポーター、地域のメディア、クラブ運営を支えている数多くの地域社会の人々とともに、地域に夢と楽しみを提供することにこだわってきた。また、世界で一番地域を愛するプロサッカーリーグになりたいとのスローガンを掲げ、ホームタウン活動や、地域の企業等のステークホルダーと連携した社会連携活動「シャレン！」を進め、この取り組みを通じてSDGsにも貢献している。

このように環境省とJリーグは、地域の多様な主体とともに、地域の活力を最大限発揮し、持続可能で魅力あふれる地域社会をつくり、将来世代の未来を、より良いものにしていきたいとの思いを持ってさまざまな取り組み、活動を行っている。

これまで、環境省とJクラブが個別に連携し、気候変動対策を盛り上げるといった取り組みを実施しており、そのような経験も生かしながら、環境省とJリーグとの間で包括的な連携協定を締結し、それぞれが持つ知見・強み・特徴を広く共有して、相互に活用することで、より効果的に取組・活動の推進を図っていく。

イタリア、サンマリノ、バチカン市国での放映開始

Jリーグは7月2日、OneFootballと2021明治安田生命J1リーグの海外放映について合意・決定したことを発表した。対象国・地域はイタリア、サンマリノ、バチカン市国の計3カ国で、7月30日からOneFootballの

OTTプラットフォーム(無料)で生放映が開始されている。その他、海外での放映国・地域の詳細についてはJリーグ公式ウェブサイト参照。

WEリーグ(日本女子プロサッカーリーグ)

レキットベンキーザー・ジャパン株式会社と「シルバーパートナー」契約を締結 ～女性の脚を支える「メディキュット」がWEリーガーをサポート

WEリーグは、レキットベンキーザー・ジャパン株式会社とシルバーパートナー契約を締結した(6月4日発表)。

レキットベンキーザー・ジャパン株式会社は、医学に基づいた段階圧力設計を採用した着圧ソックスである「メディキュット」を通じて、脚から女性の健やかなライフスタイルをつくるサポートをしている。女性の社会進出がますます進むこれからの時代に、アスリートはもちろん、あらゆる女性にとって、その挑戦を支え、共に前進するための健康的な脚づくりは欠かせない。「社会での活躍を目指す女性を応援したい」という同社の思いから、同パートナーシップ契約締結に至った。

WEリーグは、「あらゆる女性の脚のパートナー」を目指すレキットベンキーザー・ジャパンと共に、女性を応援する様々な取り組みに挑戦していく。

【レキットベンキーザー・ジャパン株式会社】

創立 : 2000年7月

事業内容 : フットケア製品、ホームケア製品、自動食器洗い機専用洗剤、医薬部外品、医薬品の製造、販売

本社所在地 : 東京都品川区東五反田3丁目20番14号住友不動産高輪パークタワー14/15F

代表取締役 : シャイレッシュ・シユクラ

URL : <https://www.mediqtto.jp/>

■岡島喜久子 WEリーグチェア

「脚」という共通点を持つ私たちがこうして手を取り、女性たちの活躍を社会へ発信していけることに大きな喜びを感じています。「メディキュット」と聞けば、女性のライフスタイルを支える強い味方です。脚を酷使するWEリーガーにとっても、一日中スタジアムを駆け回る試合運営スタッフや関係者にとっても、非常に心強い「脚のパートナー」になることでしょう。メディキュットの支えとともに、WEリーグらしさ溢れる素晴らしい試合をファン・サポーターにお届けしたいと思います。

2021年第7回理事会を開催

WEリーグは6月23日、2021年第7回理事会をオンライン形式で開催し、下記の通り、報告がなされた（抜粋して掲載）。

【決議事項】

●2021年度事業計画

WEリーグ2021年度事業計画を下記の通りとする。

1. 当法人に関する事項

(1) 事業の計画

（単位：千円）

項目	予算額
経常収益	1,250,000
経常費用	1,249,455
当期経常増減額	545
当期一般正味財産増減額	545

当法人は、以下の活動を主体的に実施する。

①女子プロサッカーの試合の主催

WEリーグ・11クラブリーグ戦 全110 試合

②公式記録の作成、管理及び運用

公式試合、公式行事の記録や映像・静止画像の作成・収録、保管、管理および販売ならびに選手肖像権等の管理

③女子プロサッカーに関する諸規約の制定

④女子プロサッカーの選手、監督及び審判等の養成、資格認定及び登録

⑤放送等を通じた女子プロサッカーの試合の広報普及

⑥サッカー及びサッカー技術に関する調査、研究および指導

⑦サッカーに関する国際的な交流及び事業の実施

⑧サッカーをはじめとするスポーツの振興及び援助

⑨機関紙の発行等を通じた女子サッカーに関する広報普及

⑩女性活躍推進をはじめとする社会課題に関するイベントや研修の実施

⑪その他目的を達成するために必要な事業

女子プロサッカーに関するパートナー、スポンサー およびサプライヤーとのリレーション構築等

また、WE リーグ・クラブを含めた放送権や パートナーシップを、Wリーグで一括管理し、放送権料や協賛金を一定のルールに基づきクラブに配分する。

(2) 主要な事業内容

日本の女子サッカーの水準の向上および女子サッカーの普及を図ることにより、国民に対して豊かなスポーツ文化の振興と心身の健全な発達に寄与する事業

①公式試合安定運営事業

②選手育成アカデミー事業

③人材育成事業

④ホームタウン活動

⑤クラブライセンス認定事業

(3) 会員に関する事項

種類	令和3年5月末
正会員	12名
賛助会員	0名
名誉会員	0名
合計	12名

(4) 役員会等に関する事項

①理事会 定時 年間12回開催予定

②総会 定時 年間1回開催予定

(5) 対処すべき課題

令和3年9月に女子プロサッカーリーグ「WEリーグ」が、11クラブで開催します。開幕に対応するため、現在WEリーグの陣容の整備、WEリーグ運営に関する諸規則の整備、WEリーグの公益法人移行等早急に進めています。また、新型コロナウイルスへの感染防止と安心安全なリーグ戦の実施を両立するため、感染予防への主な対応として、「WEリーグ新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン」の策定・運用、WEリーグ公式検査の企画・実施に引き続き取り組んでいます。

WEリーグは、11クラブの安定的な経営と各クラブが使用するスタジアムを起点とするホームタウンの発展、魅力的な女子サッカーの試合の提供ができるよう取り組みます。そして、WE リーグの発展と成長を図るため、WEリーグの各クラブと成長戦略を共有し、女子サッカーを共有し、女子サッカーやスポーツを通じ、人々が男女関係なく、夢や生き方の多様やスポーツを通じ、人々が男女関係なく、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に、性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に、全力で全力で努めてまいります。努めてまいります。

2. 役員等に関する事項

(1) 理事

※WEリーグ公式ウェブサイト参照

(2) 幹事

※WEリーグ公式ウェブサイト参照

●2021年度予算

WEリーグ2021年度予算を下記の通りとする。

正味財産増減予算書（2021年7月1日から2022年6月30日まで）

（単位：円）

科目	金額
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益計	1,250,000,000
(2) 経常費用	
① 事業費	(1,082,537,000)
リーグ運営費	150,869,000
開幕前イベント事業費	8,000,000
広報事業費	82,064,000
プロモーション事業費	90,300,000
マーケティング事業費	123,084,000
放送制作費	137,720,000
システム開発費	3,300,000
クラブ配分金	421,000,000
理念推進関連費用	14,000,000
その他事業費	52,200,000
② 管理費	(166,918,000)
経常費用計	1,249,455,000
当期経常増減額	545,000
当期一般正味財産増減額	545,000

【報告事項】

●WEリーガー研修会

研修会名を、「新人研修」から「WEリーガー研修会」に変更する。研修会の概要は下記の通り。

JFAリリースインフォメーション&活動報告 月刊レポート

(日程・場所)

日程：2021年7月7日(水)～9日(金)

時間：60分×3コマ×3日間

午前コース 9時～12時30分(9日のみ、9時30分～13時)

午後コース 14時～17時30分

場所：オンライン

午前(Wコース)	7月7日(水)	7月8日(木)	7月9日(金)
W1	9:00-10:00 9:40-10:40* イントロダクション EM'POWER'MENT するために 東明有美・小林美由紀	アスリートの 心の整え方 坂中尚哉	自己を知る バージョンレポート を読む
W2	10:10-11:10 10:50-11:50* フロアアスリートで あるために (インテグリティとは) 増島みどり	プロフェッショナルとは 中村憲剛	チームビルディング 東明有美
W3	11:20-12:20 12:00-13:00* 性の多様性 ～自分らしくあるために～ 野口亜弥	アスリートの メディア対応 三須亜希子	自分の身体を知る 高尾美穂

(*7月9日のみ9:30～13:00)

午後(Eコース)	7月7日(水)	7月8日(木)	7月9日(金)
E1	14:00-15:00 イントロダクション EM'POWER'MENT するために 東明有美・小林美由紀	フロアアスリートで あるために (インテグリティとは) 増島みどり	プロフェッショナルとは 播戸竜二
E2	15:10-16:10 自分の身体を知る 高尾美穂	アスリートの 心の整え方 坂中尚哉	自己を知る バージョンレポート を読む
E3	16:20-17:20 性の多様性 ～自分らしくあるために～ 野口亜弥	アスリートの メディア対応 三須亜希子	チームビルディング 東明有美

●ノジマステラ神奈川相模原のエンブレム・ロゴデザイン変更

ノジマステラ神奈川相模原は、2021年6月15日付でエンブレムおよびロゴデザインを変更した。

7月1日より、公益社団法人に移行

日本女子プロサッカーリーグ(WEリーグ)は、7月1日付で公益社団法人に移行した。内閣府に対して公益社団法人への移行申請を進めており、

この度、内閣総理大臣から公益認定を受けた。



「TEAM FOOTBALL JAPAN 2020」をスタート

第32回オリンピック競技大会(2020/東京)・ 東京2020パラリンピック競技大会 応援プロジェクト

JFAは、(公社)日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)、(一社)日本女子プロサッカーリーグ(WEリーグ)、(一社)日本障がい者サッカー連盟(JIFF)、(特非)日本ブラインドサッカー協会(JBFA)と共に「TEAM FOOTBALL JAPAN 2020」を結成した。6月30日、オンラインで共同会見を行い、JFAの田嶋幸三会長、Jリーグの村井満チェアマン、JIFFの北澤豪会長、JBFAの塩嶋史郎理事長が出席して概要を説明。WEリーグの岡島喜久子チェアは動画でコメントを発表した。

「TEAM FOOTBALL JAPAN 2020」は、第32回オリンピック競技大会(2020/東京)、東京2020パラリンピック競技大会に出場するサッカー男子(U-24日本代表)、サッカー女子(なでしこジャパン)、5人制サッカー(ブラインドサッカー男子日本代表)をサッカーファミリーが一体となって応援し、性別や年齢、障がいの有無などの違いを超えて人々が絆を深め合うスポーツの価値を伝えることを目指す同プロジェクト。多くの人に賛同してもらいながら、自国開催のオリンピック・パラリンピックの機運を高め、コロナ禍における大会の成功に寄与したいという思いから立ち上がった。

なお、サッカー男子、サッカー女子、5人制サッカーの3チームは、初めて同じユニフォームを着用して今大会に臨む。田嶋会長は「多くのアパレルメーカーのご理解とご協力があって、3チームが初めて同じ代表ユニフォームを着ることができ。JFAが100周年を迎え、自国でオリンピック・パラリンピックが開催される年に、3チームが同じユニフォームを着ることは歴史的なこと」と強調。また、JBFAの塩嶋理事長は「ブラインドサッカーがこのプロジェクトに参加できたことは大変意義深いこと」とし、「U-24日本代表、なでしこジャパンと同一ユニフォームを着て戦えることを誇りに思う。われわれはブラインドサッカーを通じて、視覚障がい者と健常者が共存する社会を実現す

ることを掲げて活動している。ブラインドサッカーは視覚障がい者と健常者が一緒にプレーする、共生社会が反映されている競技。共生社会の実現に貢献していきたい」と力を込めた。

U-24日本代表、なでしこジャパン、ブラインドサッカー男子日本代表は、共に代表の誇りを胸に東京オリンピック・パラリンピックでのメダル獲得を目指す(71ページに関連情報あり)。

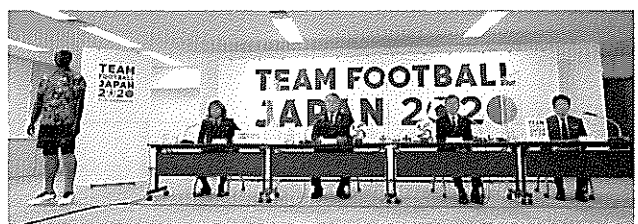
■「TEAM FOOTBALL JAPAN」特設ホームページ URL

<https://www.jfa.jp/teamfootballjapan/>



■「TEAM FOOTBALL JAPAN」コンセプトムービー URL

<https://www.youtube.com/watch?v=sJ3RppqYRYU>



共同会見より。左から北澤豪JIFF会長、田嶋幸三JFA会長、村井満Jリーグチェアマン、塩嶋史郎JBFA理事長

DREAM



100th
Anniversary
since 1921

過去への感謝、 未来への決意

英国から伝えられたとされるサッカー。
多くの人々の熱意と努力によって支えられ、歴史をつないできました。

世界が遥か遠くにあった時代、戦争によって孤立した時期、大規模な自然災害——。
過酷な試練に翻弄されながらも、先人たちは決して諦めることなく夢中でボールを蹴り、
失敗と挑戦を繰り返しながらその裾野を広げてきました。

長い年月を経て、日本サッカーは多くの人々に愛されるスポーツとなり、
世界の強豪と渡り合えるまでに成長しました。

日本サッカー協会は2021年、創立100周年を迎えます。
わたしたちはこの節目を機に、過去に想いを馳せ、
サッカーがもたらす感動と興奮、そこから広がる友情の輪、
サッカーを通じて養うことができる倫理観や社会規範など
サッカーが持つさまざまな価値を見出したいと考えます。

そして、日本サッカーの存在意義を深く心に刻み、次なる飛躍に向けた「決意」とします。

JFA100周年





日本サッカー協会（JFA）は2021年6月17日、2021年度第7回理事会をオンラインで開催した。決議、報告された事項は、下記の通り。

決議事項

- 1 2020年度JFA一括補助金の再交付 P36

2020年度JFA一括補助金の再交付

2020年度JFA一括補助金について、返金が発生した地域／都道府県FAに対して、下記の通り再交付を行いたい。申請や精算等の運用詳細については、別途事務局にて案内を作成する。

なお、各地域FAおよび各都道府県FAを兼任する理事は、本件について利害関係を有するため、決に加わることができない。

【趣旨・目的】

- 2020年度はコロナ禍で多くの事業が延期中止となり、一括補助金を活用できずに返金が発生した地域／都道府県FAが多い。
- 2021年度は、コロナ禍の影響で延期となった事業や離れてしまった登録者を取り戻すための事業など、通常とは異なる取り組みを実施する可能性がある。
- これらを踏まえ、2021年度に限定し、2020年度一括補助金の残金を再交付して事業実施の援を行いたい。

【対象】

2020年度JFA一括補助金の残金が発生した地域／都道府県FAとする（8地域FAと35都道府県FA）

【交付額】

- 2020年度JFA一括補助金の返金額を上限とする。ただし、事務局運営費返金分は交付上限額に含まない（265,419,961円）。
- 交付額は、事業実施に必要な額のみとする。

【対象事業】

- 各地域／都道府県FAが2021年度の期初に策定した予算および年間事業計画に含まれておらず追加で実施する事業。
- 対象となる事業は「公益目的事業」とし、補助の対象となる経費はその事業を実施するため必要な直接経費とする。

【対象期間】

2021年6月から2022年3月までの間に実施され、支出される事業

<2020年度JFA一括補助金 再交付上限額>

（単位：円）

都道府県	再交付上限額	都道府県	再交付上限額	都道府県	再交付上限額
北海道	12,271,139	新潟	3,012,794	岡山	0
青森	3,868,994	富山	12,307,637	広島	0
岩手	4,573,435	石川	6,306,841	山口	332,557
宮城	0	福井	6,210,046	香川	203
秋田	4,476,635	静岡	0	徳島	262,437
山形	10,000,000	愛知	9,251,601	愛媛	11,325,596
福島	26,788	三重	2,379,889	高知	0
茨城	280,000	岐阜	509,500	福岡	251,618
栃木	0	滋賀	100,000	佐賀	867,473
群馬	4,363,858	京都	9,539,202	長崎	0
埼玉	395,430	大阪	0	熊本	0
千葉	310,769	兵庫	27,572,043	大分	250,000
東京	80,304,311	奈良	7,116,433	宮崎	0
神奈川	450,000	和歌山	4,397,762	鹿児島	4,796,387
山梨	1,443,740	鳥取	973,928	沖縄	7,748,160
長野	0	島根	0		

9地域	再交付上限額
北海道	4,958,629
東北	0
関東	3,514,816
北信越	2,187,627
東海	7,824,229
関西	2,932,775
中国	3,012,840
四国	275,948
九州	2,435,891

報告事項

- 1 第16回FIFAカウンスル会議(5月20日開催) P36
- 2 第71回FIFA総会(5月21日開催) P37
- 3 国際協力機構(JICA)、Jリーグ、WEリーグとの
パートナーシップに関する覚書更新 P37
- 4 2020年度スポーツ団体ガバナンスコード・
適合性審査結果の通知 P38
- 5 JFA地域ガールズ・エイト(U-12)サッカー大会
トレセン事業への移行 P38
- 6 JFAサッカー施設整備助成事業 P38
- 7 JFAロングバイル人工芝ピッチ公認(更新) P38
- 8 JFAロングバイル人工芝ピッチ公認(新規) P39
- 9 JFA・Jリーグ特別指定選手制度
.....2021年5月号P20および6月号P23
- 10 なでしこジャパン海外強化指定選手制度 P39
- 11 サッカー競技規則第3条暫定的改正の再延長についての通達文発信 ... P39
- 12 審判員海外派遣 P39

第16回FIFAカウンスル会議(5月20日開催)

第16回FIFAカウンスル会議が5月20日、オンライン上で行われた。主な決定・報告事項は下記の通り。

- (1) FIFAフットボールステークホルダー委員会が登録制度改革の一環として決定した「第三のリフォームパッケージ」を承認した。主な内容は下記の通り。
 - ①未成年選手の国際移籍に関する例外やその他規則の検討

左ページ左上へ続く

- ②期限付き移籍に関する新ルールの施行（期限付移籍で登録させる選手／する選手数の上限設定）
 - ③登録ウインドーやシーズンの定義
 - ④財務ガバナンスに関するガイドライン策定
- (2) インターナショナルマッチカレンダーについて、下記を含む大会日程を承認した。
- ① FIFA女子ワールドカップオーストラリア&ニュージーランド2023™（2023年7月20日～8月20日）
 - ② FIFA女子ワールドカップオーストラリア&ニュージーランド2023™ プレーオフ（2023年2月17日～2月23日）

- ③ FIFA U-17 女子ワールドカップインド2022™（2022年10月11日～10月30日）
 - ④ FIFA U-20女子ワールドカップコスタリカ2022™（2022年8月10日～8月28日）
- (3) FIFA女子ワールドカップオーストラリア&ニュージーランド2023™のための子会社の設立を承認した。（オーストラリア、支店ニュージーランド）
- (4) FIFAワールドカップ2026™のための子会社設立を承認した。（カナダ、メキシコ、アメリカ）

第71回FIFA総会（5月21日開催）

第71回FIFA総会が5月21日にオンライン上で行われた。主な決定・報告事項は下記の通り。

- (1) FIFA規約の修正を承認した。主な変更は下記の通り。
- ① FIFA女子ワールドカップ開催地の決定権を女子サッカーの重要度の高まり等を踏まえ、男子に合わせFIFAカウンスルではなく総会決議へと変更。
 - ② ガバナンス委員会と監査コンプライアンス委員会を統合し、「ガバナンス、監査及びコンプライアンス委員会」とする。
 - ③ 紛争解決機関としてフットボール裁判所（Football Tribunal）の設置。
 - ④ 仲介人（Intermediary）をFootball Agentに変更し、エージェントのFIFAライセンス保有義務を明記。
- (2) 加盟協会からの下記の提案を承認した。
- ① ジャマイカサッカー連盟：グローバルな女子サッカー競技会コンセプトをFIFA事務局にて策定。
 - ② サウジアラビアサッカー連盟：FIFAワールドカップおよびFIFA女子ワールドカップを隔年開催とするものの実行可能性調査（feasibility study）の依頼。

- ③ リベリアサッカー協会：FIFA事務局において、FIFAユース年代競技会の今後の発展に向けた検討、提案を行う。
- (3) FIFA独立委員会の選挙が行われ、下記の委員長、委員長代理ほか委員が選出された。
- ① 規律委員会
Jorge Palacio委員長、Anin Yeboah委員長代理
 - ② 倫理委員会 調査室
Martin Ngoga委員長、Bruno De Vita委員長代理、Parasuraman Subramanian委員長代理
 - ③ 倫理委員会 裁定室
Vassilios Skouris委員長、Maria Claudia Rojas委員長代理、Fiti Sunia委員長代理
 - ④ 不服申立委員会
Neil Eggleston委員長、Thomas Bodstrom委員長代理
 - ⑤ ガバナンス、監査及びコンプライアンス委員会
Mukul Mudgal委員長、Chris Mihm委員長代理
※ JFA三好豊法務委員長が委員に選出
- (4) 2020年連結財務諸表、2022年詳細予算を承認した。

国際協力機構（JICA）、Jリーグ、WEリーグとのパートナーシップに関する覚書更新

JFAとJリーグ、独立行政法人国際協力機構（JICA）における国際的なサッカー交流および協働事業に関する協定書にWEリーグを加え、6月9日に再締結した。JICAは日本の政府開発援助の実施機関として、開発途上にある海外の地域の経済の安定と社会の開発、復興に寄与することによって国際協力の促進と我が国および国際社会の健全な発展に資することを目的に、技術協力の実施、専門家の派遣、研修員の受入れ、ボランティアの派遣その他の事業を実施し、全ての人々が恩恵を受けることのできる開発に取り組んでいる。

近年、特にアジア各国との間で選手や指導者、各国サッカー協会、各国リーグとの交流が盛んに行われている。この関係をより強固にし、それをアジア、そして世界へと広げていくべく、JICAと連携して国際交流事業を促進させることを目指す。

本件における協定書の概要と今後の事業予定は下記の通り。

【提携の背景】

開発途上地域において、スポーツを通じた健全な人材の育成や健康増進、難民、女性、障がい者など弱い立場に置かれた人々の社会参画の促進と地域振興などのニーズが高まっている。また、スポーツは持続可能な開発目標（SDGs）達成のためにも重要な鍵とされている。

2021年には東京オリンピック・パラリンピックの開催も控えていることから、日本は世界各国とスポーツを通じた国際協力を深化させていく必要がある。さらに、2020年3月以降の新型コロナウイルス感染拡大により世界の状況が一変した中、スポーツが人々の健康維持・増進に欠かせないものであるとともに、スポーツが人々に勇気や希望を与え、離れ離れとなった人々や社会を再び結びつけるなど「ウィズ・コロナ」「ポスト・コロナ」においてスポーツは非常に重要な

ファクターとなる。以上の背景を踏まえ、各当事者は、相互に有益な連携関係を構築する。

【期間】

2021年6月9日から2025年3月31日まで

【主な連携の対象】

1. 開発途上地域におけるサッカーを通じた健全な人材育成、健康増進・維持、女性や障がい者等の社会参画促進、地域開発・振興、および災害復興・平和構築に関すること。
2. 開発途上地域におけるサッカーを通じた国際協力に関すること。
 - ① 開発途上地域への日本人指導者の派遣及び同地域からのサッカー選手、コーチ、審判、マネジメント関係者等の受入を通じた人材の育成および制度、仕組み等の整備に関すること。
 - ② 開発途上国に派遣されるボランティア等に対する技術的な支援・助言に関すること。
 - ③ 2021年の東京オリンピック・パラリンピックに関連したスポーツを通じた国際協力に関すること。
3. 国際キャリア総合情報サイト「PARTNER」等を通じた、前各号に必要な国際協力人材の養成・確保に関すること。
4. JリーグおよびWEリーグとJICA国内機関との地域連携に関すること。
5. 開発途上地域における国際サッカー大会運営に関すること。
6. 前各号に関連する国内外への啓発・広報に関すること。
7. 前各号に掲げるもののほか各当事者が合意する事項

2020年度スポーツ団体ガバナンスコード・適合性審査結果の通知

昨年度実施された「2020年度スポーツ団体ガバナンスコード適合性審査」について、下記内容の通り、審査結果の通知があったため報告する。

<評価結果概要>

審査全体結果：適合

審査所見：下記審査項目が「好事例」として特に高い評価

- ・審査項目1（中期計画の策定・公表）
- ・審査項目20（コンプライアンス委員会の設置・運営）

- ・審査項目22（役員向けコンプライアンス教育の実施）
- ・審査項目42、43（地方組織運営の充実に向けた指導・助言・支援等）

備考：適合性審査は4年毎に実施されるため、次回の審査は2024年度を想定。

ガバナンスコードの適合状況については、毎年自己説明の作成および公表が必要。

JFA地域ガールズ・エイト（U-12）サッカー大会 トレセン事業への移行

2022年度より、JFA地域ガールズ・エイト（U-12）サッカー大会をトレセン事業に移行する。これに伴う変更は下記の通り。

【事業区分】

現行：大会

移行後：トレセン

【担当委員会】

現行：競技委員会 第4種大会部会

移行後：技術委員会／女子委員会

【担当部署】

現行：競技運営部

移行後：強化育成部

【参加チーム数】

現行：108 ※4種登録を完了した小学6年生の女子選手を対象とする。

移行後：67 ※年間を通してトレセン活動をしている小学6年生の女子選手を対象とする。

（要：4種登録）

JFAサッカー施設整備助成事業

「JFAサッカー施設整備助成金 交付要項」に基づき、助成金交付要望のあった次の案件について審査し、助成金の交付を決定した。

【申請概要】

1.宮城県

- 1)申請者：宮城県サッカー協会
- 2)申請区分：[助成区分3]施設改修助成事業
- 3)助成対象事業：人工芝（改修）
- 4)施設名：松島フットボールセンター
- 5)総事業費：59,728千円
- 6)助成金申請額：29,864千円
- 7)工期期間：2021年3月～2021年4月
- 8)交付決定日：2021年4月23日

2.長崎県

- 1)申請者：長崎県南島原市
- 2)申請区分：[助成区分2]地区サッカー施設整備助成事業
- 3)助成対象事業：人工芝（新設）
- 4)施設名：南島原市多目的運動広場（仮称）
- 5)総事業費：284,185千円
- 6)助成金申請額：35,000千円
- 7)完了時期：2022年3月31日（予定）
- 8)交付決定日：2021年4月1日

3.富山県

- 1)申請者：富山県射水市
- 2)申請区分：[助成区分1]都道府県フットボールセンター整備助成事業
- 3)助成対象事業：人工芝（新設）、夜間照明（新設）

4)施設名：（仮称）射水市フットボールセンター

5)総事業費：1,593,383千円

6)助成金申請額：60,000千円

7)完了時期：2022年3月31日（予定）

8)交付決定日：2021年4月28日

4.神奈川県

- 1)申請者：神奈川県南足柄市
- 2)申請区分：[助成区分2]地区サッカー施設整備助成事業
- 3)助成対象事業：人工芝（改修）
- 4)施設名：南足柄体育センター・グラウンド
- 5)総事業費：189,574千円
- 6)助成金申請額：45,000千円
- 7)完了時期：2022年3月31日（予定）
- 8)交付決定日：2021年4月28日

5.宮城県

- 1)申請者：宮城県松島町
- 2)申請区分：[助成区分2]地区サッカー施設整備助成事業
- 3)助成対象事業：夜間照明（新設）
- 4)施設名：松島町民グラウンド
- 5)総事業費：16,500千円
- 6)助成金申請額：8,250千円
- 7)完了時期：2022年3月31日（予定）
- 8)交付決定日：2021年5月14日

JFAロングパイル人工芝ピッチ公認（更新）

【更新】

申請者（施設所有者）：東京都

施設名：駒沢オリンピック公園総合運動場 第二球技場
（東京都世田谷区駒沢公園1-1）

使用製品：積水樹脂株式会社 ドリームターフ PT2055RS+U ACS70

公認期間：2021年6月17日～2024年6月16日

公認番号：第014号

申請者（施設所有者）：一般社団法人宮城県サッカー協会

施設名：松島フットボールセンター（宮城県宮城郡松島町樽字大蓬沢13-1）

使用製品：アイリスオーヤマ株式会社 GEO-TURF BS BS350-60GF

公認期間：2021年6月17日～2024年6月16日

公認番号：第098号

左ページ左上へ続く

申請者(施設所有者): 一般社団法人大阪府サッカー協会
 施設名: OFA万博フットボールセンター Bコート(大阪府吹田市千里万博公園3-5)
 使用製品: 住友ゴム工業株式会社 ハイブリッドターフ EXII-55T
 公認期間: 2021年6月17日~2024年6月16日
 公認番号: 第198号

<特記事項>

- ・使用製品は、JFAロングパイル人工芝公認規程に基づく製品検査(ラボテスト)を完了している。
- ・当該施設は、JFAロングパイル人工芝公認規程に基づく現地検査(フィールドテスト)を実施し、基準を満たしている。

JFAロングパイル人工芝ピッチ公認(新規)

【新規】

申請者(施設所有者): 公益財団法人愛知県サッカー協会
 施設名: 愛知県フットボールセンター知多(愛知県知多市緑町12-4)
 使用製品: MCC スポーツ株式会社 アストロピッチ SL αN-55
 公認期間: 2021年6月17日~2024年6月16日
 公認番号: 第253号

<特記事項>

- ・使用製品は、JFAロングパイル人工芝公認規程に基づく製品検査(ラボテスト)を完了している。
- ・当該施設は、JFAロングパイル人工芝公認規程に基づく現地検査(フィールドテスト)を実施し、基準を満たしている。

なでしこジャパン海外強化指定選手制度

「なでしこジャパン海外強化指定選手」3名(継続1名、新規2名)を下記の通り認定した。

※2021年度は東京オリンピック終了月である8月までが制度の有効期限。

①【継続】初木結花

(1)選手プロフィール
 名前: 初木結花(もみき ゆうか) / 25歳
 所属チーム: OL Reign (NWSL・アメリカ女子1部リーグ)
 ポジション: MF
 国際Aマッチ出場数: 35試合 12得点
 (2)認定期間 2021シーズン(契約期間: 2020年5月18日-2022年12月31日)

②【新規】宝田沙織

(1)選手プロフィール
 名前: 宝田沙織(たからだ さおり) / 21歳

所属チーム: Washington Spirit (NWSL・アメリカ女子1部リーグ)

ポジション: DF

国際Aマッチ出場数: 5試合 0得点

(2)認定期間 2021シーズン(契約期間: 2021年1月1日~2022年12月21日)

③【新規】林穂之香

(1)選手プロフィール
 名前: 林穂之香(はやし ほのか) / 22歳
 所属チーム: AIK Fotboll AB (ダームアルスヴェンスカン/スウェーデン女子1部リーグ)
 ポジション: MF
 国際Aマッチ出場数: 3試合 0得点
 (2)認定期間 2021シーズン(契約期間: 2021年1月1日~2022年12月31日)

※キャップ数は2021年4月30日時点のものとする

サッカー競技規則第3条暫定的改正の再延長についての通達文発信

国際サッカー評議会(以下、IFAB)から2021年5月28日付け回状第23号をもって「第3条の暫定的改正の更なる延長」について通達があった。通達自体の日本語訳は、下記の通り。

今回の通達は、IFABから2020年12月18日付けで通達された「第3条一競技者: 暫定的改正の延長」(本協会より2021年1月14日付け日サ協発第210002号にて発信)の期間を、2021年12月31日前に終了予定の競技会から再度延長して、2022年12月31日までに終了を予定している競技会においても適用できるとした。

本通達について、各協会、連盟等において、加盟クラブ、チーム、審判員等関係者に周知徹底を図られるようお願いしたい。

「第3条一競技者」の暫定的改正一延長

国際サッカー評議会(IFAB)の理事会は、本日(5月28日)リモートで通常会議を開催し、サッカー界のいくつかの主要なステークホルダーからの意見を踏まえ、「第3条一競技者」の暫定的改正のさらなる延長について合意した。

既に2020年5月8日付回状19号、2020年7月15日付回状20号、2020年12月18日付回状21号および2021年3月17日付回状22号で説明されている通り、新型コロナウイルス(COVID-19)のサッカーへの影響対応が暫定延長の主たる理由である(トップレベルの競技会において、1試合あたり1チーム5人の交代導入ができる)。特に期間短縮や開催日が詰まっている大会日程が多くなり、競技者の安全や健康に影響を与えることが懸念される。

現在IFABはCOVID-19の世界的感染によるサッカー関係者(ステークホルダー)のフィードバックや競技会日程への影響分析などの調査によれば、暫定的な競技規則改正が依然として有効であるとしている。

これにより、IFAB理事会は、2022年12月31日までに終了を予定している、全てのトップレベルの競技会のために、暫定的改正を延長することとした。

競技会が、暫定的改正のオプション 暫定的改正案を導入する場合、一部修正することなく、改正案に基づき、すべてを適用しなればならないことに、ご留意願いたい。

審判員海外派遣

委員会、大会、試合など	役職	名前	試合日または派遣期間	場所
FIFAワールドカップカタール2022アジア2次予選 グループB	審判員	飯田淳平、野村修、武部陽介	6月3日~6月15日	クウェート/クウェートシティ
FIFAワールドカップカタール2022アジア2次予選 グループC	審判員	木村博之、武部巧、西橋勲	6月3日~6月15日	バーレーン
FIFAワールドカップカタール2022アジア2次予選 グループG	審判員	佐藤隆治、山内宏志、三原純	6月3日~6月15日	UAE /ドバイ



JAPAN NATIONAL TEAM

Japan National Team would like to thank its partners for their support.

SAMURAI BLUE



©JFA / 国際親善試合2021 対韓国代表戦 先発メンバー (2021.3.25)

OFFICIAL PARTNER



OFFICIAL SUPPLIER



SUPPORTING COMPANIES



- ① SAMURAI BLUE 対 U-24日本代表、キリンチャレンジカップ2021 / FIFAワールドカップカタール2022アジア2次予選兼 AFCアジアカップ中国2023予選
- ② U-24日本代表 国際親善試合
- ③ U-20日本代表候補 トレーニングキャンプ
- ④ U-15日本代表候補 トレーニングキャンプ

- ⑤ なでしこジャパン(日本女子代表) 国際親善試合 / MS&ADカップ2021
- ⑥ フットサル日本女子代表候補 トレーニングキャンプ
- ⑦ ビーチサッカー日本代表候補 トレーニングキャンプ
- ⑧ サッカーe日本代表 KIRIN iMUSE CUP

*NCS: ナショナルコーチングスタッフ、JC: JFAコーチ / VAR: ビデオアシスタントレフェリー、AVAR: アシスタントビデオアシスタントレフェリー

SAMURAI BLUE 対 U-24日本代表、キリンチャレンジカップ2021 / FIFAワールドカップカタール2022アジア2次予選兼 AFCアジアカップ中国2023予選

※59~61ページに関連記事あり

[スタッフ]

○監督: 森保一(NCS) ○コーチ: 齊藤俊秀(NCS)、上野優作(NCS) ○GKコーチ: 下田崇(NCS) ○フィジカルコーチ: 松本良一(NCS)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	川島永嗣	RCストラスブール (FRA)	MF	橋本拳人	FCロストフ (RUS)
	権田修一	清水エスエルズ		南野拓実※3	サウサンプトン (ENG)
	シュミット・ダニエル	シントトロイデンVV (BEL)		古橋亨梧	ヴィッセル神戸
DF	中村航輔	ボルティモネンセSC (POR)	守田英正	CDサンタ・クララ (POR)	
	長友佑都	オリンピック・マルセイユ (FRA)	川辺駿	サンフレッチェ広島	
	佐々木翔	サンフレッチェ広島	鎌田大地	アイントラハト・フランクフルト (GER)	
	谷口彰悟	川崎フロンターレ	坂元達裕	セレッソ大阪	
	昌子源	ガンバ大阪	FW	大迫勇也※1	ヴェルダー・ブレーメン (GER)
	山根視来	川崎フロンターレ	浅野拓磨	記載なし	
	室屋成	ハノーファー96 (GER)	オナイウ阿道※2	横浜F・マリノス	
植田直通	ニーム・オリンピック (FRA)	FRA: フランス, BEL: ヘルギー, POR: ポルトガル, GER: ドイツ, RUS: ロシア, ENG: イングランド			
中谷進之介	名古屋グランパス				
MF	小川諒也	FC東京			
	原口元気	ハノーファー96 (GER)			
	伊東純也	KRCヘンク (BEL)			

<スケジュール>

5月29日 集合、トレーニング (高円宮記念JFA夢フィールド)
 30~31日 トレーニング (高円宮記念JFA夢フィールド)
 6月1日 移動、トレーニング (札幌ドーム)
 2日 公式トレーニング (札幌ドーム)
 3日 vs U-24日本代表 (札幌ドーム)
 4日 移動、トレーニング (ガンバ大阪トレーニンググラウンド)
 5日 トレーニング (ガンバ大阪トレーニンググラウンド)
 6日 公式トレーニング (パナソニック スタジアム 吹田)
 FIFAワールドカップカタール2022アジア2次予選兼 AFCアジアカップ中国2023予選
 vs タジキスタン代表 (パナソニック スタジアム 吹田)
 8~9日 トレーニング (ガンバ大阪トレーニンググラウンド)
 10日 公式トレーニング (ノエビアスタジアム神戸)
 11日 キリンチャレンジカップ2021
 vs セルビア代表 (ノエビアスタジアム神戸)
 12~13日 トレーニング (ガンバ大阪トレーニンググラウンド)
 14日 公式トレーニング (パナソニック スタジアム 吹田)
 15日 FIFAワールドカップカタール2022アジア2次予選兼 AFCアジアカップ中国2023予選
 vs キルギス代表 (パナソニック スタジアム 吹田)、解散

■タジキスタン代表 来日メンバー

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	ルスラム・ギティモフ	イステイクロール・ドゥシャンベ	MF	エフソフ・バンジャンベ	ナフバホール・ナマンガン (UZB)
	ショルフ・キルギネエフ	ククトシュ・ルーダキー		アブドルムミン・サヒロフ	ホジェント
	ムフリッティン・バシロフ	イステイクロール・ドゥシャンベ		トイロフ・フスラフ	ディナモ・ドゥシャンベ
DF	ダフロンジョン・エルガシフ	フニコトル (UZB)	アリジョニ・アイニ	クラスノダール (RUS)	
	アフタム・ナザロフ	イステイクロール・ドゥシャンベ	マヌチェフル・ジャリロフ	イステイクロール・ドゥシャンベ	
	タブレジ・ダブラトミル	ナルヴァ・トランス (EST)	コムロン・トルカスゾフ	トラウ (IND)	
	ソイル・ジュラゴエフ	イステイクロール・ドゥシャンベ	ヌリッティン・ハムロクフ	ハトロン	
	バフダト・ハノノフ	イステイクロール・ドゥシャンベ	シェリッティン・ボボエフ	ヘナン (MAS)	
	マヌチェフル・サファロフ	イステイクロール・ドゥシャンベ	シャフロム・サミエフ	ディナモ・アウト (MDA)	
	アリジョン・カマトゥロフダ	CSKAパミール・ドゥシャンベ	イスロム・ザイロフ	イステイクロール・ドゥシャンベ	
MF	イルホムジョン・ハシロフ	イスタラフジャン	ルスラム・ソイロフ	イステイクロール・ドゥシャンベ	
バハドゥル・ウマルホエフ	ロコモティブ・プロフディフ (BUL)	UZB: ウズベキスタン, EST: エストニア, BUL: ブルガリア, RUS: ロシア, IND: インド, MAS: マレーシア, MDA: モルドバ			
ムハンマジョン・ラヒモフ	イステイクロール・ドゥシャンベ				

監督 ウスモン・トシェフ

<スケジュール>

6月5日 公式トレーニング (パナソニック スタジアム 吹田)
 6日 FIFAワールドカップカタール2022アジア2次予選兼 AFCアジアカップ中国2023予選
 vs SAMURAI BLUE (パナソニック スタジアム 吹田)

■セルビア代表 来日メンバー

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	フレドラク・ライコビッチ	スタッド・ランス (FRA)	MF	ネマニャ・マクシモビッチ	ヘタフェCF (ESP)
	ジョルジェ・ニコリッチ	FCバーゼル (SUI)		マルコ・クルイッチ	リバプールFC (ENG)
	マルコ・イリッチ	KVコルトレイク (BEL)		ミロシュ・ブリッチ	FCクロトーネ (ITA)
DF	ステファン・ミトロビッチ	RCストラスブール (FRA)	イバン・イリッチ	マンチェスター・シティ (ENG)	
	マルコ・ペトロビッチ	FK TSCバチュカ・トボラ	ミラン・マカリッチ	FKラドニク・スルドゥツ	
	ウロシュ・スパイッチ	FCクラスノダール (RUS)	デヤン・ヨベリッチ	アイントラハト・フランクフルト (GER)	
	ミハイロ・リステイッチ	モンペリエHSC (FRA)	ジェリコ・ガブリッチ	レッドスター・ベオグラード	
	アレクサ・テルジッチ	エンポリFC (ITA)	ネマニャ・ヨビッチ	FKバルチザン・ベオグラード	
	サハ・アラシガル・チヌシッチ	1FCケルン (GER)	FRA: フランス, SUI: スイス, BEL: ヘルギー, RUS: ロシア, ITA: イタリア, GER: ドイツ, ESP: スペイン, ENG: イングランド		
	ストラヒニャ・パヴロビッチ	AS モナコ (FRA)			
MF	ネマニャ・グデリ	セビージャ (ESP)			

監督 ドラガン・ストイコビッチ

<スケジュール>

6月10日 公式トレーニング (ノエビアスタジアム神戸)
 11日 キリンチャレンジカップ2021 vs SAMURAI BLUE (ノエビアスタジアム神戸)

■キルギス代表 来日メンバー

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属			
GK	バベル・マティアシ	アルガ・ビシュケク	MF	アフリディン・イスライロフ	アライ・オシュ			
DF	アバズベク・オトキーフ	ドルドイ・ビシュケク		オディルジョン・アブドラフマノフ	FCアブニョドコロ(UZB)			
	タミルラン・コスバエフ	FCシニク・ヤロスラヴリ(RUS)	FW	ミルラン・ムルザエフ	ドルドイ・ビシュケク			
	バクティアル・ドゥイシヨベコフ	シェイク・ラッセル FC(BAN)		エルダル・モルジュヌフ	アライ・オシュ			
	ムスタファ・エイソポフ	ドルドイ・ビシュケク		アバイ・ポコリフ	ドルドイ・ビシュケク			
	アルマズベク・マリコフ	アライ・オシュ		エルニスト・バチルカノフ	FCキルギズ・バロバトフ(カズ)			
	アレクサンドル・ミシチェンコ	ドルドイ・ビシュケク		アリマルドン・シュクロフ	FCネマン・フロドナ(BLR)			
	アイザル・アクマトフ	ドルドイ・ビシュケク		グルジギト・アリクロフ	FCカイラト・アルマトイ(カズ)			
MF	エドガー・ベルンハルト	FKアンディジャン(UZB)	RUS:	ロシア	BAN:	バングラデシュ	UZB:	ウズベキスタン
	トゥルスナリ・ルスタモフ	ドルドイ・ビシュケク	KAZ:	カザフスタン	BLR:	ベラルーシ		
	ムロムジョン・アフマドフ	バングラデシュ・ボリスFC(BAN)						
	カイラト・ジルガルベク・ウール	ドルドイ・ビシュケク						
	ファルハト・ムサベコフ	ドルドイ・ビシュケク						

監督 アレクサンデル・クレスティニン

<スケジュール>

6月14日 公式トレーニング(パナソニック スタジアム 吹田)
 15日 FIFAワールドカップカタール2022アジア2次予選
 兼AFCアジアカップ中国2023予選
 vs SAMURAI BLUE(パナソニック スタジアム 吹田)

SAMURAI BLUE 3 (前半2-0 後半1-0) **0** U-24日本代表

●2021年6月3日 19:33 ●札幌ドーム ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]モハメド・ダルウィッシュ(UAE) [副審]マズード・ハッサン・ファド(UAE) / シャミル・アブドラフマノフ(MAS) [第4の審判員]バヤム・ヘイダリ(IRN) ●マッチコミッショナー:平井徹 ●観衆:0人

日本(監督:森保一):[GK](23)シュミット・ダニエル<→HT(24)中村航輔> [DF](2)植田直通(3)室屋成<→80'(22)山根視来>(5)長友佑都<→HT(16)小川諒也>(6)谷口彰悟 [MF](7)守田英正<→71'(4)昌子源>(8)原口元気<→HT(11)古橋亨梧>(9)鎌田大地<→HT(18)浅野拓磨>(10)南野拓実<→HT(14)伊東純也>(13)橋本拳人<→62'(21)川辺駿> [FW](15)大迫勇也<→62'(17)坂元達裕>

控え:(1)川島永嗣(12)植田修一(19)佐々木翔(20)中谷進之介

U-24日本(監督:横内昭展):[GK](1)大迫敬介<→HT(12)沖悠哉> [DF](2)菅原由勢(5)町田浩樹(11)旗手怜央<→78'(15)古賀太陽>(27)橋岡大樹 [MF](3)中山雄太<→HT(17)田中碧>(4)板倉滉<→78'(6)遠藤航>(8)三好康児<→73'(10)堂安律>(11)久保建英<→HT(25)前田大然>(21)遠藤謙太<→HT(14)相馬勇紀> [FW](13)田川亨介<→57'(9)林大地>

控え:(23)谷晃生(24)鈴木彩艶(7)三笥薫(16)富安健洋(19)酒井宏樹(22)吉田麻也(26)上田綺世

得点 [日本]2' 橋本拳人(1-0)、41' 鎌田大地(2-0)、52' 浅野拓磨(3-0)

警告 [日本]75' 室屋成

FIFA ワールドカップカタール 2022 アジア 2 次予選兼 AFC アジアカップ中国 2023 予選

SAMURAI BLUE 4 (前半2-1 後半2-0) **1** タジキスタン代表

●2021年6月7日 19:30 ●パナソニック スタジアム 吹田 ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]アブドゥラフマン・アルジャシム(QAT) [副審]タレブ・アルマリ(QAT) / サウード・アハメド・アルマカーレハ(QAT) [第4の審判員]オマル・モハメド・アルアリ(UAE) ●マッチコミッショナー:ロバート・トレス(GUM) ●観衆:0人

日本(監督:森保一):[GK](12)植田修一 [DF](4)昌子源(19)佐々木翔<→62'(16)小川諒也>(20)中谷進之介(22)山根視来 [MF](8)原口元気<→HT(17)坂元達裕>(10)南野拓実<→HT(9)鎌田大地>(11)古橋亨梧(13)橋本拳人<→68'(7)守田英正>(21)川辺駿 [FW](18)浅野拓磨<→74'(6)谷口彰悟>

控え:(1)川島永嗣(23)シュミット・ダニエル(2)植田直通(3)室屋成(5)長友佑都(14)伊東純也(15)オナイウ阿道

タジキスタン(監督:ウスモン・シェフ):[GK](1)ルスタム・ヤティモフ [DF](4)ダブロンジョン・エルガシェフ<→83'(2)ゾイル・ジュラボエフ>(5)マヌチェル・サファロフ(6)バフガト・ハノノフ(19)アフタム・ナザロフ<→HT(15)タブレジ・ダブラトミル> [MF](10)バルビズジョン・ウマルボエフ<→83'(9)ルスタム・ソイロフ>(11)ムハンマド・ラヒモフ(17)エフソフ・バシロフ [FW](7)コムロン・トウルスノフ<→66'(22)シェリッディン・ポボエフ>(13)イスロム・ザイロフ(21)マヌチェル・ジャリロフ<→58'(20)シャフロム・サミエフ>

控え:(16)ショフル・キルギズボエフ(23)ムフリッティン・ハサノフ(3)イルホムジョン・バラトフ(8)アブドゥルミン・ザビロフ(12)アリジョン・カロマトウロジダ(14)ヌリッディン・ハムロクロフ(18)アリジョン・アイニ

得点 [日本]6' 古橋亨梧(1-0)、40' 南野拓実(2-1)、51' 橋本拳人(3-1)、70' 川辺駿(4-1) [タジキスタン]9' エフソフ・バシロフ(1-1)

警告 [日本]63' 古橋亨梧、66' 橋本拳人

キリンチャレンジカップ 2021

SAMURAI BLUE 1 (前半0-0 後半1-0) **0** セルビア代表

●2021年6月11日 19:28 ●ノエビアスタジアム神戸 ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]バヤム・ヘイダリ(IRN) [副審]シャミル・アブドラフマノフ(MAS) / マズード・ハッサン・ファド(UAE) [第4の審判員]モハメド・ダルウィッシュ(UAE) ●マッチコミッショナー:西澤和剛 ●観衆:0人

日本(監督:森保一):[GK](12)植田修一 [DF](2)植田直通(3)室屋成<→65'(22)山根視来>(5)長友佑都<→82'(16)小川諒也>(6)谷口彰悟 [MF](7)守田英正(9)鎌田大地(10)南野拓実<→82'(8)原口元気>(11)古橋亨梧<→HT(15)オナイウ阿道>(13)橋本拳人<→HT(21)川辺駿>(14)伊東純也<→76'(18)浅野拓磨>

控え:(1)川島永嗣(23)シュミット・ダニエル(24)中村航輔(4)昌子源(17)坂元達裕(19)佐々木翔(20)中谷進之介

セルビア(監督:ドラガン・ストイコビッチ):[GK](1)ブレドラグ・ライコビッチ [DF](2)ストラヒニャ・パブロビッチ(5)ウロシュ・スバイッチ(13)ステファン・ミトロビッチ<→72'(4)サバ・アランゲル・チエスティッチ>(17)アレクサン・テルジッチ [MF](6)ネマニャ・マクシモビッチ<→78'(14)イバン・イリッチ>(8)ネマニャ・グデリ(16)マルコ・グルイッチ<→HT(3)マルコ・ペトコビッチ> [FW](9)デヤン・ヨベリッチ(11)ネマニャ・ヨベリッチ<→58'(7)ジェリコ・ガブリッチ>(18)ミラン・マカリッチ<→HT(20)ミロシュ・プレツッチ>

控え:(12)マルコ・イリッチ(23)ジョルジュ・ニコリッチ

得点 [日本]48' 伊東純也(1-0)

警告 [セルビア]47' デヤン・ヨベリッチ、61' ストラヒニャ・パブロビッチ

FIFA ワールドカップカタール 2022 アジア 2 次予選兼 AFC アジアカップ中国 2023 予選

SAMURAI BLUE 5 (前半3-1 後半2-0) **1** キルギス代表

●2021年6月15日 19:28 ●パナソニック スタジアム 吹田 ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]オマル・アルヤクビ(OMA) [副審]ナッセル・サリム・アムブサイディ(OMA) / タレブ・アルマリ(QAT) [第4の審判員]アブドゥラフマン・アルジャシム(QAT) ●マッチコミッショナー:ロバート・トレス(GUM) ●観衆:0人

日本(監督:森保一):[GK](1)川島永嗣 [DF](4)昌子源(16)小川諒也(20)中谷進之介(22)山根視来<→76'(3)室屋成> [MF](7)守田英正<→61'(13)橋本拳人>(8)原口元気<→61'(11)古橋亨梧>(17)坂元達裕(21)川辺駿 [FW](15)オナイウ阿道<→68'(19)佐々木翔>(18)浅野拓磨

控え:(12)植田修一(23)シュミット・ダニエル(2)植田直通(5)長友佑都(6)谷口彰悟(9)鎌田大地(14)伊東純也

キルギス(監督:アレクサンデル・クレスティニン):[GK](1)バベル・マティアシ [DF](3)タミルラン・コスバエフ(5)アイザル・アクマトフ(6)アレクサンドル・ミシチェンコ [MF](7)トゥルスナリ・ルスタモフ<→61'(14)エルニスト・バチルカノフ>(17)グルジギト・アリクロフ(18)カイラト・ジルガルベク・ウール(20)バクティアル・ドゥイシヨベコフ(21)ファルハト・ムサベコフ<→86'(12)オディルジョン・アブドラフマノフ>(22)アリマルドン・シュクロフ<→79'(9)エドガー・ベルンハルト> [FW](10)ミルラン・ムルザエフ<→79'(19)エルダル・モルジュヌフ>

控え:(2)アルマズベク・マリコフ(4)ムスタファ・エイソポフ(11)アバズベク・オトキーフ(15)ムロムジョン・アフマドフ(23)アフリディン・イスライロフ

得点 [日本]27'、31'、33' オナイウ阿道(1-0)(2-0)(3-0)、72' 佐々木翔(4-1)、77' 浅野拓磨(5-1) [キルギス]45+1' ミルラン・ムルザエフ(3-1)

警告 [キルギス]26' アイザル・アクマトフ、75' アリマルドン・シュクロフ、86' ファルハト・ムサベコフ

DATA BOX

U-24日本代表 国際親善試合

※62~63ページに関連記事あり

【スタッフ】

○監督: 横内昭展(NCS) ○コーチ: 栗原克志(NCS) ○GKコーチ: 川口能活(NCS) ○フィジカルコーチ: 矢野由治(NCS)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	大迫敬介	サンフレッチェ広島	MF	相馬勇紀	名古屋グランパス
	沖悠哉	鹿島アントラーズ		三好康児	ロイヤル・アントワープFC (BEL)
	谷晃生	湘南ベルマーレ		三笠薫	川崎フロンターレ
DF	鈴木彩艶	浦和レッズ	遠藤渓太	1.FCウニオン・ベルリン (GER)	
	吉田麻也※	サンabria (ITA)	堂安律	アルミニア・ビーレフェルト (GER)	
	酒井宏樹※	オリンピック・マルセイユ (FRA)	食野亮太郎	リオ・アヴェ FC (POR)	
	町田浩樹	鹿島アントラーズ	田中碧	川崎フロンターレ	
	旗手怜央	川崎フロンターレ	久保建英	ヘタフェ CF (ESP)	
	古賀太陽	柏レイソル	FW	林大地	サガン鳥栖
	富安健洋※1	ボローニャ FC (ITA)		前田大然	横浜F・マリノス
	橋岡大樹	シントトロイデンVV (BEL)		上田綺世	鹿島アントラーズ
	菅原由勢	AZアルクマール (NED)		田川亨介	FC東京
	瀬古歩夢※2	セレッソ大阪	ITA: イタリア, FRA: フランス, BEL: ベルギー, NED: オランダ, GER: ドイツ, POR: ポルトガル, ESP: スペイン		
MF	遠藤航※	VIBシュツットガルト (GER)	※オーバーエイジ		
	板倉滉	FCフローニンゲン (NED)	※1: ケガのための離脱		
	中山雄太	PECスヴォレ (NED)	※2: 追加招集		

<スケジュール>

5月31日 集合、トレーニング (高円宮記念JFA夢フィールド)
 6月1日 移動、トレーニング (札幌市内)
 2日 公式トレーニング (札幌ドーム)
 3日 vs SAMURAI BLUE (札幌ドーム)
 4日 移動、公式トレーニング (ベスト電器スタジアム)
 5日 国際親善試合 vs U-24ガーナ代表 (ベスト電器スタジアム)
 6~7日 トレーニング (博多の森陸上競技場)
 8日 練習試合 vs U-24ガーナ代表 (ベスト電器スタジアム)
 9日 トレーニング (博多の森陸上競技場)、移動
 10日 トレーニング (豊田スタジアム)
 11日 トレーニング (豊田スタジアム)
 12日 国際親善試合 vs ジャマイカ代表 (豊田スタジアム)、解散

■U-24ガーナ代表 来日メンバー

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	リッチモンド・アイ	ハーツ・オブ・オーク	MF	ジョアン・アットゥクアイエ	レゴン・シティーズFC
	ウィリアム・エマニュエル・エッス	ビジョンFC		バトリック・メンサー	ハーツ・オブ・ライオンズ
DF	イブラヒム・モロ	アサンテ・コトコ	FW	エマニュエル・エッサム	ベレクム・チェルシー
	フランク・アモアベング	アウダー・チェ・チュリニョーラ (ITA)		サミュエル・オベンギ・ジャバー	レアル・オビエド (ESP)
	サミュエル・アビエ・クアアエ	クレント・オリムピックスFC		サミュエル・ボアキエ	テチマン・イレファン・ワンターズFC
	ジョセルフォ・バーンズ	シャルケ04 (GER)		フリボンダ・ポアテング	キング・ファイサル
	ウセア・アルハサン	タマレ・ユナイテッド (ENG)		クワメ・アドゥ・ボフォー・ボク	コルチエスター・ユナイテッド (ENG)
フランク・アッシンキ	HB キューゲ (DEN)	バーシャス・ボア	ドリームスFC		
MF	オスマン・ブカリ	KRCヘンク (BEL)	ITA: イタリア, GER: ドイツ, DEN: デンマーク, BEL: ベルギー, ESP: スペイン, ENG: イングランド		
	サビト・アブドゥライ	ヘタフェ CF (ESP)			

監督 サミュエル・クワシ・ファビン

<スケジュール>

6月4日 公式トレーニング (ベスト電器スタジアム)
 5日 国際親善試合 vs U-24日本代表 (ベスト電器スタジアム)

■ジャマイカ代表 来日メンバー

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	デニス・テイラー	ハンブル・ライオンFC	MF	デボン・ウィリアムズ	マイアミFC (USA)
	ディロン・バーンズ	バートン・アルビオンFC (ENG)		ラベル・モリソン	所属なし
	ジェディン・ホワイト	キャバリアSC		ケボン・アイザックス	マウント・プレザント
DF	エイドリアン・マリアップ	プリストル・シティ (ENG)	FW	ルカ・レビー	ハーバー・ビュー FC
	カーティス・ティルト	ロザラム・ユナイテッド (ENG)		ケボン・ランバート	フェニックス・ライジング (USA)
	オニール・フィッシャー	LAギャラクシー (USA)		ケマル・マルコム	チャラテナンゴ (SLV)
	リアム・ムーア	レディングFC (ENG)		アンドレ・グレイ	ワトフォードFC (ENG)
	ダミアン・ロウ	アルイテッド (EGY)		ブレア・トゥルゴット	エステルスンドFK (SWE)
アマリ・ベル	ブラックバーン・ローバース (ENG)	ジェボン・イースト	セントスティーヴンズ (CRC)		
ウェスリー・ハーディング	ロザラム・ユナイテッド (ENG)	ENG: イングランド, USA: アメリカ, EGY: エジプト, SLV: エルサルバドル, SWE: スウェーデン, CRC: コスタリカ			

監督 セオドア・ウィットモア
 アシスタントコーチ ジェローム・ウェイト

<スケジュール>

6月11日 公式トレーニング (豊田スタジアム)
 12日 国際親善試合 vs U-24日本代表 (豊田スタジアム)

国際親善試合

U-24日本代表 **6** (前半3-0 後半3-0) **0** U-24ガーナ代表

●2021年6月5日 19:28 ●ベスト電器スタジアム ●試合時間:90分 ●審判員:【主審】笠原寛貴 【副審】唐紙学志 / 平間亮 【第4の審判員】兼松春奈 ●マッチコミッショナー: 平井徹 ●観衆:0人

日本(監督:横内昭展):[GK](23)谷晃生 [DF](16)富安健洋<-58'(4)板倉滉>(19)酒井宏樹(22)吉田麻也 [MF](3)中山雄太<-84'(15)古賀太陽>(6)遠藤航(10)堂安律<-67'(18)食野亮太郎>(11)久保建英<-78'(20)旗手怜央>(14)相馬勇紀<-58'(7)三笠薫>(17)田中碧 [FW](26)上田綺世<-67'(25)前田大然>

控え:(12)沖悠哉(24)鈴木彩艶(2)菅原由勢(5)町田浩樹(8)三好康児(9)林大地(27)橋岡大樹

ガーナ(監督:サミュエル・クワシ・ファビン):[GK](16)ウィリアム・エマニュエル・エッス [DF](3)ウセア・アルハサン<-61'(2)フランク・アモアベング>(4)イブラヒム・モロ(5)フランク・アッシンキ(17)サミュエル・アビエ・クアアエ [MF](6)エマニュエル・エッサム<-61'(14)フリボンダ・ポアテング>(7)オスマン・ブカリ(8)サビト・アブドゥライ(19)ジョアン・アットゥクアイエ<-61'(10)クワメ・アドゥ・ボフォー・ボク> [FW](9)バーシャス・ボア<-78'(13)バトリック・メンサー>(18)サミュエル・オベンギ・ジャバー<-61'(15)サミュエル・ボアキエ>

控え:(1)リッチモンド・アイ(11)ジョセルフォ・バーンズ

得点 [日本]16'堂安律(1-0)、32'久保建英(2-0)、45'オウンゴール(3-0)、48'相馬勇紀(4-0)、56'上田綺世(5-0)、89'三笠薫(6-0)

警告 [ガーナ]71'フランク・アッシンキ

国際親善試合

U-24日本代表 **4** (前半2-0 後半2-0) **0** ジャマイカ代表

●2021年6月12日 13:35 ●豊田スタジアム ●試合時間:90分 ●審判員:【主審】山本雄大【副審】唐紙学志 / 平間亮 【第4の審判員】笠原寛貴 ●マッチコミッショナー: 平井徹 ●観衆:4,029人

日本(監督:横内昭展):[GK](23)谷晃生<->HT(24)鈴木彩艶> [DF](5)町田浩樹<->HT(28)瀬古歩夢>(19)酒井宏樹(20)旗手怜央<->60(27)橋岡大樹>(22)吉田麻也 [MF](6)遠藤航(7)三笠薫<->60(14)相馬勇紀>(10)堂安律<->75'(8)三好康児>(11)久保建英<->65'(18)食野亮太郎>(17)田中碧 [FW](25)前田大然<->HT(26)上田綺世>

控え:(1)大迫敬介(2)菅原由勢(3)中山雄太(9)林大地(15)古賀太陽(21)遠藤渓太

ジャマイカ(コーチ:ジェローム・ウェイト):[GK](1)ディロン・バーンズ<->71'(13)ジェディン・ホワイト> [DF](2)カーティス・ティルト<->36'(19)エイドリアン・マリアップ>(4)アマリ・ベル(5)ウェスリー・ハーディング<->55'(20)ケボン・アイザックス>(6)リアム・ムーア<->62'(17)ダミアン・ロウ> [MF](15)ラベル・モリソン(21)ケボン・ランバート<->60'(18)ルカ・レビー>(22)デボン・ウィリアムズ [FW](7)ブレア・トゥルゴット(9)ケマル・マルコム<->51'(8)オニール・フィッシャー>(14)ジェボン・イースト<->62'(11)アンドレ・グレイ>

控え:(23)デニス・テイラー

得点 [日本]32'久保建英(1-0)、42'遠藤航(2-0)、57'上田綺世(3-0)、64'堂安律(4-0)

警告 [日本]52'酒井宏樹 [ジャマイカ]49'ケマル・マルコム

U-20日本代表候補 トレーニングキャンプ(千葉)

【スタッフ】

○監督: 影山雅永(NCS) ○コーチ: 雷樞剛一(NCS) ○GKコーチ: 高桑大二朗(NCS) ○フィジカルコーチ: 菅野淳(NCS/フィジカルフィットネスプロジェクト)
 ※内田篤人ロールモデルコーチも帯同

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	中川真	法政大学	MF	田中克幸	明治大学
	小畑裕馬	ベガルタ仙台		吉岡直輝	大阪体育大学
DF	松原颯汰	ジェフユナイテッド千葉	田村蒼生	筑波大学	
	鈴木瑞生	筑波大学	柴山昌也	大宮アルディージャ	
	木村誠二	京都サンガF.C.	權山諒乃介	横浜F・マリノス	
	岡哲平	明治大学	安斎颯馬	早稲田大学	
	遠藤海斗	筑波大学	飯田晃明	駒澤大学	
	望月ヘンリー海輝	国士館大学	松木秋生	青森山田高校	
	長澤シヴァタファリ※1	関東学院大学	FW	佐藤恵允	明治大学
	鈴木海音※3	ジュビロ磐田		太田龍之介	明治大学
	福島竜弥	浦和レッズ		ブワニカ啓太	ジェフユナイテッド千葉
	佐古真礼	藤枝MYFC		千葉寛汰	清水エスパルスユース
小澤亮太※2	日本体育大学	※1: ケガのため不参加			
MF	植村洋斗	早稲田大学	※2: 追加招集		
	谷内田哲平	京都サンガF.C.	※3: 所属クラブ事情のため離脱		

<スケジュール>

5月31日 集合、トレーニング(市原スポレクパーク)
 6月1日~2日 トレーニング(市原スポレクパーク)
 3日 練習試合 vs 全日本大学選抜(市原スポレクパーク)、解散

【スタッフ】

○監督: 影山雅永(NCS) ○コーチ: 雷樞剛一(NCS) ○GKコーチ: 高桑大二朗(NCS) ○フィジカルコーチ: 菅野淳(NCS/フィジカルフィットネスプロジェクト)
 ※内田篤人ロールモデルコーチも帯同

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属	
GK	藤田和輝	アルビレックス新潟	MF	櫻井辰徳	ヴィッセル神戸	
	北原一樹	立命館大学		成岡輝瑠	清水エスパルス	
	野澤大志ブランドン	FC東京	FW	櫻川ソロモン	ジェフユナイテッド千葉	
三原秀真	愛媛FC	染野唯月		鹿島アントラーズ		
馬場晴也	東京ヴェルディ	鮎川峻		サンフレッチェ広島		
大嶽拓馬	柏レイソル	河野孝汰		レノファ山口FC		
吉田温紀	名古屋グランパスU-18	藤尾翔太※1		セレッソ大阪		
田中隼人	柏レイソルU-18	※1: 追加招集				
チェイス・アンリ	尚志高校	※2: ケガのため離脱				
モヨ マルコム強志※1,2	法政大学					
MF	松村優太	鹿島アントラーズ				
	小田裕太郎	ヴィッセル神戸				
	松橋優安	東京ヴェルディ				
	山本理仁	東京ヴェルディ				
	藤田譲瑠チマ	徳島ヴォルティス				

<スケジュール>

6月7日 集合、トレーニング(市原スポレクパーク)
 8~9日 トレーニング(市原スポレクパーク)
 10日 練習試合 vs 全日本大学選抜(市原スポレクパーク)、解散

U-15日本代表候補 トレーニングキャンプ(Jヴィレッジ)

【スタッフ】

○監督: 廣山望(NCS/JFAアカデミー福島) ○コーチ: 大畑開(JC) ○GKコーチ: 田口哲雄(JC) ○フィジカルコーチ: 小粥智浩(NCS)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	ビバルカワシロ健蔵	名古屋グランパスU-18	MF	山本丈徳※1	東京ヴェルディジュニアユース
	後藤亘	FC東京U-15深川		中野裕唯	FC東京U-15深川
	内山翔太※3	アルビレックス新潟U-15		今富輝也	ヴィッセル神戸U-15
DF	坂本翔汰	鹿島アントラーズユース	立花圭吾	FC東京U-15むさし	
	山本虎	青森山田高校	磯本春羽	フェザーズ岡山U-15	
	柴田翔太郎	川崎フロンターレU-15	石井陽	前橋FC	
	大場章太郎	サガン鳥栖U-15	佐藤龍之介	FC東京U-15むさし	
	茨木陸	ヴィッセル神戸U-15	高橋友矢※2	横浜FCジュニアユース	
	橋本日向	JFAアカデミー福島U-15	揚石琉生※2	栃木SC U-18	
	土橋竜之介	鹿島アントラーズつくばジュニアユース	FW	道脇豊	ロアッソ熊本ジュニアユース
	内丸寛太※1	サガン鳥栖U-15唐津		ワタベマコト 野々橋	レイソルU-15
	武田絢都	徳島ヴォルティスジュニアユース		名和田我空	神村学園中等部
	本多康太郎※2	湘南ベルマーレU-15		大町彪悟	FC東京U-15深川
MF	瀬山航生	浦和レッズユース	徳田誉	鹿島アントラーズつくばジュニアユース	
	中島洋太郎※1	サンフレッチェ広島ジュニアユース	※1: ケガのため不参加		
	半場朋人	東京ヴェルディジュニアユース	※2: 追加招集		
			※3: ケガのため離脱		

<スケジュール>

5月24日 集合、トレーニング(Jヴィレッジ)
 25~26日 トレーニング(Jヴィレッジ)
 27日 練習試合 vs 鹿島アントラーズユース(Jヴィレッジ)

なでしこジャパン(日本女子代表) 国際親善試合 MS&ADカップ2021

※64~65ページに関連記事あり

【スタッフ】

○監督: 高倉麻子(NCS) ○コーチ: 大部由美(NCS)、今泉守正(NCS) ○GKコーチ: 大橋昭好(NCS) ○フィジカルコーチ: 広瀬統一(NCS/早稲田大学)

<選手>

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属
GK	池田咲紀子	三菱重工浦和レッズレディース	MF	三浦成美	日テレ・東京ヴェルディベレーザ
	山下杏也加	INAC神戸レオネッサ		塩越柚歩	三菱重工浦和レッズレディース
	スタンボー華穂1	大宮アルディージャ VENTUS		林穂之香	AIKフットボール(SWE)
	平尾知佳2	アルビレックス新潟レディース		北村菜々美	日テレ・東京ヴェルディベレーザ
DF	熊谷紗希	FCバイエルン・ミュンヘン(GER)	FW	木下桃香	日テレ・東京ヴェルディベレーザ
	土光真代	日テレ・東京ヴェルディベレーザ		菅澤優衣香	三菱重工浦和レッズレディース
	清水梨紗	日テレ・東京ヴェルディベレーザ		岩淵真奈	アーセナル(ENG)
	宮川麻都	日テレ・東京ヴェルディベレーザ		田中美南*	バイヤー・レバークーゼン(GER)
	南萌華	三菱重工浦和レッズレディース		初水結花	OLレインFC(USA)
	宝田沙織	ワシントン・スピリット(USA)		遠藤純	日テレ・東京ヴェルディベレーザ
MF	高橋はな	三菱重工浦和レッズレディース	GER: ドイツ, USA: アメリカ, ITA: イタリア, SWE: スウェーデン, ENG: イングランド		
	中島依美	INAC神戸レオネッサ	※1: ケガのため離脱		
	長谷川唯	ACミラン(ITA)	※2: 追加招集		
	杉田紀和	INAC神戸レオネッサ	*田中は7日にチームに合流、8日からチーム活動に参加		

<スケジュール>

- 6月7日 集合、トレーニング(広島広域公園第一球技場)
- 8日 トレーニング(広島広域公園第一球技場)
- 9日 公式会見、公式トレーニング(エディオンスタジアム広島)
- 10日 国際親善試合 vs ウクライナ女子代表(エディオンスタジアム広島)
- 11日 トレーニング、移動
- 12日 公式トレーニング(カンセキスタジアムとちぎ)
- 13日 MS&ADカップ2021 vs メキシコ女子代表(カンセキスタジアムとちぎ)
- 14日 リカバリー・トレーニング
- 15日 トレーニング
- 16日 トレーニング、解散

■ウクライナ女子代表 来日メンバー

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属
GK	イリナ・サニナ	ジトロバッド-1	MF	イリナ・コヒニエフ	ジトロバッド-1
	タリナ・ボンダルチュク	ジトロバッド-2		ヤナ・カリニナ	ジトロバッド-2
DF	アナスタシア・フィレンコ	ジトロバッド-2	ヤナ・マラコフ	ジトロバッド-2	
	オルガ・バサンスカ	ジトロバッド-1	ペロニカ・アンドルクヒウ	ジトロバッド-2	
MF	アナスタシア・ポロニナ	ジトロバッド-1	クリスティナ・ペレビスニク	ラドミル	
	リウボウ・シュマトコ	ジトロバッド-1	ナディア・クニナ	ジトロバッド-1	
	イリナ・ポドルスカ	ジトロバッド-2	ピクトリア・ヒリン	ラドミル	
	カタリナ・コルサン	ジトロバッド-2	ユリア・クリスティウク	オールド・ドミニオン大学(USA)	
	アンナ・ベトリク	ジトロバッド-1	ガンナ・ポロニナ	ジトロバッド-1	
	マリナ・シャイニウク	ラドミル	ニコレ・コスロフ	バージニア工科大学(USA)	
FW	オルハ・オウディチュク	ジトロバッド-1	USA: アメリカ		

監督 ナタリア・ジンチェンコ

<スケジュール>

- 6月9日 公式トレーニング(エディオンスタジアム広島)
- 10日 国際親善試合 vs なでしこジャパン(エディオンスタジアム広島)

■メキシコ女子代表 来日メンバー

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属
GK	セシリア・サンティアゴ	PSV(NED)	MF	レベッカ・ベルナル	クラブ・モンテレイ
	エミリー・アルバラド	テキサス・クリスティアン大学(USA)		ヘレン・クルス	ティグレス
DF	ケンティ・ロブレス	レアル・マドリッド(ESP)	ジャクリン・オバジェ	ティグレス	
	ピアンカ・シエラ	ティグレス	マリカルメン・レジェス	カリフォルニア大学サンディエゴ校(USA)	
	ジョスリン・オレヘル	クラブ・アメリカ	ホセリン・モントジャ	グアダハラ	
	ヒメナ・ロベス	エイバル(ESP)	ナイエリ・ディアス	セント・アーンズ・パーク(カナダ)	
	カリナ・ロドリゲス	カリフォルニア大学サンディエゴ校(USA)	ステファニー・マジョル	ティグレス	
	キンバリー・ロドリゲス	オクラホマ州立大(USA)	アリシア・セルバンテス	グアダハラ	
MF	レイナ・レジェス	アラバマ大学(USA)	カロリナ・ハラミジョ	グアダハラ	
	ナンシー・アントニオ	ティグレス	アリソン・ゴンサレス	クラブ・アトラス	
	キアナ・バラシオス	レアル・ソシエダ(ESP)	USA: アメリカ, ESP: スペイン		

監督 モニカ・ベルガラ

<スケジュール>

- 6月12日 公式トレーニング(カンセキスタジアムとちぎ)
- 13日 MS&ADカップ2021 vs なでしこジャパン(カンセキスタジアムとちぎ)

国際親善試合

なでしこジャパン **8** 前半4-0 後半4-0 **0** ウクライナ女子代表

●2021年6月10日 15:15 ●エディオンスタジアム広島 ●試合時間:90分 ●審判員: [主審]山下良美 [副審]坊園真琴・手代木直美 [第4の審判員]杉野杏紗 ●マッチコミッショナー:平井徹 ●観衆:796人

日本(監督:高倉麻子):[GK](18)山下杏也加 [DF](2)清水梨紗(4)熊谷紗希(22)宝田沙織<-83'(3)土光真代> [MF](7)中島依美(14)長谷川唯<-67'(6)杉田紀和>(17)三浦成美<-67'(20)林穂之香>(19)塩越柚歩<-60'(10)初水結花>(23)北村菜々美 [FW](8)岩淵真奈<-76'(12)遠藤純>(9)菅澤優衣香<-60'(11)田中美南>

控え:(1)池田咲紀子(21)スタンボー華穂(15)南萌華(13)木下桃香(15)高橋はな(16)宮川麻都

ウクライナ(監督:ナタリア・ジンチェンコ):[GK](12)イリナ・サニナ<-82'(1)タリナ・ボンダルチュク> [DF](2)イリナ・ポドルスカ<-HT(18)カタリナ・コルサン>(3)アンナ・ベトリク<-34'(21)イリナ・コヒニエフ>(4)アナスタシア・フィレンコ(6)オルガ・バサンスカ(14)リウボウ・シュマトコ [MF](7)ヤナ・カリニナ(10)ナディア・クニナ<-76'(8)ユリア・クリスティウク>(16)オルハ・オウディチュク(20)ヤナ・マラコフ<-HT(19)ガンナ・ポロニナ> [FW](9)ニコレ・コスロフ<-60'(5)ペロニカ・アンドルクヒウ>

控え:(11)ピクトリア・ヒリン(13)クリスティナ・ペレビスニク(15)マリナ・シャイニウク(22)アナスタシア・ポロニナ

得点 [日本]5'、41'塩越柚歩(1-0)(4-0)、30'、58'岩淵真奈(2-0)(5-0)、38'宝田沙織(3-0)、80'杉田紀和(6-0)、89'田中美南(7-0)、90'初水結花(8-0)

MS&ADカップ2021

なでしこジャパン **5** 前半1-0 後半4-1 **1** メキシコ女子代表

●2021年6月13日 14:02 ●カンセキスタジアムとちぎ ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]小泉朝香 [副審]萩尾麻衣子・緒方実央 [第4の審判員]兼松春奈 ●マッチコミッショナー:平井徹 ●観衆:3,890人

日本(監督:高倉麻子):[GK](1)池田咲紀子 [DF](2)清水梨紗(4)熊谷紗希(5)南萌華(16)宮川麻都<-81'(15)高橋はな> [MF](7)中島依美(14)長谷川唯<-81'(17)三浦成美>(20)林穂之香<-71'(6)杉田紀和> [FW](8)岩淵真奈<-71'(12)遠藤純>(10)初水結花<-58'(13)木下桃香>(11)田中美南<-58'(19)塩越柚歩>

控え:(18)山下杏也加(21)平尾知佳(3)土光真代(9)菅澤優衣香(22)宝田沙織(23)北村菜々美

メキシコ(監督:モニカ・ベルガラ):[GK](12)エミリー・アルバラド [DF](2)ケンティ・ロブレス(4)ジョスリン・オレヘル(13)ピアンカ・シエラ(14)カリナ・ロドリゲス<-52'(5)ヒメナ・ロベス> [MF](7)ヘレン・クルス<-77'(6)レベッカ・ベルナル>(11)ジャクリン・オバジェ<-84'(21)ホセリン・モントジャ>(16)ナンシー・アントニオ [FW](10)ステファニー・マジョル(17)アリソン・ゴンサレス<-84'(19)ナイエリ・ディアス>(18)カロリナ・ハラミジョ<-63'(9)アリシア・セルバンテス>

控え:(1)セシリア・サンティアゴ(3)キンバリー・ロドリゲス(8)キアナ・バラシオス(15)レイナ・レジェス(20)マリカルメン・レジェス

得点 [日本]35'岩淵真奈(1-0)、46'田中美南(2-0)、54'初水結花(3-1)、74'木下桃香(4-1)、88'遠藤純(5-1) [メキシコ]49'アリソン・ゴンサレス(2-1)

DATA BOX

フットサル日本女子代表候補 トレーニングキャンプ(福島)

【スタッフ】

○監督: 木暮賢一郎(NCS) ○GKコーチ: 内山慶太郎(NCS) ○フィジカルコーチ: 下地達朗(NCS)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	山本彩羽加	SWHレディース 西宮	FP	千田日向子	バルドラール浦安ラス・ポニータス
	井上ねね	立川・府中アスレティックFCレディース		三津山美有	SWHレディース 西宮
	須藤優理亜	フウガドールすみだレディース		松本直美	バルドラール浦安ラス・ポニータス
	藤江真尋	福井丸岡ラック		北川夏奈	福井丸岡ラック
FP	加藤正美	バルドラール浦安ラス・ポニータス		高尾西利	福井丸岡ラック
	網城安奈	SWHレディース 西宮		追野沙羅	SWHレディース 西宮
	平井佑果	バルドラール浦安ラス・ポニータス		齊下遼音	立川・府中アスレティックFCレディース
	平井成美	バルドラール浦安ラス・ポニータス		池内天紀	福井丸岡ラック
	藤田実桜※1	立川・府中アスレティックFCレディース		玉川華帆	フウガドールすみだレディース
	倉持杏子	バルドラール浦安ラス・ポニータス			
	四井沙樹	バルドラール浦安ラス・ポニータス			

※1: ケガのため離脱

<スケジュール>

6月3日 集合、トレーニング(ならばスカイアリーナ)
4~5日 トレーニング(ならばスカイアリーナ)
6日 トレーニング(ならばスカイアリーナ)、解散

ビーチサッカー日本代表候補 トレーニングキャンプ(静岡)

【スタッフ】

○監督: 茂捨羅オズ(NCS/東京ヴェルディ BS) ○コーチ: 田畑輝樹(NCS/ヴィアティン三重BS) ○GKコーチ: ノグチピント・エリキソン・フランキ(大成高校) ○フィジカルコーチ: 武井敦彦(Passion Sports Training)※5月26日から ○メンタルコーチ: 中澤史(法政大学)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	宜野座寛也	ソーマブライア沖縄	FP	松尾那緒弥	アヴェルタージ熊本
	河合雄介	東京ヴェルディ BS		赤熊卓弥	ラソアペーゴ北九州
	山本哲也	BSC明石アレイア		大場崇晃	レーヴェ横浜
FP	山内悠誠	東京ヴェルディ BS		坪谷亮太	ソーマブライア沖縄
	茂捨羅オズ	東京ヴェルディ BS※監督兼選手		見山龍之介	東京ヴェルディ BS
	盛礼良レオナルド	ヴィアティン三重BS		山口勝輝	ヴィアティン三重BS
	奥山正憲	レーヴェ横浜		上里琢文※2	東京ヴェルディ BS
	松田康佑	レーヴェ横浜			
	原口翔太郎※1	東京ヴェルディ BS			

※1: ケガのため不参加

※2: 追加招集

<スケジュール>

5月24日 集合、トレーニング(静岡県内)
25~27日 トレーニング(静岡県内)
28日 トレーニング(静岡県内)、解散

サッカーe日本代表 KIRIN iMUSE CUP

<選手>

プレーヤーネーム	名前	所属
Jay	田野入潤	SCARZ
Web Nasri	青木太一	鹿島アントラーズ
Agu	中島奨	Blue United eFC

<第1試合>2021年6月24日

e日本代表 3-5 eマレーシア代表
(Agu・Jay) (前半1-1、後半2-4)

<第2試合>2021年6月24日

e日本代表 3-4 eマレーシア代表
(Agu・Web Nasri) (前半1-2、後半2-2)

<第3試合>2021年6月24日

e日本代表 0-3 eマレーシア代表
(Jay・Web Nasri) (前半0-0、後半0-3)

【対戦形式】

- ・オンライン(2 vs 2) / FUTモード(任意の選手でチームを構成) / 延長、PK有り
- ・3試合を戦い、勝ち数の多い国が勝利 / プラットフォームはPlayStation®4

8人制サッカーの教科書

大好評!
2刷出来!!

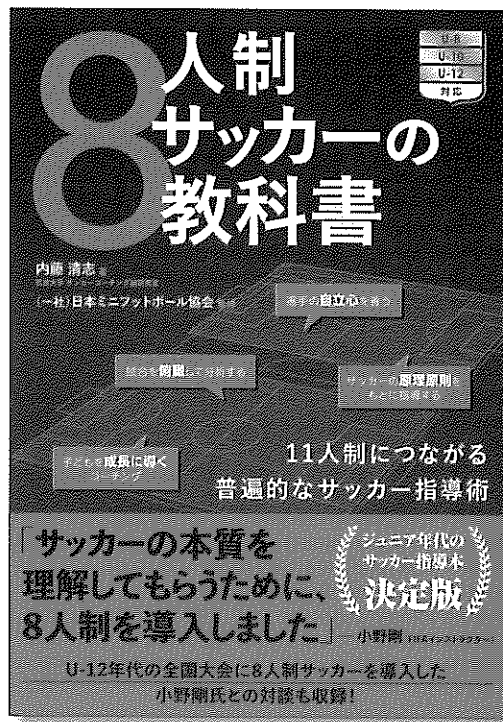
11人制につながる
普遍的なサッカー指導術

内藤清志(筑波大学サッカーコーチング論研究室) 著
(一社)日本ミニフットボール協会 監修

8人制サッカーの特性を理解した指導者こそ
選手を伸ばし、チームを強くすることができる。

- 第1章 サッカーとはどんなスポーツなのか
- 第2章 サッカーを分析し、用語を整理する
- 第3章 ゲームを分析する -鳥の眼-
- 第4章 プレーを分析する -虫の眼-
- 第5章 トレーニングを計画する

11人制で活躍する選手を育成するには、指導者が“サッカーの本質”を理解することが重要だ。ジュニア年代のサッカーコーチに必要な知識を網羅したこれまでになかった「8人制サッカーの教科書」が登場!



定価2,200円(税込)

GKコーチ原本 “先手を取るGKマインド”の育て方

澤村 公康 著 定価2,310円(税込)

全カテゴリーのGKを指導してきた日本屈指のGKコーチによる
これまでになかった
「GKコーチのための原本」

GKの80%を占める装備すべき5つのマインドなど、“先手を取るGKマインド”を育むための要素がすべて詰まった唯一無二のGKコーチ大全。
シュミットダニエル選手推薦! 「澤さんの言葉にはアドレナリンがある」

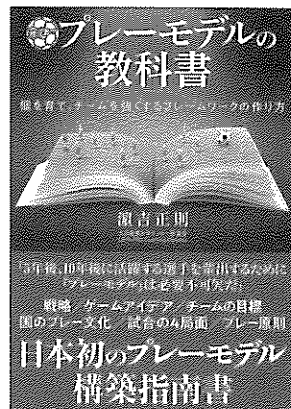


サッカープレーモデルの教科書 個を育て、チームを強くするフレームワークの作り方

濱吉正則
(UEFA PRO COACHING DIPLOMA
九州産業大学サッカー部監督) 著
定価2,090円(税込)

日本初のプレーモデル構築
指南書!

欧州のプロリーグで監督経験を持つ唯一の日本人指導者である著者が自らの指導理論を基にプレーモデル作成の“掟”を伝授します。グラスルーツの指導者にもプレーモデルの概念を理解できるような、まさに教科書です。



ジュニアサッカー プレーヤータイプ別 診断トレーニング

シュタルフ悠紀(Y.S.C.C.横浜TOP監督) 著
定価1,650円(税込)

現役Jクラブ監督による
小中学生向けの
サッカートレーニング!

「自分で目標をたて、実行できるようになることは夢を叶えるための近道だ!」自分のタイプを知り、目標を設定し、夢を叶えるために必要な練習を自分で考えることができるようになる。自律心と想像力を養うサッカーノートです。



勝利と育成を両立させる 新時代のサッカーコーチングマニュアル

倉本 和昌 著 定価1,980円(税込)

コーチが学んで行動し続けることで
チームははじめて強くなる!
コーチの成長=チームの勝利!

セミナー参加者が1500人を超える著者が自身のスペインやJリーグのサッカークラブでの指導経験や心理学、脳科学、組織マネジメント理論等をミックスさせたメソッドをあますことなく公開! サッカーコーチのコーチが綴るサッカーコーチのためのサッカー指導マニュアル。





JFL便り

FCマルヤス岡崎
<http://fc-maruyasu.jp/>



「一戦必勝」

FCマルヤス岡崎 広報担当 濱田 知佐

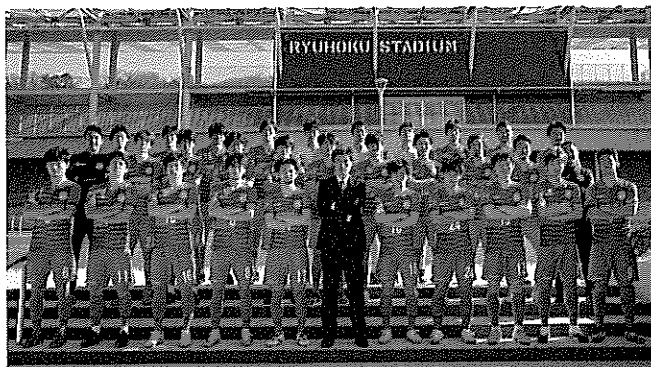
FCマルヤス岡崎(マルヤス工業株式会社フットボールクラブ)は、1968年にマルヤス工業株式会社サッカー部として創部しました。1975年には愛知県リーグで優勝し、翌年からは東海リーグに戦いの場を移しました。その後は東海リーグ2部に降格することもありましたが、2003年には愛知県サッカー選手権大会で優勝し、チーム初となる天皇杯出場を果たしました。2013年に東海リーグを制覇し、2014年のJ3リーグ新設に伴ってJFLへの入会が決まり、その際にチーム名を「FCマルヤス岡崎」としました。

異例のシーズンとなった参入7年目の昨シーズンは、慣れない状況の中で全力を尽くしたものの、リーグ最下位と非常に悔しい結果となりました。しかし天皇杯ではクラブ史上最高記録の3回戦出場を達成。リーグ最終節では、天皇杯で敗れたHonda FCから初勝利を収め、リベンジを果たすことに成功しました。

岡崎市に「岡崎市龍北総合運動場 龍北スタジアム」が完成し、参入8年目となる今シーズンからは岡崎市でホームゲームが開催できるようになりました。念願だった岡崎開催の初戦は高知ユナイテッドSCに1-2で敗れてしまいましたが、813人とたくさんの方に足を運んでいただくことができました。FCマルヤス岡崎に携わる全ての人に、残りのシーズン1試合でも多く、勝利という形で応えられるよう一戦一戦全力で戦います。

そんな今シーズンのスローガン「一戦必勝」には、昨年の「進化」が意味していた「全員の自発的行動とチャレンジ精神」を念頭に置きつつ、後先のことを考えず常に目の前の試合に全力を尽くし、勝利のために全員で戦い続けるという意味が込められています。クラブには幅広い年齢層の選手が在籍しているため、若手のアグレッシブさとベテランの融合により上位進出を狙います。

チームコンセプトである「岡崎市の名を全国に」「サッカーで会社を元気に」を合言葉に、地域に根差したNO.1企業チームを目指し、岡崎市の名を全国に轟かせるべく、選手・スタッフ一丸となって全身全霊で挑みます。



今シーズンもチーム一丸となって全力で戦っていく

JFL便り

F.C.大阪
<https://fc-osaka.com/>



絶対勝利でJ3へ

F.C.大阪 広報室 並木 奈那子

F.C.大阪は、「Challenging for the J-League」をチームビジョンに掲げ、大阪から3番目のJリーグ入りを目指しているサッカークラブです。JFLには2015年から参戦し、8年目のシーズンを迎えました。大阪府東大阪市をホームタウンに、2020年2月にJリーグ百年構想クラブに承認され、9月にはJ3クラブライセンスを取得。11月にはJ3入会資格を得て、残るは成績面をクリアするのみとなった昨シーズンのリーグ戦最終節、勝てば大逆転でJ3昇格を手にすることができるところで敗れ、昇格は持ち越しとなりました。

そして迎えた2021年、F.C.大阪は「FC大阪」から「F.C.大阪」へと改称しました。「FC」にはフットボールクラブという1つの意味だけではなく、「F」にはさまざまな領域を示す「Field」、基礎・基板の「Foundation」、人々のためにという「For people」の意、「C」には地域貢献の「Community contribution」、協調の「Cooperation」、信頼の「Confidence」、創造の「Creation」の意と、「F」「C」それぞれに独立した意味を含め、より担うべき役割に向かってクラブを進化させていくため、「FC」から「F.C.」に改称することとしました。

今シーズンのスローガンは「絶対勝利」。選手、フロント、スタッフが一丸となり、勝つことにこだわる強い意志をもって臨み、応援してくれる全ての人と共に目指す場所へ進むという意味を込めています。このスローガンを掲げ、メンバーも大きく入れ替えて、開幕に向けて順調に準備を進めていたさなか、2021年2月10日、前代表取締役の疋田晴巳が急逝しました。今年こそJ3昇格をと、期待を大きく膨らませていた社長の突然の訃報でした。誰よりも強い勝利への執念、お客さまへの感謝の気持ち、そして選手、スタッフ、社員への愛情、こうした社長が大切にしていた意思と志を胸に、クラブ、チーム、選手が一丸となって戦い、なんとしても今シーズンのJFL優勝、J3昇格を成し遂げます。

そして、クラブとしてはサッカークラブの枠にとどまらず、地域に貢献するためにさまざまな物事をつなぐコンテンツとしての役割や、地域発展の新たな取り組みをクリエイティブする結節点・発信地の役割を担っていくことを目指し、活動の幅を広げ、社会の成長と発展の原動力となるように努力してまいります。



悲願であるJFL優勝、J3昇格を目指し、「絶対勝利」で突き進む

なでしこリーグ便り

静岡SSUアスレジーナ
<https://shizuoka-ssu.com/>



Spectacle(スペクタクル)

「静岡SSUアスレジーナ」運営法人 一般社団法人静岡スポーツユナイテッド
代表理事 CEO 三浦 哲治

静岡SSUアスレジーナは、静岡県をホームタウンとして、なでしこリーグ2部に所属するサッカーチームです。サッカーの普及と地域スポーツ文化の発展を願い、地域の学校やクラブチームと連携して選手を育成し、高校・大学を卒業してもサッカーがプレーできる環境を整備してきました。そして、サッカーで人が動き、つながり、感動できるような活動を静岡から世界に発信してきました。

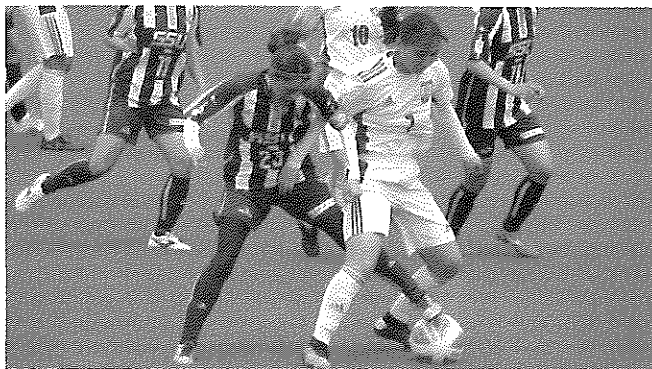
アスレジーナには地域社会の活性化に貢献したいという強い思いがあります。「アスレジーナ」はオール静岡 (ALL Shizuoka REGINA) の造語で、チームは「地域の財産・みんなのもの」として、この地域になくてはならないものであり続けることを目指しています。

強く魅力的なチームづくりを進め、地域のシンボルにふさわしい集団を目指し、Intelligence (インテリジェンス)、Imagination (イマジネーション)、Aggressive (アグレッシブ) を三本柱に、Spectacle (スペクタクル) なサッカーを追求しています。これは、試合中に起こる種々な状況に対して選手が的確に認知・判断・決断することや、創造的なプレーで、積極的にサッカーを楽しむ姿を現し、「みる」「ささえる」「かかわる」全ての人々が感動することを意味します。

2021シーズンはサッカーの基本に立ち返り、まずは「止めて、蹴る」から本気で追求します。隠れて気付かなかった技術と発想力を身に付け、自分の可能性＝チームの可能性にチャレンジします。サッカー王国といわれた静岡県で、応援したくなる、ワクワクする攻撃的な試合展開のSpectacle (スペクタクル) なサッカーで、なでしこリーグ1部昇格を目指します。

また、2021年9月にスタートする日本女子プロサッカーリーグ「WEリーグ」に静岡県から参戦するチームはありません。サッカーをする女の子に夢を与え、性別にとられない社会の実現・発展に貢献するため、静岡県に女性プロサッカーチームが必要です。

そして、静岡SSUアスレジーナは「WEリーグ」参入に向けて、始動しました。



なでしこリーグ1部昇格、そして静岡県初の女性プロサッカーチームを目指す

なでしこリーグ便り

伊賀FCくノ一三重
<https://www.igaafc.jp/>



持続可能型開発なクラブ運営を目指して

伊賀FCくノ一三重 副代表 粟野 仁博

私たち伊賀FCくノ一三重は今シーズン、なでしこリーグ1部で戦い、優勝を目指して活動しています。

当クラブは1976年創設の老舗球団 (創部45年) で、第1回日本女子サッカーリーグ (前身はプリマハムFCくノ一) より参加を続けています。今年9月に開幕するWEリーグへの参入はかないませんでした。クラブの歩みそのものが日本女子サッカーの歩みであるという自負を持って、今後もさらなる高みを目指していきます。WEリーグ参入へ越えなければならないハードルはいくつもあるのが現状ですが、当クラブの強みも多々あり、女子サッカー界への一石を投じることができるクラブになっていければと考えています。

その強みは、地域に密着した活動です。当クラブは2000年より市民球団としての歩みを進めてきました。これは行政や地域の方々、さらには地元スポンサー企業のご支援はもちろんのこと、もともとサッカーの盛んな地域で、おらが町のチームと認識いただき、育成から普及までコツコツと背伸びしない活動を続けてきた結果、決して派手ではありませんが地道に年数を重ねることができたと考えています。

世界に目を向けると、市民球団として活動し、大きなクラブに成長したところも多くありますが、日本の場合は企業チームの延長線上にクラブが存在していることが多いように思えます。その存りようを否定するつもりはもちろんないのですが、クラブ運営における持続可能型開発を検討する上で、小さな力や活動をコツコツ蓄え、いかに地域を巻き込み、クラブの存在意義をしっかりと確立することができるかが重要ではないかと考えています。

9月には日本初の女子サッカーのプロリーグが開幕します。当クラブも、その潮流に乗ることは大事だと考えますが、一番は地域の方々に理解をいただき、5年先、10年先を見据えてクラブのビジョンを示し歩を進めていくことが最重要です。

古豪と言われて久しい当クラブですが、これからも地元密着で、サッカーの、ひいてはスポーツのコンソーシアムとして活動し、再び女子サッカーの頂を制覇できるように頑張ってまいります。



これからも市民球団として地域に根差し、プロリーグ参入を目指す



日本ビーチサッカー連盟便り

日本ビーチサッカー連盟
<http://jbsf.or.jp/>



環境・地域資源×アヴァンチ大阪

アヴァンチ大阪 代表 墨谷 雄輔

新型コロナウイルスの感染拡大が進む中、日々医療の最前線で患者さんの治療に尽力されている医療従事者の皆さまに、心から敬意を表するとともに、深く感謝申し上げます。

私たちアヴァンチ大阪は2007年3月に結成した、日本ビーチサッカー界の中でも比較的古い歴史を持つチームです。

2020年7月にチームとして新たな一歩を踏み出しました。

関西国際空港を臨む泉南市の海岸に、2020年7月、「泉南りんくう公園」(愛称: SENNAN LONG PARK)が開業しました。公園の前に広がる「タルイサザンビーチ」をホームピッチとして活動することが可能になり、地域のにぎわい創出につながる役割も果たしています。

このSENNAN LONG PARKで、私たちは「環境・地域資源×スポーツ」に価値があるとの思いから、泉南市や公園代表企業、協力企業の皆さまに賛同いただきながら、チームのトレーニング以外にも関西リーグの試合やイベントを開催しています。夏の海水浴シーズンなのにぎわいだったビーチが、一年を通して、関西はもちろん地方からも多くの観光客が訪れる場所になれば、さらにビーチサッカーの魅力発信や地域活性化につながると確信しています。

また、地域の歴史や伝統文化もアヴァンチ大阪として発信したいと考えています。なんとなく知っている、なんとなく見たことがあるという不確かな情報ではなく、実際に歴史や伝統文化を見聞したり、体験したりすることで地域の特色を理解できます。地域を愛することができれば、私たちも愛されるクラブになると感じています。

2020年11月には、関西初の女子ビーチサッカーチーム「アヴァンチ大阪ウィステリア」を設立しました。

今後さらにビーチサッカーの競技レベルが高度化していく中で、アヴァンチ大阪としてもチーム力、個人のスキルアップは不可欠です。JFA全日本ビーチサッカー大会のほか、Beach Soccer地域リーグチャンピオンシップおよびBeach Soccer地域女子チャンピオンズカップ(日本ビーチサッカー連盟主催)といった全国大会出場や、世界で活躍するビーチサッカー日本代表選手輩出にも全力で取り組み、泉南市や泉南りんくう公園と共に歴史をつくっていきます。



SENNAN LONG PARK(大阪・泉南りんくう公園)からビーチサッカーの魅力を発信していく

日本フットサル連盟便り

日本フットサル連盟
<http://www.jff-futsal.or.jp/>



15年目のFリーグ、5年目の女子Fリーグが開幕

一般財団法人日本フットサル連盟

フットサルの2021-2022シーズンが開幕を迎えました。

5月22日のFリーグディビジョン2(以下、F2)開幕を皮切りに、6月5日はFリーグディビジョン1(以下、F1)が、6月19日には日本女子フットサルリーグ(以下、女子Fリーグ)が、それぞれスタートを切りました。

F2では、昨シーズン全勝優勝を遂げたトルエーラ柏が本拠を東京都川区に移し、「しながわシティ」として開幕戦に臨みました。しかし、広島エフ・ドウに終了間際に勝ち越され1-2で敗戦する波乱の幕開けとなりました。その広島も開幕から2連勝で首位に立っていましたが、第3節でヴィンセドール白山に敗戦し、デウソン神戸に首位の座を譲り渡す混戦模様となっています。

F1では、昨シーズンの王者・名古屋オーシャンズが開幕3連勝。昨シーズン準優勝のバサジィ大分は第2節まで未勝利で終えていましたが、第3節でシュライカー大阪との接戦を制し、今シーズン初勝利を挙げました。9月にはFIFAフットサルワールドカップを控えており、各選手が最終メンバー入りを目指す今シーズンは、例年以上に熱戦が繰り広げられています。

また、F1では、今シーズンも動画配信サービス「ABEMA」で全132試合の生中継が決定しています。試合前の選手の意気込みコメント、視聴者参加型で応援したいチームに投票する「リクエスト中継」など新たな企画を導入し、さらなる盛り上がりを見せています。

女子Fリーグでは、開幕節で昨シーズン女王のバルドラール浦安ラス・ボニータスが参入2年目のミネルバ宇部を14-0で下し、圧倒的な強さを見せつけました。ホームでの開幕節を迎えた福井丸岡ラックや、地域リーグから鳴り物入りで女子Fリーグに参入して2年目のSWHLレディース西宮、昨シーズンは優勝を逃したもののリーグ開幕から3連覇を遂げていた強豪のアルコ神戸も順調に勝点を獲得しています。また、日本トップリーグ連携機構が立ち上げた「Woman Athletes Project(女性アスリートプログラム)」の一員として、SPOZONEでのライブ配信も始まり、女子フットサル競技のさらなる認知拡大に期待が掛かっています。

2021-2022シーズンも15周年を迎えたFリーグ、5周年を迎えた女子Fリーグにぜひご注目ください。



2021-2022シーズンの戦いが幕を開けたFリーグと女子Fリーグ(写真は女子Fリーグ)

なでしこひろば便り

なでしこひろば

<http://www.jfa.jp/nadeshikohiroba/>



少女からママさんまで全ての女性がサッカーに親しめる環境を目指して

高岡市サッカー協会 副会長兼理事長 炭谷 久夫

高岡市では、1種から女子まで41団体、約1,200人(うち女子84人)が活動しています。富山県では女子が9チーム登録し、そのうち1種登録の「高岡クイーンズ」と「高岡商業高校女子サッカー部」の2チームが本市にあります。現状、4種14チームの中に女子は40人登録されており、各チームに1人~数人が男子と一緒に活動しています。近年は4種年代の女子が微増していますが、3種の受け入れ態勢が整っておらず、3種で活動している女子はわずか6人とどまっているのが現状です。

昨年度、JFAが女子U-12年代の環境改善を進めていることを知り、これまでの本協会における女子の普及・育成について、欠落していることを痛感させられました。この課題において技術委員会と女子委員会の関係者が集い、女子U-12年代の環境改善に向けて意見交換をしました。

パフォーマンスを高めたい女子児童は市外クラブに流出し、また、意欲があっても市外クラブに行けない事情から継続を諦めているという実態が判明しました。一方で、本市唯一の高校女子サッカー部では初心者が約半数を占めるなど、数々の課題がありました。この実状を踏まえ、小学生年代の一層の普及と中学生年代の活動につなげるため、なでしこプロジェクトを立ち上げて小学生対象の「なでしこひろば」と育成目的の「なでしこアカデミー」の開催を決定。4月に「JFA なでしこひろば」の運営者として認定を受けました。

アカデミーは高岡クイーンズの協力を得て今年4月に14人でスタート。5月に市内の全小学校にリーフレットを配布し、24人に増えました。所属チームでは経験できない女子だけのサッカーを楽しみたいという女子は多く、まだ数回の実施ではありますが、参加者の喜びあふれる表情からさらなる輪の広がりを期待しています。

7月と10月にはサッカー未経験者の「なでしこひろば」を開催し、ボール遊びや動きづくりの体験を通してスポーツへの動機づけを図り、普及につなげたいと思います。小学生、中学生が将来に夢を持って安心してサッカーに取り組めるように、来年度以降は順次対象を広げ、中学から高校へ、高校から女子クラブへとつなげ、少女からママさんまで全ての女性がサッカーに親しめる環境の実現に向けて進みたいと思います。

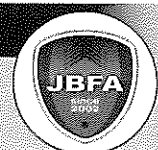


新たに「なでしこひろば」と「なでしこアカデミー」を実施。少女からママさん、経験者から未経験者まで、全ての女性へ輪を広げていく

日本障がい者サッカー連盟便り

日本ブラインドサッカー協会

<https://www.b-soccer.jp/>



「Santen IBSA ブラインドサッカーワールドグランプリ 2021 in 品川」を終えて

NPO法人日本ブラインドサッカー協会 事業推進部大会運営グループ

マネージャー代理 宮島 大輔

NPO法人日本ブラインドサッカー協会および国際視覚障害者スポーツ連盟(IBSA)は2021年5月30日から6月5日に「Santen IBSA ブラインドサッカーワールドグランプリ 2021 in 品川」を開催しました。ブラインドサッカーワールドグランプリは2018年にIBSA公認大会として設立された大会で、2018年に第1回大会、2019年に第2回大会を開催。2020年に第3回大会を開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止になりました。

今大会は第4回大会と位置づけ、日本、アルゼンチン、フランス、スペイン、タイの5カ国が参加しました。日本は5カ国総当たり戦で2勝2分けの2位となり、1位となったアルゼンチンとの決勝に進出。決勝では善戦したものの、アルゼンチンに0-2で敗れました。最終結果は、アルゼンチンが大会3連覇を達成し、日本は準優勝で閉幕しました。また、大変ありがたいことに、大会はオンライン配信を通じて国内外問わず多くの方に視聴いただきました。

今大会は新型コロナウイルス感染症の影響がある中での開催となり、多くの方のご理解、ご協力の下で大会を無事に終えることができました。今大会の開催にご尽力いただいた全ての関係者の皆さま、ありがとうございました。この場を借りて感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響がある中での大会開催は、これまでとは多くの点で異なりました。例えば、各チームの入国においても事前にスポーツ庁と複数回協議をし、政府の承認を得る作業がありました。また、スポーツ庁との協議だけではなく、開催都市や宿泊施設の自治体・保健所との事前協議も行いました。これらの関係各所との事前協議は大会開催に向けて必要なものであり、多くの関係者からご理解いただくことができました。

最後になりましたが、あらためて今大会の開催に向けてご尽力いただいた多くの方に感謝いたします。今大会の開催が社会にとって少しでもポジティブな影響をつくり出すことができている幸いです。



新型コロナウイルス感染症対策を講じて開催したワールドグランプリは多くの協力を得て無事に終了した



山田 亜希子 さん（名古屋オーシャンズレディース監督）

女子がもつと気軽に フットサルができる環境を

選手として指導者として、20年以上フットサルに携わってきた。

名古屋オーシャンズレディースの山田亜希子監督に、

これまでのキャリアと今後の展望について聞いた。

○オンライン取材日：2021年6月15日

さまざまな出会いが
今の仕事に生きている

——サッカーやフットサルとの出会いを教えてください。

山田 高校2年生のとき、シルフィードFCという地元のクラブでサッカーを始めました。中学生の頃にJリーグが開幕して、「サッカーっていいな」と思っていたのですが、自分でチームを探すまでには至らず、それまでは部活動のバレーボールをやっていました。高校2年でバレーボールをやめようかな

と思っていたとき、たまたま友人が「サッカーの体験会に行かない？」と誘ってくれて、それから4年間はサッカーをしていました。

フットサルとの出会いは19歳の

とき。サッカー仲間から「フットサルのミックス大会に出場しよう」と誘われてワンデー大会に出場したんです。そこで働いていたスタッフの方に「近いうちに女子チームを立ち上げるから体験会に来てほしい」と誘っていたとき、参加したら楽しくて。しばらくはサッカーとフットサルの両方をプレーしていたのですが、徐々にフットサルに移行していききました。

——フットサルのどんなところに魅力を感じましたか。

山田 もともと長い距離を走るのが得意ではなかったのに加えて、フットサルではボールにたくさん触れるので自分に合っていると思いました。試合の展開が早く、出て

いる時間は攻めているときも守っているときもほぼ全てのプレーに関わるため、集中を切らすことができません。そういう密度が濃いところが魅力的でした。

——指導者としては、いつスタートを切ったのですか。

山田 最初に入ったクラブ（シルフィードFC）で、プレーの傍ら少年サッカーのスクールコーチのアルバイトをしていました。この時期から教えることに魅力を感じ

ていたため、指導に携わっていきたくらいかなと思うようになりまし。最初はサッカーのコーチを仕事にしようと思っていたのですが、2002年に、フットサル場などを運営しているバンフスポーツとい

う会社に「新しいフットサル場を立ち上げるので、「一緒に働かないか」と声をかけてもらいました。そこでフットサル場で勤務しながらスクール活動をするか、少年サッカーのスクールでコーチを続けるかという二つの選択肢があったのですが、そのときはフットサルの魅力にとりつかれていたので前者の仕事を選びました。

——プレーは続けていたのですか。

山田 仕事が変わってからは4年は仕事に専念するために競技から離れていました。当時はスクールだけではなく、フットサル施設の運営や管理に加えてイベントも開催していたので必然的に休日と祝日の予定が埋まり、プレーでき

なかつたんです。それでも24歳のときにバンフスポーツが運営していた女子チームがメンバー不足になつて存続が危ぶまれたとき、会社の代表に「仕事を続けながらもう一度選手としてチャレンジしたい」と相談したところ、許可をもらいました。そこから最終的に32歳までプレーをしながら、フットサル施設の

——選手時代で特に思い出に残っていることを教えてください。

山田 私は、大洋薬品／バンフ・フェミニノというチームで東海リーグを戦っていました。全日本女子フットサル選手権大会にも一度だけ出場しています。印象に残っているのは、指導者に恵まれていた



YAMADA AKIKO

ことです。大洋薬品／パンフの男子チームは、名古屋オーシャンズの前身であり、後にオーシャンズの監督になる館山マリオさんをはじめ、当時は選手としてフットサル日本代表で活躍されていた方々にも指導をしていた機会がありました。こうしたさまざまな出会いが今の仕事に生きています。

——中でも印象的だった指導は？

山田 館山マリオ監督の練習はとにかく難しく、なかなか意図を汲むことができなかったという意味でよく覚えています。それまでは基本練習やバターン練習をしてきたのですが、マリオさんの練習は真逆。毎日練習メニューが変わります。頭がすっきりした状態で練習



指導者として選手のレベルアップを促しながら、一人のフットサル人として普及に努める。選手がフットサルに触れる機会を少しでも生み出したいたいという思いがある

を終えた日がなかったくらい頭を使いしました。練習が難しいおかげで選手間のコミュニケーションが自然と増えましたし、指導者としてヒントになったことは多かったです。

協力することの楽しさを選手に伝えたい

——現在、名古屋オーシャンズの女子チームを率いています。それはどのような活動に力を入れていたのですか。

山田 フットサルスクールを開催する傍ら、日本サッカー協会のフットサルC級、B級コーチライセンスを取得しました。当時は女子チームで教えるという選択はなかったのですが、フットサルの魅力を伝えたいということは明確だったので、選手としてのキャリアに区切りをつけてからは指導者として成長することを目指しました。

——監督に就任した経緯を教えてください。

山田 あるとき、名古屋オーシャンズの櫻井嘉人代表から「女子の育成チームの監督をやってみないか？」とお誘いいただきました。あまりにも急な話だったので、そのときは「一晩考えさせてください」と返事し、熟考しました。育成型の女

子フットサルチームを思い浮かべたとき、国内では福井丸岡ラックなど教えるほどしかありません。地元・名古屋のクラブで女子フットサル選手の育成に携わるチャンスを見逃してはならないと思いました。大きなチャレンジでしたが、普及と育成の両面に取り組みうと決心し、「せひ、やらせてください」と櫻井代表に伝えました。

——2017年、名古屋オーシャンズレディースはU-15年代の女子フットサルチームとして発足します。同じタイミングでU-12年代の女子を対象にフットサルスクールも開校しました。

山田 絶対に失敗できないと思っていました。チームの立ち上げまでに半年ほどの準備期間があったのですが、選手が思うように集まりませんでした。名古屋オーシャンズが女子チームを立ち上げる、しかも育成年代から続くチームだ、となれば応募が殺到すると思っていたのですが、現実とは違いました。名古屋オーシャンズレディースは今年で結成5年目を迎えました。19年にはU-18年代のカテゴリも創設されましたが、チームとして選手数が十分だと思ったことは一度もありません。組織としてはまだまだこれからですし、何より、女子フットサルの認知度を上げなければ、と

痛感しています。U-12年代の女子が習いごとをする、それもスポーツがやりたいとなったとき、フットサルが選択肢に含まれることは、今はほとんどないでしょう。まずは選抜肢の一つに入れてもらえるように、さまざまな手を打っていく必要があります。

——名古屋オーシャンズレディースは、どんなビジョンを持っていますか。

山田 まずはしっかりと土台をつくることです。トップカテゴリーには、将来、フットサル日本女子代表に入りたいと思ってプレーしている選手もいます。そうした高い志を持ってフットサルに取り組んでいる選手を一人でも多く育てながら、フットサルを長く続けてくれる人、フットサルにずっと愛着を持ってくれる人をもっと増やしたい。育成と普及の両方に力を入れることが不可欠です。

——では、フットサルというスポーツを通じて学んだことは何ですか。

山田 仲間と協力すること、信頼することの大切さですね。5対5という競技性もあると思うのですが、フットサルは人間性がプレーに出やすい。勝ちたいのであれば、協力する精神、仲間を思いやる気持ち、

周りを見てあげることが求められます。フットサルを通して自分勝手ではないということ、学んだ気がしますし、自分が今、教えている選手たちにも仲間と力を合わせることに楽しさを伝えていきたいですね。

——最後にこれからの目標を聞かせてください。

山田 女の子がもっと気軽にフットサルをできるような環境をつくりたいという思いがあります。普及活動に力を入れて、将来的には女の子が「フットサルをやりたい」と思ったときに、すぐに始められる場所があったらうれしいですね。私自身、リーグを見て、サッカーをやりたいと思ったのですが、そうした環境がなかった。環境があることで、いろいろなることが変わってきますので、子どもたちの可能性を広げる意味でもフットサルというスポーツを知ってもらいたいの取り組みを続けていきたいと思っています。

<プロフィール>

山田 亜希子(やまだ あきこ)
1979年11月21日生まれ
愛知県出身
■指導歴
1999年～2001年
シルフィードフットボールクラブ
アシスタントコーチ
2002年～2016年
BANFF FUTSAL SCHOOL
2017年～
名古屋オーシャンズレディース監督、U-15監督、名古屋オーシャンズレディーススクールコーチ

ブルーノ・ガルシアの フットサル道場

リーダーシップと エンパワメント



Bruno GARCIA Formoso

フットサル日本代表のブルーノ・ガルシア監督の連載は隔月の掲載となります。

のびのび働くことが
いい仕事につながる

2016年に監督に就任して、フットサル日本代表の強化と並行して、代表チームのコーチングスタッフを磨き上げる役割を担ってきた。そこで今回は、チームの一員としてどのようにリーダーシップを発揮してきたか、部下と充実した仕事をするために意識していることに触れる。

私がスタッフに求めるのは、「自律」だ。チームのアイデンティティ、仕事の進め方に従って各々が能動的に動く状況をつくり出すことが自分の仕事のひとつだと思っている。自分のすべきことを熟知し、それを自発的にできるスタッフが多ければ多いほど、チームは強くなる。そしてそんな状況を生むには、監督

である私がエンパワメントすること。つまり「権限移譲」だが、その心は、スタッフが自律的に働けるように促すということだ。

私が考えるエンパワメントには四つの柱がある。

一つ目は、指導者として向上心を持つていること。それを前提に、まずは監督である私の仕事の進め方、チームの方向性や価値観を理解してもらおう。その一方で、私はスタッフ同士がそれぞれの役割を把握し、チームが効率良く機能するようにコーチの意見を聞き、潤滑油となる。スタッフが個別に働くより、協働しているチームの方が強い。それを実現させるためには、監督がチームの全体像をイメージしておかなければならない。

二つ目に、スタッフに仕事を与えることだ。仕事を任せる、その権限を与えるという行為は、相手に信頼を寄せているという意思を示すことになる。とはいえ、自由をもらった、あとはやりたい放題でいいと勘違いされては困る。折を見て仕事に対するフィードバックを送り、どんな役割にも責任が伴うということをはっきりさせつつ、仲間を後押しすることが重要になる。上司に信頼されていると感じた部下は、のびのびと自信を持って働くことができ、それが良い仕事へとつながっていく。

リーダーシップとは
周囲を輝かせること

私が考えるエンパワメントの三つ目の柱は、仲間をモチベートすることに尽きる。その気にさせて良い仕事を続けてもらうことと言い換えてもいい。これにはいくつかのやり方がある。まずは仲間の仕事をきちんと認めてあげること。目標を達成したとき、一緒に喜ぶのもいいだろう。些細なことだが、どんなに小さな成功でも、それを祝ってもらえたらうれしいし、自信も深まる。仲間が何度か小さな目標を達成できるようになったら、褒賞を贈る時期だといつていい。褒賞といっても、プレゼントを与えるわけではない。より大きな責任が伴う仕事を任せるのだ。上司からの信頼感や自分の自信が増すにつれ、本人のチームにおける重要性和その意識が増し、それ自体が褒賞になっていく。

最後に四つ目の柱として、スタッフ自身にリーダーシップを発揮してもらおうということが究極のゴールとして挙げられる。リーダーたるものカリスマ性があり、物事を中心で輝き続ける者というイメージもあるが、実際は縁の下の力持ちに近い。

質の高いリーダーシップとは、取り組んでいるプロジェクトに携わる全員の長所を引き出し、彼らを輝かせるためのお膳立てをすることで、自分がスポットライトを浴びることでは断じてない。

今回、スタッフの自律を促すために私が代表チームで行っている取り組みを紹介したが、注意してほしい点が一つある。それは、部下や生徒、あるいは自分の子どもに何かを与える(任せる)とき、その価値をしっかりと理解してもらえないこと。そして、相手が何もうつないのに、相手の願望を叶えてはいけないということだ。このテーマについては次回以降のコラムで触れる。



フットサル日本代表でも徐々に各スタッフの業務を増やし、リーダーシップ発揮を促してきたブルーノ監督。「周囲を輝かせることができる人間が本当のリーダー」と語る

サッカーなら、どんな障害も超えられる。

日本の人口の7%は障がい者です。その障がいは多様で、ひとつとして同じ在り方はありません。

障がいがあっても、いつでも、どこでも、サッカーを心から楽しめる環境を。

彼ら彼女らが社会にある"障害"を超えていきつかけづくりやサポートも、サッカーならできる。

私たちはそう信じて、日本障がい者サッカー連盟を推進していきます。

障がい者サッカー7団体は、日本サッカー協会と連携し、サッカー界の発展のために取り組みます。



切断障がい



脳性麻痺



精神障がい



知的障がい



電動車椅子



視覚障がい



聴覚障がい

日本アンプティサッカー協会

アンプティサッカーとは、足や腕に切断障がいのある人が行う7人制サッカーです。日常生活で使用する義足・義手を外してロフトランドクラッチで体を支えながらプレーします。

日本ソーシャルフットボール協会

ソーシャルフットボールとは、精神障がいのある人が行うフットサルやサッカーです。基本ルールは健常者と同じで、フットサルでは女子選手を含む場合に最大6人がコートでプレーするなど、一部特別ルールを採用しています。

日本知的障がい者サッカー連盟

知的障がい者サッカーとは、知的障がいのある人が行う11人制サッカーです。フットサルも行っています。ルールは健常者のサッカー・フットサルと同じで、プレイヤーの障がいの度合いにより試合時間が異なります。

日本電動車椅子サッカー協会

国際的にはパワーチェアフットボールと呼ばれ、自立歩行が困難な重度の障がいのある人が多く行う4人制サッカーです。手やアゴでジョイスティック型のコントローラーを操り、電動車椅子でプレーします。

日本CPサッカー協会

CPサッカーとは、脳の損傷によって運動障害がある人が行うサッカーです。Cerebral (脳からの) Palsy (麻痺) の頭文字をとり、そう呼ばれています。

日本ブラインドサッカー協会

ブラインドサッカーとは、視覚障がいのある人が行う5人制サッカーです。転がると音が出るボールを使用し、まわりの声を頼りにプレーします。2004年からパラリンピックの正式種目です。弱視者がプレーするロービジョンフットサルもあります。

日本ろう者サッカー協会

デフサッカーと呼ばれる、聴覚障がいのある人が行うサッカーです。サッカーとフットサルがあり、審判は笛だけではなくフラッグも使用するなど、視覚情報を頼りにプレーします。



一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟

公式ユニフォームサプライヤー



パートナー



東京海上日動



支援団体



日本サッカー後援会



MSOL



三菱商事

サムライブルー(日本代表)の森保監督にとつての最初の「勝負」、東京オリンピックが目前に迫りました。

サンフレッチェ広島島の監督を退任して3カ月後の2017年10月に2020年東京オリンピックを目指すチームの監督に就任。翌18年の7月には、22年ワールドカップ・カタール大会を目指す日本代表の監督に就任しましたが、オリンピックを目指すU-21代表の監督も兼務することになりました。

17年に「U-20」だった「東京世代」は、コロナ禍によるオリンピックの延期で今年は「U-24」となりましたが、「見貫分」の日本代表と「U-チーム」2カテゴリーという考え方で境目をつけずに強化してきた結果、森保監督が当初から口にしてきた「金メダルを狙う」という言葉が現実的に聞かれるようになりました。

特にオリンピックに向けて吉田麻也選手、酒井宏樹選手、そして遠藤航選手という経験豊富な選手たちを「オーバーエイジ」として迎えたことで守備が安定し、チーム力は飛躍的に向上しました。このチームの強みは堂安律選手や久保建英選手など攻撃陣に豊かな才能を抱えていることでしたが、守備の安定によってその才能がフルに生きるように

いつも心に

連載 Vol.99

大住良之
(サッカージャーナリスト)

リスペクト



森保監督：感謝を力に

なつたのです。

しかし今回のオリンピックで活躍が期待されるのは、選手たちの顔ぶれによるものではありません。森保監督の哲学が浸透し、「個々に力を持った選手たちが、チームのため、仲間のために走り、戦う」という日本のサッカーの最良の姿が貫かれていることが最大の力です。

「私たちの活動を支えてくれて、いる全ての人に感謝しています」記者会見など公の場で話すとき、森保監督は必ずこうした感謝の言葉から始めます。それは通り一遍の言葉ではありません。大会スポンサーから試合会場まで、その都度、具体的な対象を挙げつつ感謝の言葉を語る姿を見ると、「この人は本気でそう思っているんだな」と理解できます。選手たちとのミーティングでも、最初に語られているに違いないありません。

そして、「感謝」の表現として「使命」があります。困難な状況下でも、日本代表チームの活動を實現するためにたくさんの方が骨を折ってくれているのは、日本代表の活動が日本の社会にポジティブな活力をもたらす力があるからと、誰もが信じているからです。

ならば、日本代表は、仲間を信

じ、力を合わせて、見ている人々の心を打つプレーをしなければなりません。どんなに苦しい状況にあつても、終了のホイッスルが吹かれるまで戦い抜かなければなりません。森保監督は、そうした試合をすることで「日本中に元氣・勇気を届けたい」と語るのです。

私たち取材陣に対しても熱を込めて毎回こうした話をするのですから、当然、選手たちにも話しているはずですが、実際、現在の日本代表、U-24日本代表には、そうした「森保イズム」が見事に浸透しています。選手たちが森保監督と同じ思いを共有しているからこそ、個々に、そしてチームとして大きく成長し、オリンピックを、そして一年後に迫ったワールドカップを迎えることができるのです。

サッカーですから、必ずミスがあります。なかなかうまく運ばず、苦しむ試合もあります。でもそんなときこそ、「チームのために走る。最後まで諦めずに戦う」というこのチームの「ベース」が生きているはず。当然、森保監督には、世界と戦うためのサッカーのビジョンがあり、戦術的なアイデアがあります。しかし練習場で、あるいは

ミーティングを通してそうしたことを徹底するだけでは、魂のない「ロボット」になってしまう。戦術と同時に「森保イズム」という根本的な思いが浸透し、全選手が同じ方向を向いているからこそ、真に世界と戦う力になるのです。



応援してくれる人たちの期待や願いを、支えてくれる人たちへの感謝を力に変えて、森保監督は選手たちと共に勝利を目指す

森保監督は「感謝を力に変えました。しかし力にするために感謝しているわけではありません。心からの感謝の気持ちでチームを一つにまとめ、結果として大きな力になつているのだと思つています。森保監督とU-24日本代表の健闘を祈りたいと思います

日本サッカーミュージアム **11+**

〒113-8311 東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15)
Tel: 050-2018-1990

- 営業時間 火～金曜日 12:00～17:00(最終入場16:30)
土・日・祝日 10:00～17:00(最終入場16:30)
特別営業期間 10:00～17:00(最終入場16:30)
- 休館日 月曜日(祝日の場合は翌火曜日)
年2回のメンテナンス期間
- 入場料 一般大人: 550円、小中学生: 300円、幼児: 無料
団体(20名様以上)・障がい者の方:
大人450円、小中学生200円
※割引については、入場ゲートスタッフまでお問い合わせください。
- URL https://www.jfa.jp/football_museum/

※臨時休館をしている場合もございますので、JFA公式サイトで最新の開館情報をご確認の上ご来館ください。



SAMURAI BLUE、U-24日本代表、 なでしこジャパンのユニフォームなどを新たに展示

日本サッカーミュージアムに、5月28日～6月15日の期間に開催されたSAMURAI BLUE(日本代表)、U-24日本代表、なでしこジャパン(日本女子代表)のそれぞれの試合のユニフォームなどが展示された。

SAMURAI BLUEは、5月28日、6月7日、15日に開催されたFIFAワールドカップカタール2022アジア2次予選兼AFCアジアカップ中国2023予選と、6月3日に開催されたSAMURAI BLUE対U-24日本代表、6月11日に開催されたキリンチャレンジカップ2021の5試合を戦った。ミュージアムの1階エントランスには、各試合の森保一監督と選手のサイン入りユニフォームのほか、100周年アニバーサリーユニフォーム、キャプテンマーク、ポスター、試合球などを展示。また、U-24日本代表は6月5日と12日に行われた国際親善試合、なでしこジャパンは6月10日に行われた国際親善試合と同13日のMS&ADカップ2021から、それぞれ選手のサイン入りユニフォームやキャプテンマーク、使用球、シューズ、ADカード、大会プログラム、ポスターなどが出展されている。

展示物を通して各代表の戦いを振り返るとともに、あらためて、FIFAワールドカップカタール2022アジア最終予選に挑むSAMURAI BLUE、第32回オリンピック競技大会(2020/東京)を戦うU-24日本代表、なでしこジャパンにエールを送りたい。

※展示終了日は未定。予告なく展示物に変更になる場合あり。



日本サッカーミュージアムで夏休みの 自由研究テーマを探そう!

日本サッカーミュージアムは7月22日(木・祝)～8月22日(日)、夏季特別営業として10時から17時まで開館する(最終入場16:30/期間中無休)。夏季期間中は、来場者プレゼント企画として、ミュージアムの有料ゾーンに入場した希望者を対象に日本サッカーの歴史について学べるオリジナルグッズをプレゼント。そのほか、オンラインワークショップ、オンライントークイベントを開催する。

【来場者プレゼント】開催期間:7月22日(木祝)～8月22日(日) 日本サッカー協会100周年記念 ワークブックで歴史を学ぼう!

ミュージアムの所蔵品を通して日本サッカーのあゆみを学習できるワークブック。
サッカー歴史すごろくを作ろう!
自分でデザインしたすごろくで楽しく遊びながら、日本サッカーのさまざまな出来事について知ることができる。

※内容が一部変更になる場合があります。
※グッズの数には限りがあります。期間内であっても、配布を終了する場合がありますので、あらかじめご了承ください。
※館内のスペースで作成いただくことはできません。

【オンラインワークショップ】 「サッカー世界図鑑づくり～スペイン編～」

日 程: 8月7日(土) 10:30～12:00 / 13:30～15:00
対 象: 小学校4～6年生
講 師: サッカー新聞エル・ゴラッソ編集長 寺嶋朋也さん
参加費: 無料
※インターネットによる事前申し込みが必要です。
URL <https://forms.gle/4gJ3ZsSrznF9Xc3A6>
申込期限: 7月25日(日)まで



【オンライントークイベント】 「サッカーボールのひみつ」

日 程: 8月6日(金) 11:00～12:00
講 師: 株式会社モルテン 内田潤さん
対 象: 小・中学生
参加費: 無料
※インターネットによる事前申し込みが必要です。
URL <https://forms.gle/Fg7w5AEE8FdVBVKG7>
申込期限: 8月1日(日)まで



※詳細につきましては日本サッカーミュージアムHPをご覧ください。
※zoomを利用したオンラインイベントとなります。日本サッカーミュージアム現地での開催ではございません。
※主催者側及び出演者の諸事情により、内容等の変更及びイベント中止の場合がございます。あらかじめご了承ください。

日本サッカーミュージアムを支援いただいている企業(五十音順) ※2021年7月1日現在

株式会社ADKマーケティング・ソリューションズ
アスカ美装株式会社
キンビール株式会社
キンビバレッジ株式会社
KDDI株式会社
広友物産株式会社
J-GREEN堺・DREAM CAMP

株式会社JTBグローバルマーケティング&トラベル
株式会社Jリーグ
株式会社ジエブ
株式会社シズオクト
株式会社スケール
ソニーネットワークコミュニケーションズ株式会社
株式会社テレビ東京

株式会社電通
株式会社電通ライブ
西鉄旅行株式会社
日本テレビ放送網株式会社
株式会社野村総合研究所
びあ株式会社
株式会社ビッグ・バーン

ホテル東京ガーデンパレス
マッシュコーポレーション株式会社
株式会社マッス
株式会社ムラヤマ
株式会社モルテン
ヤマザキバスケット株式会社
株式会社ユース・プランニングセンター

51.5144° N, -0.0985° W
SPRING-SUMMER 2021

dunhill



欧州勢との初対戦に勝利

SAMURAI BLUE(日本代表)は6月11日にノエビアスタジアム神戸(兵庫県)で行われたキリンチャレンジカップ2021で、セルビア代表に1-0で勝利した。2018年7月に森保一監督が就任して以来、欧州のチームと対戦したのは初めて。試合は、新型コロナウイルス感染防止の観点から無観客での開催となった。

※SAMURAI BLUEメンバー、セルビア代表来日メンバー、公式記録は41~42ページに掲載
※選手の所属は試合時

セルビアは、サムライブルー(日本代表)が森保一監督の下で初めて対戦する欧州チーム。同監督が「世界で戦っていく基準を確かめ、どれだけできるかを測るには最高の相手」と期待を寄せた一戦に、4日前のFIFAワールドカップカタール2022アジア2次予選、タジキスタン戦から先発メンバー7人を入れ替えて臨んだ。

FIFAランキングで日本の28位を上回る25位(5月27日発表)のセルビアは、名古屋グランパスエイトで活躍し、名古屋グランパスを指揮してJリーグ初優勝に導いたドラガン・ストイコビッチ監督が率いるチーム。試合前日の会見で日



約3年半ぶりの代表復帰となった谷口(中央)。決勝点をアシストするなど攻守にわたって日本の勝利に貢献した



伊東が挙げた決勝点は日本代表通算1300得点目となった

本のスピードとテクニックを警戒していると話した同監督は、縦に深く入るボールを出させないように5人の選手をディフェンスラインに並べて日本の攻撃スペースを狭めてきた。

日本は前半、この布陣を攻めめぐむ。中盤で受けるプレスは比較的に緩かったが、バイタルエリアへのパスやドリブルはフィジカルに優れたセルビアの厳しいチェックに阻まれた。MFの古橋亨梧(神戸)や鎌田大地(フランクフルト)らによる相手背後への走り込みもあらず、33分に伊東純也(ヘンク)が放った鋭いシュートは、GKにはね返された。

この状況を打開するべく、森保

■キリンチャレンジカップ2021
2021年6月11日 19:28
兵庫/ノエビアスタジアム神戸

日本 **1-0** セルビア

48' 伊東 純也 **0-0**
0-1

GK 12 権田 修一	MF 13 橋本 拳人
DF 5 長友 佑都	→HT②川辺 駿
→82'⑩小川 諒也	10 南野 拓実
6 谷口 彰悟	→82'⑥原口 元氣
3 室屋 成	11 古橋 亨梧
→65'⑧山根 視来	→HT⑨オノウ 阿道
2 榑田 直通	7 守田 英正
MF 14 伊東 純也	9 鎌田 大地
→76'⑭浅野 拓磨	

監督は後半からオナイウ阿道(横浜FM)、川辺駿(広島)を投入する。すると、国際Aマッチデビューのオナイウが前線からボールを収めて展開した攻撃からCKを獲得し、48分に均衡を破る。鎌田の蹴ったボールをニアサイドにいた谷口彰悟(川崎F)が頭でコースを変え、ファーサイドのゴールポスト際に詰めた伊東がワンタッチで決めた。

日本代表史上通算1300点目となったこの1点を機に、セルビアも攻撃への意識を高めたが、日本は「守りだけにならない姿勢を示して」「森保監督」追加点を狙う。64分には伊東のパスをオナイウが押し込んだが、オフサイドの判定で得点はならず。一方で、谷口、榑田直通(ニーム)のセンターバックを中心に、危機察知の速い守備でピンチの芽を摘み、得点を許さずタイムアップ。長友佑都(マルセイユ)が「誰が出ても高いレベルを出せる」と胸を張った充実の内容で、東欧の強豪に勝利した。

森保一監督 試合後コメント(要約)

前半は、相手を探りながら攻撃することはできていたので、ハーフタイムにチームとしてゴールに向かう攻撃を素早くやっていたと伝えた。私が言うまでもなく、選手たちがそこを共有してくれた。セルビアにはフィジカルの強さやチームとしての戦術の強固さがあった。そのような相手に球際で戦えるか、技術を発揮できるか。攻撃では相手DFが激しく、厳しく来る中で、突破できる技術を発揮できたか、相手がプレッシャーをかけてきた中でもボールを保持して狙い通りの攻撃ができたかなど、確認することができた。



選手、監督としてJリーグの舞台で戦ってきた森保(左)、ストイコビッチ(右)の両監督。今回は代表チームを率いての対戦となった

6月3日にもキリンチャレンジカップ2021(札幌ドーム/北海道)が開催される予定だったが、対戦相手のジャマイカ代表の10選手が、新型コロナウイルス防疫措置の出発前検査の方法などを理由に、入国期限となっていた5月31日に来日できなかった。日本サッカー協会は、既に到着していた10選手では国際試合が成立しないと判断し、6月1日に中止を発表した。



FIFAワールドカップカタール2022アジア2次予選 兼AFCアジアカップ中国2023予選

8戦全勝で最終予選へ

5月28日に行われたミャンマー戦で2次予選の首位突破、2023年に中国で開催されるAFCアジアカップ出場権を手にしたSAMURAI BLUE（日本代表）は、パナソニック スタジアム 吹田で行われた6月7日のタジキスタン戦、同15日のキルギス戦にも連勝し、8戦全勝で2次予選の全日程を終えた。3月30日のモンゴル戦同様、新型コロナウイルス感染予防対策のため無観客で実施された2試合を振り返る。

※SAMURAI BLUEメンバー、タジキスタン代表来日メンバー、キルギス代表来日メンバー、公式記録は41～42ページに掲載 ※選手の所属は試合時

**今予選初失点も
期待に応えた選手たち**

サムライブルー（日本代表）を率いる森保一監督は5月28日のFIFAワールドカップカタール2022アジア2次予選、ミャンマー戦前に「まずは2次予選をしっかりと突破する」と目前の試合に集中し、「その上で、最終予選を見据えながら課題を克服し、より良い成果を上げられるように戦っていきたい」と抱負を語っていた。

アジア2次予選グループFは、3月30日のモンゴル対日本を終えた後、残る全ての試合が日本で開催された。日本は、その初戦となるミャンマー戦を10-0と大勝し6戦全勝、2試合を残してグ



山根は多くの得点に絡むなど2試合を通して攻守に躍動した



タジキスタン戦で2次予選7試合連続得点を記録した南野。所属クラブの事情でキルギス戦の前にチームから離脱することに

ループ首位での最終予選進出を決めた。タジキスタン、キルギスとの予選2試合については、勝利することはもちろん、次のステップに向けていかに有効活用するかがテーマとなった。ミャンマー戦後には、吉田麻也（サンブドリア）、酒井宏樹（マルセイユ）、遠藤航（シユツトガルト）がオーバーエイジ枠でU-24日本代表に合流し、選手の組み合わせ、新たな戦力の台頭も期待された。

タジキスタンのキックオフで始まった試合は、ワントップの浅野拓磨（所属なし）が猛烈なプレスでチームの意気込みを示す。6分には山根視来（川崎F）のスルーパスから浅野が狙い、こぼれ球を拾った古橋亨梧（神戸）が初先発の期待に応える先制点をマークした。

しかし、そのわずか3分



2年ぶりの代表復帰となった昌子。吉田と富安健洋が不在の中、中谷進之介と共に2試合にフル出場

■FIFAワールドカップカタール2022アジア
2次予選兼AFCアジアカップ中国2023予選
2021年6月7日 19:30
大阪/パナソニックスタジアム 吹田

日本 4-1 タジキスタン

2-1
2-0

6' 古橋 亨梧 9' エフソフ・パンジャンベ
40' 南野 拓実 70' 川辺 駿
51' 橋本 拳人

GK ⑫ 権田 修一 **MF** ⑩ 南野 拓実
④ 昌子 源 →HT⑨鎌田 大地
⑯ 佐々木 翔 ⑪ 古橋 亨梧
→62'⑭小川 諒也 ⑬ 橋本 拳人
⑫ 中谷 進之介 →68'⑰守田 英正
⑭ 山根 視来 ⑱ 川辺 駿
MF ⑧ 原口 元氣 **FW** ⑱ 浅野 拓磨
→HT⑭坂元 達裕 →74'⑥谷口 彰悟

■FIFAワールドカップカタール2022アジア
2次予選兼AFCアジアカップ中国2023予選
2021年6月15日 19:28
大阪/パナソニックスタジアム 吹田

日本 5-1 キルギス

3-1
2-0

27' 31' 33' 45+1'
オナイウ 阿道 ミルラン・ムルザエフ
72' 佐々木 翔 77' 浅野 拓磨

GK ① 川島 永嗣 **MF** ⑧ 原口 元氣
④ 昌子 源 →61'⑩古橋 亨梧
⑯ 小川 諒也 ⑰ 坂元 達裕
⑫ 中谷 進之介 ⑱ 川辺 駿
⑭ 山根 視来 **FW** ⑱ オナイウ 阿道
→76'⑬室屋 成 →68'⑯佐々木 翔
MF ⑦ 守田 英正 ⑱ 浅野 拓磨
→61'⑬橋本 拳人

森保一監督コメント(要約)

タジキスタン戦後

良い形で先制したもののすぐに追い付かれて、この予選での初失点でチームのペースが揺らぎかねない場面だったが、選手たちは粘り強く戦い続けてくれた。失点した後にどういった反発力、継続力を見せられるか。今日の試合で選手たちが失点后、もう一度戦い続けることを確認できた。経験の浅い選手たちは、(攻守の)切り替えも個々の1対1の強度もよくトライしてくれ、意識高く戦ってくれた。全ての要素を高めて、攻撃でも守備でも、もっと個の力を上げることを目指し、この戦いでできたことをさらに伸ばして行ってほしい。

キルギス戦後

今日は日本の選手層の厚さを示そうと、チームのコンセプトと個の良さを思い切り発揮してくれ、素晴らしい。3月から6月に行われた2次予選で、チームコンセプトがかなり浸透したと思う。多くの選手を入れ替えながら試合をしてきたが、誰が出てチーム力を落とさずに戦える自信を、私自身が持つことができた。ただ、今日は失点もあり、細部にわたって相手に自由にプレーさせないようにする部分をもっと徹底しなくてはならない。勝つためのレベルアップを個としてもチームとしても続けて、最終予選で勝つための準備をしていく。

後、左サイドからのクロススをエフソフ・パンジャンベにヘディングで決められ、今予選で初失点を喫す。これがタジキスタン唯一のシュートで、この失点により、GK権田修一(清水)の日本代表歴代最長の連続無失点が9試合でストップした。

同点となり、守備を固める相手に対して日本は辛抱強く突破口を探り、40分に再びリードを奪う。

タジキスタン戦からキリンチャレンジカップ2021のセルビア戦(6月11日)を挟んで迎えた2次予選最終戦。相手はキルギス代表だ。最終予選進出に望みをつなぐ2位確保に向けて勝点3が欲しいキルギスは、堅守の一方で、しつ

高い目標と志を持って100%でチャレンジ

後半には、51分に橋本拳人(ロストフ)、70分に川辺駿(広島)が共に国際Aマッチ初得点を記録して4-1とリードを広げる。坂元達裕(C大阪)も後半からピッチに立って代表デビューを果たし、持ち前のドリブルでアピール。2次予選の連勝を7試合に伸ばした。



キルギス戦で国際Aマッチ初先発を果たしたオナイウはハットトリックを達成するなどポジション確保に向けてアピール

かりとパスをつないで攻める意識も高かった。

ディフェンスラインに5人を並べるキルギスに対して、日本は焦ることなくボールを動かしながらもさまざまな仕掛けを試みる。先制したのは27分。相手のハンドの反則で得たPKをセルビア戦でデビューしたばかりのオナイウ阿道(横浜FM)が決めて国際Aマッチ初得点。その4分後、右サイドを

後半もゴール前を分厚く守るキルギスを粘り強く攻めて、72分にはCKから佐々木翔(広島)がヘディングで決めて国際Aマッチ初得点。その5分後には古橋のスピードあふれる中央突破から浅野が決めて5-1とし、2次予選を8戦全勝、得点46、失点2という

圧倒的な成績で締めくくった。ミャンマー戦からU-24日本代表戦(6月3日)を含めた5試合は、代表チーム定着を目指す選手たちの意欲あふれるプレーによって、タイムアップまで強度を落とすことなく全てが有意義な試合となった。こうした選手たちの姿勢を森保監督も「高い目標と志を持って目の前の試合に100%でチャレンジしてくれ」と称賛した。

突破した川辺のクロスを押し込んだオナイウは、33分にも小川諒也(F.C.東京)の左からのクロスへディングでたたき込み、わずか6分間でハットトリックを達成。勝利の立役者となりながらも、試合後には「(得点以外の)他の部分でもっと質を上げないと」と、課題に向き合うことも忘れなかった。

しかし、ベテランGK川島永嗣(ストラスブール)の「終わらせ方、終わらせ方(が大事)」の声も響く中、日本は前半アディショナルタイムに相手のドリブル突破を阻止して献上したPKで失点。これが、キルギスが放った唯一のシュートだった。

川辺は2試合にフル出場。得点、アシストなど攻撃面で良さを発揮した



オリンピックメンバー発表前 最後の2試合で快勝



東京オリンピックを目前に控えたU-24日本代表は、6月5日にU-24カーナ代表と、同12日にジャマイカ代表と国際親善試合を戦った。カーナ戦は新型コロナウイルス感染予防対策のため無観客で、ジャマイカ戦は4029人の観客を入れて行われた。

※U-24日本代表メンバー、U-24カーナ代表来日メンバー、ジャマイカ代表来日メンバー、公式記録は43ページに掲載 ※選手の所属は試合時

オーバーエイジ選手が 加わり大差で勝利

6月3日に急きょ組まれたサムライブルー（日本代表）との試合を戦ったU-24日本代表は、翌4日、フライイトラブルに見舞われながらも福岡県に移動し、5日にU-24カーナ代表と対戦した。

この試合では、オーバーエイジの吉田麻也（サンブドリア）、酒井宏樹（マルセイユ）、遠藤航（シュツトガルト）の3人と、このチームでのプレーは約3年ぶりとなる富安健洋（ポロニーヤ）が先発メンバーとしてピッチに立った。



3度目のオリンピック出場を目指す、オーバーエイジの吉田がキャプテンマークを着けた

のは日本だった。4-2-3-1の布陣のトップ下に入った久保建英（ヘタフェ）と右サイドハーフの堂安律（ビーレフェルト）がポジジョンを変えながら、コンビネーションを駆使して相手ゴールに迫る。

16分の先制点は、堂安のパスから久保がシュートを放ち、クロスバーに当たってはね返ったところを堂安がボレーシュートで決めたものだ。32分の追加点も堂安のパスを受けた久保が上田綺世（鹿島）とのパス交換から決めた。

「理屈や戦術だけではうまくいかないで、感じたままにタケ（久保）とプレーするのが、互いの良さを引き出し合える」

連係に関して堂安がそう言うのと、久保も同じことを語った。

「正直、感覚。波長も近いし、同じレフティーで似た特徴の選手がいるとすごくやりやすい」

もつとも、彼らがのびのびとプレーできたのは、守備の安定によるところも大きい。

吉田と富安がディフェンスラインを積極的に押し上げ、正確なビルドアップによって攻守両面で貢献すれば、中盤では遠藤がボールを回収し、前線まで顔を出す。右サイドでは酒井が久保や堂安をサポートしながら相手

陣深くまで駆け上がった。

「後ろが安定していて、しっかりとボールを奪うことができるので、前線の選手は相手の守備が整う前に早い攻撃を狙いやすかった」と、相馬勇紀（名古屋）は振り返った。相手のオウンゴールで3点目を奪った日本は、後半に入っても攻撃の手を緩めない。48分に堂安のスルーパスから相馬が決めると、56分には中山雄太（スヴォオレ）のクロスに上田が頭で合わせて5点目。89分には三笥薫（川崎F）にもゴールが生まれ、6-0で勝利した。

大差がついたが、横内昭展監督は「決して悪い相手ではなかった。自分たちがやれることをやった結果だと思う」と胸を張った。



ポジジョンを入れ替えながら互いの強みを発揮した堂安（右）と久保。共に2試合連続得点と存在感を示した



U-24 日本代表

メンバー入りに向けて最後のアピール

1週間後の6月12日にはジャマイカ代表との試合が愛知県で行われた。

ガーナ戦から先発4人を入れ替えたこの試合で口火を切ったのは久保だった。

32分、右サイドでスローインを受けてドリブルからカットイン。左足を振り抜くと、ボールは相手選手とGKの股下を抜けてゴールネットを揺らした。

さらに42分には、ペナルティーエリアの角から遠藤が決めた。見逃せないのは、遠藤の背後を駆け抜けて相手DFの注意を引いた左サイドバックの旗手怜央（川崎F）の動きだ。

「あそこで大外を走れば、ボールを



2試合とも先発フル出場した遠藤（右）と田中。攻守にチームをけん引し、ジャマイカ戦では田中のパスから遠藤がミドルシュートを決めた

GKは複数の選手が激しいポジション争いをする中、谷晃生（湘南）が2試合に出場した



持った選手の選択肢を多くすることができる」と旗手は話した。

57分には三苫のスルーパスから上田が決めて3-0。60分に

田が決めて3-0。60分になると、相馬と橋岡大樹（シントトロイデン）を投入してフォーメーションを4-2-3-1から3-4-2-1へと変更し、オフショ

ンの確認も行った。その直後の64分、抜け出した相馬からのパスをゴール正面で受けた堂安がしっかりと決めて4点目。勝利を決定付けた。

65分には久保に代わって食野亮太郎（リオ・アヴェ）、75分には堂安に代わって三好康児（アントワープ）が送り出された。

2人は最後のアピールとばかりに、積極的にゴールに迫った。

その後、スコアは動かなかったが、日本は最後まで攻撃の姿勢を失わず、4-0で試合を終えた。

約2週間に及ぶ活動を終え、横内監督は「長い活動だったが、みんながチームのことを考えて行動してくれた。この中にはオリンピックのメンバーに選ばれる選手とそうでない選手がいる。選ばれなかったとしてもサムライブルーを目指して頑張ってほしい。選ばれた選手は、落選した選手の思いを胸に戦ってほしい」と選手たちにメッセージを送った。

22日のメンバー発表を経て、7月12日にはU-24ホンジュラス代表と、同日にはU-24スペイン代表と戦い、その後いよいよオリンピック本番に臨む。



GK同様、FWのポジション争いも激しい中、上田が2試合連続得点と結果を出した

横内昭展監督コメント（要約）

U-24ガーナ代表後

全員が集中して試合に入り、高い位置からボールを取りにいき、守備陣もしっかりとボールを奪って、攻撃にうまくつなげられたと思う。オーバーエイジの選手に関しては、（遠藤）航だけSAMURAI BLUE（日本代表）との試合にいらしたのが、初めから今日の試合に照準を合わせていたので、3人もフル出場してもらった。久保と堂安は、流れの中でポジションを入れ替えたらそのままでもいいと伝えているので、彼らの判断で流動的にプレーしたと思う。今日は全体的に少しボールを失う場面があったので、次の試合では確実にマイボールにできるように改善したい。

ジャマイカ戦後

オリンピックに向けたメンバーの骨格はある程度見えてきた。この後、森保一監督やコーチングスタッフともう1回見直して考えたい。オーバーエイジの選手たちは、合宿を通じて勝利のために何をしなければならぬかを言動で表してくれた。それに影響されて、若い選手たちも自分で考えて行動できるようになってきたと思う。3バックは今回の合宿ではやっていなかったが、ハーフタイムに「試すかもしれない」と伝えていた。守備に人数をかけてしっかり守る場面でも、攻撃の人数を増やして点を取りに行く場面でも有効なので、ここで試せてよかった。

■国際親善試合
2021年6月12日 13:35
愛知 / 豊田スタジアム

U-24日本代表 4-0 ジャマイカ代表

32' 久保 建英
42' 遠藤 航
57' 上田 綺世
64' 堂安 律

GK 23 谷 晃生 → HT 24 鈴木 彩艶
DF 22 吉田 麻也
19 酒井 宏樹
5 町田 浩樹 → HT 28 瀨古 歩夢
28 旗手 怜央 → 60' 橋岡 大樹
MF 6 遠藤 航
7 三苫 薫 → 60' 相馬 勇紀
10 堂安 律
17 75' 三好 康児
11 田中 碧
11 久保 建英 → 65' 食野 亮太郎
FW 25 前田 大然 → HT 26 上田 綺世

■国際親善試合
2021年6月5日 19:28
福岡 / ベスト電器スタジアム

U-24日本代表 6-0 U-24ガーナ代表

16' 堂安 律
32' 久保 建英
45' オウンゴール
48' 相馬 勇紀

56' 上田 綺世
89' 三苫 薫

GK 23 谷 晃生
DF 22 吉田 麻也
19 酒井 宏樹
16 富安 健洋 → 58' 板倉 滉
MF 6 遠藤 航
3 中山 雄太
14 相馬 勇紀 → 58' 三苫 薫
MF 10 堂安 律 → 67' 食野 亮太郎
17 田中 碧
11 久保 建英 → 78' 旗手 怜央
FW 26 上田 綺世 → 67' 前田 大然

なでしこジャパン(日本女子代表)は6月10日、ウクライナ女子代表と国際親善試合を戦った。国際Aマッチ初出場の塩越柚歩が2ゴールを挙げるなど8得点で快勝した。

※なでしこジャパンメンバーおよびウクライナ女子代表メンバー、公式記録は45ページに掲載



関係のある攻撃から 8得点で快勝

なでしこジャパンデビュー戦の塩越は2得点1アシストの活躍

チームは6月7日に集合し、翌日から広島県内でトレーニングを開始した。

8日にチームの活動に合流した田中美南(バイヤー・レバークーゼン)を含め、海外でプレーする選手は7人。招集された23人にとっては東京オリンピックに向けたアピールの場になると同時に、チームの関係を深める一戦となった。

初対戦となったウクライナとの試合、右サイドで先発出場した塩越柚歩(浦和)が代表デビューを果たした。

日本は前半から主導権を握る。5分、岩淵真奈(アーセナル)が相手陣内でボールを奪ってゴール前へ、これを菅澤優衣香(浦和)がスルーし、詰めていた塩越がゴールネットを揺らした。塩越の国際A



DF登録ながらFWとしても実績のある宝田。代表初ゴールはCKからの鮮やかなボレーシュートだった

マッチ初ゴールを皮切りに日本は得点を重ねていく。前線で攻撃をリードする岩淵と長谷川唯(ACミラン)の連携もスムーズで、両サイド、そしてセットプレーからウクライナ守備を崩していった。

30分には中島依美(神戸)のクロスから岩淵がボレーシュートで加点。38分には、中島が蹴った右CKに宝田沙織(ワシントン・スピリット)が右足で合わせて、こちらも代表初ゴールを挙げた。FWでもプレーする宝田だが「センターバックで出場しても得点は取りたいと思っていた。試合前にはセットプレーで得点を取ろうと話していた」と、自身のプレーを振り返った。

前半終了前に自身2点目を挙げた塩越は、後半に入っても岩淵の2点目をアシストするなど躍動。「初出場でいろいろなことを感じた。周りの選手とのコンビネーション、1対1の球際など足りな

い部分も多い」と課題を口にしつつ、60分間のプレーで存在感を示した。

後半、中盤の高い位置に入った杉田妃和(神戸)が得意の左足で追加点。この日は気温33度を越す暑さだったが、日本は最後まで集中を切らさない。相手選手のハンドで得たPKを田中が決め、遠藤純(東京NB)の突破から初木結花(OLレインFC)が得点を挙げて、8-0のゴールラッシュを締めくくった。2得点の岩淵は「8点取れたことはよかったが、人数はいるけどボールを奪い切れない場面があり、攻撃面でも満足していない。もう一つ二つレベルを上げないと」と、オリンピック本大会に向けてさらなる成長を求めた。

なお、この試合は、東京オリンピックピックにアポイントされている山下良美主審、坊間真琴副審、手代木直美副審が担当し、なでしこジャパンと同様オリンピックに向けて関係を高めた。

高倉麻子監督 試合後コメント(要約)

欧州の選手の体格の大きさや間合いの違いで序盤は自分たちのエンジンがかかるのが遅く、何度かピンチを招いてしまった。しかし、選手たちが修正し、徐々に自分たちのペースに持っていった。全体としてはうまくゲームをコントロールしてくれたと思う。決して簡単ではなかったと思うが、相手が引く中でいかに点を取るか、ということを選択間で話しながら工夫し、多くの選手が点に絡めたことは収穫だった。

中島は攻守に安定したプレーを発揮。岩淵と宝田の得点をアシストした



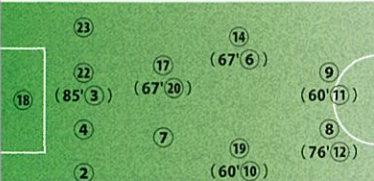
国際親善試合

2021年6月10日 15:15
広島県/エディオンスタジアム広島

日本 **8-0** ウクライナ

5' 41' 塩越柚歩
30' 58' 岩淵真奈
38' 宝田沙織

89' 田中美南
90' 初木結花



GK 18 山下也也加	MF 19 塩越柚歩
DF 4 熊谷紗希	→ 60' 10 初木結花
2 清水梨紗	23 北村菜々美
22 宝田沙織	FW 9 菅澤優衣香
→ 85' 3 土光真代	→ 60' 11 田中美南
MF 7 中島依美	8 岩淵真奈
14 長谷川唯	→ 76' 12 遠藤純
→ 67' 6 杉田妃和	
17 三浦成美	
→ 67' 20 林穂之香	

6月13日、なでしこジャパン（日本女子代表）はメキシコ女子代表とのMS&ADカップ2021に臨み、東京オリンピックの登録メンバー発表前最後の試合を5-1で締めくくった。

※なでしこジャパンメンバーおよびメキシコ女子代表メンバー、公式記録は45ページに掲載



今年初失点も 個々にアピールして2連勝

チームは中2日で広島県から栃木県に移動し、6月13日のMS&ADカップ2021に向けて調整した。

日本はウクライナ戦の先発メンバーから6人を入れ替え、南萌華（浦和）、宮川麻都（東京NB）のほか、ウクライナ戦で途中出場した田中美南（バイヤー・レバークーゼン）

と初木結花（OLレインFC）も先発に名を連ねた。約1週間前に来日したメキシコはコンディションも良い様子で、日本にとってはオリンピックのグループステージで対戦するチリ女子代表を見据えた格好のシミュレーションとなった。日本は28分、メキシコにパスカットされてジャクリーン・オバジェにシュー

トを許したが、これはGK池田咲紀子（浦和）の好セーブで阻止。ピンチをしのぎ、流れを引き寄せる日本は35分、林穂之香（A-Kフットボール）のパスを受けた岩淵真奈（アセナル）がドリブルで相手をかかわして、2試合連続ゴールを決める。追加点を狙う日本だったが前半はこの1点にとどまった。

後半開始直後、岩淵の左クロスから田中が追加点を挙げて2-0とリードを広げる。ところがその3分後、日本は左サイドでボールを奪われると、メキシコの速攻から失点を喫してしまう。今年初の失点について、キャプテンの熊谷紗希（FCバイエルン・ミュンヘン）は試合後「課題だったクロスの対応からの失点。まずはこういうシーンをいかに少なくできるかが大切。話し合いながら修正したい」と話した。

失点にも日本は下を向くことなくプレーを続ける。54分、岩淵のク

ロスからゴール前に走り込んだ初木がゴールネットを揺らして3-1とした。初木のこの4試合連続得点は日本女子代表の歴代トップタイ記録。どれも似た形で難しいゴールではなかったが、簡単なゴールでもなかった。記録は誇りだし、オリンピックメンバー発表前に得点できたこともプラス（初木）と手応えを得た様子だった。その後も、ウクライナ戦と同様、日本はピッチに送られた選手が臆することなく自身の特長を發揮してプレー。18歳の木下桃香（東京NB）は国際アマチュア初ゴールを決め、試合終了間際には遠藤が同じく初ゴールをマークするなど、多くの選手が活躍し、オリンピック登録メンバー発表前の最後の1戦を5-1で終えた。

高倉麻子監督 試合後コメント（要約）

ウクライナ戦から中2日ということで、オリンピックを想定して移動と準備をシミュレーションしながら試合に臨んだ。ウクライナ戦の反省をもとに、守備では相手を追い込んでボールを奪い切ることを、攻撃では効果的にボールを動かして長短のパスを使って攻めることを目指し、いいトライができた。現在の選手の疲労度を考えても（オリンピックは）非常にタフな戦いになる。オリンピックでどういう戦いをするべきかも精査しながら大会登録メンバーを選考したい。

遠藤は、相手DFとGKの間を狙った中島のロングフィードに抜け出して、国際アマチュア初得点をマーク



4月8日に国際アマチュアデビューを果たした木下、遠藤のゴール前への折り返しから落ち着いて代表初ゴールを決めた

メキシコ戦後の3日間、チームは引き続き栃木県内でトレーニングを実施。2試合で出た課題の確認と修正、連係を高めるなど、チームのさらなるレベルアップに励んだ。

MS&ADカップ2021
2021年6月13日 14:02
栃木県 / カンセキスタジアムとちぎ

日本	5-1	メキシコ
	1-0 4-1	

35 岩淵真奈
46 田中美南
54 初木結花
74 木下桃香
88 遠藤純

49 アリソン・ゴンザレス

GK ① 池田咲紀子 DF ④ 熊谷紗希 ② 清水梨紗 ⑩ 宮川麻都 → 81' ⑤ 高橋はな ⑤ 南萌華 MF ⑦ 中島依美 ⑭ 長谷川唯 → 81' ⑬ 三浦成美	MF ⑫ 林穂之香 → 71' ⑥ 杉田妃和 FW ⑧ 岩淵真奈 → 71' ⑫ 遠藤純 ⑪ 田中美南 → 58' ⑨ 塩越柚歩 ⑩ 初木結花 → 58' ⑬ 木下桃香
--	---

20/東京)

日本サッカー協会（JFA）は6月18日と22日、オンライン記者会見を開催し、第32回オリンピック競技大会（2020/東京）に出場するU-24日本代表、なでしこジャパン（日本女子代表）の登録メンバーとバックアップメンバー4人を発表した（どちらもYouTube公式チャンネル「JFATV」でライブ配信）。その後、国際サッカー連盟から通知があり、今大会に限って22人の中から試合ごとに18人を選出することとなった。

U-24日本代表メンバー ※6月22日発表時点 / *1: オーバーエイジ、*2: バックアップメンバーとして発表

【スタッフ】



監督……………森保一（JFAナショナルコーチングスタッフ）
 コーチ……………横内昭展（JFAナショナルコーチングスタッフ）
 コーチ……………栗原志（JFAナショナルコーチングスタッフ）
 GKコーチ……………川口能活（JFAナショナルコーチングスタッフ）
 フィジカルコーチ……………松本良一（JFAナショナルコーチングスタッフ）
 フィジカルコーチ……………矢野由治（JFAナショナルコーチングスタッフ）

GK 1
大迫敬介
 OSAKO Keisuke
 サンフレッチェ広島
 1999年7月28日 187cm / 86kg

GK 12
谷晃生
 TANI Kosei
 湘南ベルマーレ
 2000年11月22日 190cm / 84kg

DF 5
吉田麻也 *1
 YOSHIDA Maya
 サンプドリア（イタリア）
 1988年8月24日 189cm / 87kg

DF 2
酒井宏樹 *1
 SAKAI Hiroki
 浦和レッズ
 1990年4月12日 185cm / 78kg

DF 4
板倉滉
 ITAKURA Kou
 FCフローニンゲン（オランダ）
 1997年1月27日 186cm / 75kg

DF 3
中山雄太
 NAKAYAMA Yuta
 PECズヴォレ（オランダ）
 1997年2月16日 181cm / 76kg

DF 13
旗手怜央
 HATATE Reo
 川崎フロンターレ
 1997年11月21日 171cm / 70kg

DF 14
富安健洋
 TOMIYASU Takehiro
 ボローニャFC（イタリア）
 1998年11月5日 187cm / 84kg

DF 15
橋岡大樹
 HASHIOKA Daiki
 シントトロイデンVV（ベルギー）
 1999年5月17日 184cm / 80kg

MF 6
遠藤航 *1
 ENDO Wataru
 VfBシュトゥットガルト（ドイツ）
 1993年2月9日 178cm / 76kg

MF 16
相馬勇紀
 SOMA Yuki
 名古屋グランパス
 1997年2月25日 166cm / 69kg

MF 8
三好康児
 MIYOSHI Koji
 ロイヤル・アントワープFC（ベルギー）
 1997年3月26日 167cm / 64kg

MF 11
三笥薫
 MITOMA Kaoru
 川崎フロンターレ
 1997年5月20日 178cm / 71kg

MF 10
堂安律
 DOAN Ritsu
 PSVアイントホーフェン（オランダ）
 1998年6月16日 172cm / 70kg

MF 17
田中碧
 TANAKA Ao
 川崎フロンターレ
 1998年9月10日 180cm / 74kg

MF 7
久保建英
 KUBO Takefusa
 レアル・マドリード（ESP）
 2001年6月4日 173cm / 67kg

FW 9
前田大然
 MAEDA Daizen
 横浜F・マリノス
 1997年10月20日 173cm / 67kg

FW 18
上田綺世
 UEDA Ayase
 鹿島アントラーズ
 1998年8月28日 182cm / 76kg

GK 22
鈴木彩艶 *2
 SUZUKI Zion
 浦和レッズ
 2002年8月21日 190cm / 91kg

DF 20
町田浩樹 *2
 MACHIDA Koki
 鹿島アントラーズ
 1997年8月25日 190cm / 80kg

DF 21
瀬古歩夢 *2
 SEKO Ayumu
 セレッソ大阪
 2000年6月7日 185cm / 72kg

FW 19
林大地 *2
 HAYASHI Daichi
 サガン鳥栖
 1997年5月23日 178cm / 74kg

スケジュール

■キリンチャレンジカップ2021

7月12日
 vs U-24ホンジュラス代表（ヨドコウ桜スタジアム）
 7月17日
 vs U-24スペイン代表（ノエビアスタジアム神戸）

■第32回オリンピック競技大会（2020/東京）

7月22日 第1戦 vs 南アフリカ（東京スタジアム）
 7月25日 第2戦 vs メキシコ（埼玉スタジアム2002）
 7月28日 第3戦 vs フランス（横浜国際総合競技場）
 7月31日 準々決勝（茨城カシマスタジアム / 横浜国際総合競技場）
 8月3日 準決勝（茨城カシマスタジアム / 埼玉スタジアム2002）
 8月6日 3位決定戦（埼玉スタジアム2002）
 8月7日 決勝（横浜国際総合競技場）





第32回オリンピック競技大会(2020)登録メンバー決定

■なでしこジャパン(日本女子代表)メンバー ※6月18日発表時点 / *バックアップメンバーとして発表

【スタッフ】



監督……………高倉麻子(JFAナショナルコーチングスタッフ)
 コーチ……………大部由美(JFAショナルコーチングスタッフ)
 コーチ……………今泉守正(JFAナショナルコーチングスタッフ)
 GKコーチ……………大橋昭好(JFAナショナルコーチングスタッフ)
 フィジカルコーチ………広瀬統一(JFAナショナルコーチングスタッフ/早稲田大学)

DF 4

熊谷紗希
KUMAGAI Saki

FCバイエルン・ミュンヘン(ドイツ)
1990年10月17日 173cm / 63kg
国際Aマッチ114試合出場 / 1得点

DF 2

清水梨紗
SHIMIZU Risa

日テレ・東京ヴェルディベレーザ
1996年6月15日 160cm / 47kg
国際Aマッチ37試合出場 / 1得点

GK 1

池田咲紀子
IKEDA Sakiko

三菱重工浦和レッズレディース
1992年9月8日 168cm / 60kg
国際Aマッチ18試合出場 / 20失点

GK 18

山下杏也加
YAMASHITA Ayaka

INAC神戸レオネッサ
1995年9月29日 170cm / 67kg
国際Aマッチ40試合出場 / 44失点

DF 16

宮川麻都
MIYAGAWA Asato

日テレ・東京ヴェルディベレーザ
1998年2月24日 160cm / 52kg
国際Aマッチ14試合出場 / 0得点

DF 5

南 萌華
MINAMI Moeka

三菱重工浦和レッズレディース
1998年12月7日 172cm / 62kg
国際Aマッチ15試合出場 / 1得点

DF 17

北村菜々美
KITAMURA Nanami

日テレ・東京ヴェルディベレーザ
1999年11月25日 162cm / 49kg
国際Aマッチ3試合出場 / 0得点

DF 3

宝田沙織
TAKARADA Saori

ワシントン・スピリット(アメリカ)
1999年12月27日 170cm / 59kg
国際Aマッチ7試合出場 / 1得点

MF 7

中島依美
NAKAJIMA Emi

INAC神戸レオネッサ
1990年9月27日 158cm / 50kg
国際Aマッチ85試合出場 / 14得点

MF 14

長谷川 唯
HASEGAWAYui

ACミラン(イタリア)
1997年1月29日 157cm / 47kg
国際Aマッチ46試合出場 / 11得点

MF 6

杉田妃和
SUGITA Hina

INAC神戸レオネッサ
1997年1月31日 162cm / 52kg
国際Aマッチ23試合出場 / 2得点

MF 8

三浦成美
MIURA Narumi

日テレ・東京ヴェルディベレーザ
1997年7月3日 156cm / 49kg
国際Aマッチ24試合出場 / 1得点

MF 13

塩越柚歩
SHIOKOSHI Yuzuho

三菱重工浦和レッズレディース
1997年11月1日 166cm / 54kg
国際Aマッチ3試合出場 / 2得点

MF 12

遠藤 純
ENDO Jun

日テレ・東京ヴェルディベレーザ
2000年5月24日 167cm / 55kg
国際Aマッチ17試合出場 / 1得点

FW 9

菅澤優衣香
SUGASAWA Yuika

三菱重工浦和レッズレディース
1990年10月5日 169cm / 62kg
国際Aマッチ75試合出場 / 24得点

FW 10

岩淵真奈
IWABUCHI Mana

アーセナル(イングランド)
1993年3月18日 156cm / 54kg
国際Aマッチ77試合出場 / 35得点

FW 11

田中美南
TANAKA Mina

INAC神戸レオネッサ
1994年4月28日 164cm / 57kg
国際Aマッチ47試合出場 / 23得点

FW 15

初木結花
MOMIKI Yuka

OLレインFC(アメリカ)
1996年4月9日 153cm / 53kg
国際Aマッチ38試合出場 / 14得点

GK 22

平尾知佳*
HIRAO Chika

アルビレックス新潟レディース
1996年12月31日 173cm / 65kg
国際Aマッチ2試合出場 / 4失点

DF 19

三宅史織*
MIYAKE Shiori

INAC神戸レオネッサ
1995年10月13日 165cm / 53kg
国際Aマッチ25試合出場 / 0得点

MF 20

林 穂之香*
HAYASHI Honoka

AIKフットボール(スウェーデン)
1998年5月19日 157cm / 52kg
国際Aマッチ6試合出場 / 0得点

MF 21

木下桃香*
KINOSHITA Momoka

日テレ・東京ヴェルディベレーザ
2003年3月2日 163cm / 51kg
国際Aマッチ4試合出場 / 1得点

スケジュール

■MS&ADカップ2021

7月14日
vs オーストラリア女子代表
(サンガスタジアムby KYOCERA)

■第32回オリンピック競技大会(2020/東京)

7月21日 第1戦 vs カナダ(札幌ドーム)
 7月24日 第2戦 vs 英国(札幌ドーム)
 7月27日 第3戦 vs チリ(宮城スタジアム)
 7月30日 準々決勝(茨城カシマスタジアム/埼玉スタジアム2002/宮城スタジアム)
 8月2日 準決勝(横浜国際総合競技場/茨城カシマスタジアム)
 8月5日 3位決定戦(茨城カシマスタジアム)
 8月6日 決勝(オリンピックスタジアム[国立競技場])



[特別企画]

5人制サッカー日本代表の挑戦



© JBFA/H.Wanibe

チームの力を結集させ、初のパラリンピック出場へ

～高田敏志監督インタビュー～

8月24日に開幕する東京パラリンピックに出場する5人制サッカー(ブラインドサッカー)日本代表。就任以来、高田敏志監督は、世界の強豪国と渡り合うためにさまざまな強化プランを企てて実行してきた。世界のサッカーのデータを集めて分析し、そのメソッドを取り入れるのが高田流。チームの特徴や競技の見どころも併せて聞いた。

○オンライン取材日：2021年6月22日



**日本に不足していた
得点を取るバリエーション**

——2013年から5人制サッカー(ブラインドサッカー)日本代表のGKコーチを経験された後、2015年9月に監督に就任しました。当時の代表チームの状況はいかがでしたか。

る側も「引け」や「下がれ」という言葉は使われないように心がけて、選手が「相手に抜かれても、点を取られてもいいから前に出るんだ」と意識できるような雰囲気をつくるようにしました。

——そこから試合の機会が格段に増えましたね。

高田 目標にしていたリオパラリンピック出場を逃し、自国開催の東京パラリンピックに向けて始動するタイミングでした。当時の日本代表は得点力がなく、なかなか勝つことができませんでした。攻撃といえば守ってカウンターというパターンしかなく、グループで組織的に得点を取れないチームでした。

高田 それまでの日本には見られなかった、ボールを奪ったらドリブルで縦に突破するというような攻撃面におけるサッカーの醍醐味を感じられるようになりました。選手たちもすごく生き生きとしていましたから。同時に、攻めるためには守備でも走り続けられる運動量が必要という課題が明確になりました。

——状況を踏まえてまず着手されたことは？

高田 東京パラリンピックをイメージし、どんなチームになれば勝てるかを想像しました。そこで、とにかく戦い方を変えようという考えに行き着いたんです。

チームの重心を後ろに置くのではなく、前からボールを取りに行つてアグレッシブにサッカーを展開していく。そのために、指示す

——就任から約1年が経った頃、チーム体制を再構築されました。現在、20人のコーチ・スタッフがいますが、各分野からプロフェッショナルな人材を招へいた意図を教えてください。

高田 選手を取り巻く環境はさまざまです。アシリート雇用に近い形で競技優先の生活を送る選手もいれば、朝からフルタイムで働いている選手もいます。両者

■5人制サッカー（ブラインドサッカー） 試合中はお静かに、シュートが決まったら大きな歓声を！

5人制サッカーは、いわゆる「見えないサッカー」。ゴールキーパー以外が全盲の選手で、音の出るボールを用いてプレーする。4人のフィールドプレーヤー（FP）はアイマスクを着用、ゴールキーパー（GK）は晴眼者もしくは弱視者が務める。5人のプレーヤーのほか、相手チームのゴール裏にはガイド（コーラー）、自陣サイドフェンス外側に監督がいる。

視覚以外の感覚を研ぎ澄ませて行うスポーツであり、ボールを扱う技術はもちろん、視覚障がい者と晴眼者が力を合わせてプレーすることから、5人制サッカーでは「音」と「声」によるコミュニケーションが極めて重要になる。

試合中、選手たちは監督やGK、ガイドの指示、味方や相手の声、走る足音、ボールの音など、競技中における「音」に集中しているため、5人制サッカーを観

戦する際は、静かに観ることが応援の鉄則。プレーが止まったときとゴールが決まったときには大きな声援と拍手を！

※ブラインドサッカー（ブラサカ）は、国内での普及を目指して日本ブラインドサッカー協会が名付けたもの。パラリンピックでは「5人制サッカー／Football 5-a-side」という競技名で、海外では「Blind Football」とも呼ばれている。

●5人制サッカー（ブラインドサッカー）のルール
https://www.b-soccer.jp/blind_soccer/rule



が合宿に参加する際、コンディションに差が生まれるのは当然です。ですから、例えば、仕事と練習で疲れの溜まっている選手は、週末の練習の集合時間を遅らせるなど個々の状態に応じたスケジュールを組むようにしています。当然、普段の食事や睡眠もパフォーマンスに影響しますし、時にはプライベートの悩みを聞くことも必要です。選手一人一人のバックグラウンドを知り、健康状態をデータなどで可視化するなどオファピッチの管理をしなければ、どんなに良い練習をしても世界のレベルアップに取り残されるだけ。こまやかな管理をするためにも専門性を持ったコーチが必要だと日本ブラインドサッカー協会（JBFA）に説明し、新たな体制をつくりました。

——参考にしたチームなどはあるのでしょうか。

高田 5人制サッカーの強豪国がやっていることをまねても、日本は太刀打ちできません。であれば、僕たちはサッカーの最高峰に学ぼうと考えました。具体的には、ヨーロッパのプロチームが取り組んでいるデータを活用した分析です。実際にUEFAチャンピオンズリーグに出場するような名門クラブを視察して、どのような管理をしているか学ばせてもらいました。スペインにも行きました。バイエルン・ミュンヘンの戦術が変わったときにはドイツにも行きましたし、サムライブルー（日本代表）などサッカー日本代表のコーチングスタッフからも、2018 FIFAワールドカップロシアでどうしてコンディションニングがうまくいったのかを聞いたりもしました。

「メダル獲得」のために取り入れたもの

——コーチそれぞれの役割を具体的に教えてください。

高田 代表チームの体制をつくるときに最もこだわったのが、目の見えない選手に分かりやすく説明できる言語技術です。私が監督に就任した当時から関わっている中川英治コーチは戦術・技術担当で、ゴール裏で選手に指示を出すガイドも務めています。ピッチ上で選手の位置を調整するにしても、「あとちょっと」ではなく「あと1m」「50cm前」など詳細に伝えなければ選手は正確な位置を把握できません。これは



今年5月～6月に開催されたSanten IBSA ブラインドサッカーワールドグランプリ2021 in 品川では決勝で強豪アルゼンチンと対戦

僕がGKコーチのときに学んだこと。今は緻密なサッカーを追求しているので、言語化がますます重要になっています。フィジカル担当の中野崇コーチに初めて会ったときに5人制サッカーで世界トップレベルの選手のプレーを見せたら、その選手の体の使い方にも感銘して、これを日本の選手にも落とし込みたいと話していた頼もしさを感じました。

——メデイカルスタッフについてはどうですか。

高田 常に選手のコンディションを把握しておきたいので、ドクターとトレーナーに連携してもらっていて、代表の練習時はだいたい3人態勢になるようにしています。チームドクターはサッカーに明るい人で、継続してチームを見てもらえるよう、横浜市立大の医局と契約しました。メインの川端佑介ドクターが来られないときは金井研三ドクターに来てもらうなど手厚くサポートしてもらっています。

——「ボイストレーナー」という役割も画期的です。

高田 ファウルの累積で「第2PK」を与えるルールがあるので、過去の大会を分析すると大事な場面で第2PKを決められて負けることがありました。特に日本の選手は声小さいのか「ノーポイ（※1）」というファウルが多いんです。それをなくそうと考えたときに、新生剛士トレーナーと相談し、相手にぶつけるような声の出し方をトレーニングしてもらったことで、ウォーミングアップにボイストレーニングを組み込むことで、GKの声が枯れにくくなるなど成果も出ています。

※1 守備側の選手がボールを持った相手に向かうとき、必ず「ポイ」と声を発しなくてはならないルール。声を発しない場合はファウルになる。

——コロナ禍でパラリンピックの

延期が決まり、選手にとってモチベーション維持が難しい時期に活躍したスタッフがいますね。

高田 まず、メンタルトレーナー

の後藤史トトレーナーが活躍しましたね。なでしこリーグ出身の彼女は選手からの信頼も厚く、自粛期間中も選手全員との電話やラインにかなり時間を費やしてくれました。一人暮らしの選手もいれば、家族と暮らす選手もいて、置かれている状況や何に困っているかも異なります。僕自身も川村怜キャプテンらに電話をするにはありますが、選手は監督には話しにくいこともあるはずですから。

管理栄養士の奥村由貴さんも

東京パラリンピック5人制サッカー 予選プール組み合わせ

6月14日、東京2020パラリンピック競技大会の5人制サッカー競技の組み合わせ抽選会が東京2020組織委員会のオフィスで実施された。これは東京2020組織委員会と国際視覚障害者スポーツ連盟 (IBSA) によって行われ、抽選会の様子はYouTubeでも配信された。組み合わせ結果は下記の通り (試合スケジュールは決まり次第発表)。

【組み合わせ結果】

プールA: 日本、ブラジル、フランス、中国
プールB: モロッコ、アルゼンチン、スペイン、タイ

時に選手の家族と会話しながら活躍しました。総勢20人のコーチとスタッフが選手の健康管理をしながら、それぞれの専門分野で力を発揮してくれています。

強豪と肩を並べる 5人制サッカー日本代表に 注目!

注目!

——パラリンピックについて、出場8チームを2プールに分け、日本はプールAに割り当てられました。そこから上位2チームが決勝ラウンドに進出します。対戦するブラジル、フランス、中国の印象を教えてください。

高田 誰もが認める絶対王者のブラジルは、これまでブライントサッカーが実施されたパラリンピック全てで金メダルを獲得しています。日本はブラジルと18年に対戦するのが最後ですので、難しい試合になることは間違いありません。ですが、他の2カ国にプレッシャーをかけるためにも引き分け以上を狙います。ヨーロッパ王者のフランスは、フレデリック・ヴィルルというドリブラーに要注目ですが、6月のワールドグランプリでは1-0で勝利している相手です。大柄で足が長く伸びて

くるのでリズムを崩されがちですが、運動量では日本が勝ります。

そして、強豪の中国はドリブルに長けており、長期合宿を行って決戦に備えているという話もあるほどボールに包まれています。直近の対戦は19年のアジア選手権で2-2の引き分けでしたので決着をつけたいところです。互いに負けると決勝ラウンドに進めないの、中国と日本は決勝ラウンドと同等の強度の高いゲームになると思います。

——パラリンピックではどんなプレーに注目してほしいですか。

高田 日本の選手はこれまで取り組んできたトレーニングの甲斐もあって、とにかく全員が動き回ることが出来ます。運動量で勝る日本が相手に時間とスペースを与えず、できるだけ高い位置でボールを奪ってゴールを目指します。GKを起点に攻撃することもできますし、速攻、カウンター、ビルドアップといろいろなパターンがあります。良い守りをした後、良い攻撃に素早く切り替わるところにぜひ注目していただきたいと思います。

——サッカーファミリーにメッ

セージをお願いします。

高田 昨年6月、東京都内に国内初の5人制サッカー専用グラウンドができ、最高の環境で練習できるようになりました(※2)。諦めずにチャレンジを続けたい結果です。パラリンピックでは、JFAが支援する七つの障がい者サッカー団体の代表として責任を持って戦います。応援よろしくお願いします。

※2 専用グラウンド「MARUIプラサカ!パーク」。今年4月からパラリンピック競技ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設として、5人制サッカー(ブライントサッカー)の強化拠点を指定。



新たな施策を取り入れながら着実にチーム力を高めてきた。強化の集大成を東京パラリンピックにぶつける

5人制サッカー日本代表選手が決定!

日本ブラインドサッカー協会は6月29日、東京パラリンピックにおける5人制サッカー日本代表候補選手を日本パラリンピック委員会 (JPC) に推薦。7月2日、JPCより発表があり、推薦した選手10名が正式に日本代表選手団として決定した。

ポジション	名前	所属チーム
FP	川村 怜(かわむら りょう)	パバレシアル品川
FP	黒田 智成(くろだ ともなり)	たまハッサーズ
FP	佐々木ロベルト泉(ささき ろべるといずみ)	パバレシアル品川
FP	田中 章仁(たなか あきひと)	たまハッサーズ
FP	佐々木 康裕(ささき やすひろ)	ファンタス千葉SSC 松戸ウォーリアーズ
FP	園部 優月(そのべ ゆづき)	free bird mejirodai
FP	寺西 一(てらにし はじめ)	パバレシアル品川
FP	日向 賢(ひなた さとる)	たまハッサーズ
GK	佐藤 大介(さとう だいすけ)	たまハッサーズ
GK	神山 昌士(かみやま まさし)	GLAUBEN FREUND TOKYO

サッカーファミリー広場



「TEAM FOOTBALL JAPAN 2020」を結成！ U-24日本代表、なでしこジャパン、5人制サッカー日本代表が 同じユニフォームで東京2020に臨む

日本サッカー協会（JFA）は6月30日、Jリーグ、WEリーグ、日本障がい者サッカー連盟、日本ブラインドサッカー協会と共に「TEAM FOOTBALL JAPAN 2020」を結成することを発表した。

今回の東京2020は、U-24日本代表となでしこジャパン、そして、5人制サッカー（ブラインドサッカー）日本代表の3チームがそろって出場する初の大会となる。TEAM FOOTBALL JAPAN 2020はサッカーファミリーと共に、メダル獲得を目指す3チームを応援し、性別や年齢、障害の有無などの違いを超えて人々が絆を深めるスポーツ本来の価値を伝えていく。

また、同日の記者会見では、3チームが東京2020で着用するユニフォームのほか、TEAM FOOTBALL JAPAN 2020の特

設ホームページとコンセプトムービーも紹介された（詳細は34ページ参照）。



東京オリンピック・パラリンピックは、3チームが同じユニフォームでメダルを目指す（左から熊谷紗希選手、吉田麻也選手、川村怜選手）

FIFAワールドカップカタール2022アジア最終予選の組み合わせ決定

FIFAワールドカップカタール2022アジア最終予選の組み合わせ抽選会が7月1日、マレーシアのクアラルンプールで開催された。SAMURAI BLUE（日本代表）はグループBに入り、オーストラリア、サウジアラビア、中国、オマーン、ベトナムとアジア最終予選を戦う。

【アジア最終予選組み合わせ】

グループA：イラン、韓国、UAE、イラク、シリア、レバノン
グループB：日本、オーストラリア、サウジアラビア、中国、オマーン、ベトナム

【試合日程（日本のみ／左側がホーム）】

MD1	2021年9月2日（木）	日本 対 オマーン
MD2	2021年9月7日（火）	中国 対 日本
MD3	2021年10月7日（木）	サウジアラビア 対 日本
MD4	2021年10月12日（火）	日本 対 オーストラリア
MD5	2021年11月11日（木）	ベトナム 対 日本
MD6	2021年11月16日（火）	オマーン 対 日本
MD7	2022年1月27日（木）	日本 対 中国
MD8	2022年2月1日（火）	日本 対 サウジアラビア
MD9	2022年3月24日（木）	オーストラリア 対 日本
MD10	2022年3月29日（火）	日本 対 ベトナム

試合会場で、医療従事者への感謝拍手を実施

JFAは、SAMURAI BLUE（日本代表）、U-24日本代表、なでしこジャパン（日本女子代表）と共に医療従事者やエッセンシャルワーカーに感謝を伝える取り組みを行っている。

6月の代表戦の試合会場では、選手、監督、チームスタッフ、そして来場した観客と共に、キックオフ前に約10秒間、感謝の気持ちとエールを拍手で届けた。



サッカーファミリー復興支援金

日本サッカー協会（JFA）は、東日本大震災で被災した地域のサッカーファミリーが、これまで通り、サッカーを楽しむことができるよう、サッカー環境の復興を目的に「サッカーファミリー復興支援金」口座を開設しています。集まった復興支援金は、運用細則に基づいて運用されます。

銀行口座 三菱UFJ銀行（0005） 渋谷支店（135）
普通預金 口座番号 0290451 公益財団法人日本サッカー協会
サッカーファミリー復興支援金口座
※ご利用金融機関が設定する振込手数料はご負担願います。

「暴力等根絶相談窓口」を設置しています

日本サッカー協会（JFA）は、サッカーの活動現場で生じた暴力行為に関する通報を受け付ける窓口として「暴力等根絶相談窓口」を設置しています。

利用方法：

【電話】03-5276-8838

【FAX】廃止

【フォーム】https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSd0Trrv0-Leh64Nomkz4YOCQAVouVhhmWtVs3EGjW_ZdkU5w/viewform?usp=sf_link

利用時間：平日 12:00～18:00（土日祝、年末年始等除く）



読者プレゼント

応募締切：2021年8月16日(月)当日消印有効

アディダス ジャパン(株) 提供

日本代表のオフィシャルサプライヤーであるアディダス ジャパン(株)より、「CONDIVO20 トレーニングジャージー(Lサイズ)」を1名様にプレゼント。



JFA STORE 提供

「JFA STORE」は日本代表のグッズなどがそろったJFAのオフィシャルeコマースサイトです。さまざまなシーン、目的に合わせてグッズを確認できるページに加え、特集ページも用意しました。今号では「JFA100周年記念 ポロシャツ(JFAブルー/Lサイズ)」を1名様にプレゼント。



<https://official-store.jfa.jp/>

JFA STORE



プレゼント応募方法

■Web

URL : <https://forms.gle/ybxwB18UVPmLQB27>

上記URLもしくはQRコードよりアクセスしてご応募ください。



■はがき

〒113-8311

東京都文京区サッカー通り(本郷3丁目10番15号) JFAハウス
公益財団法人日本サッカー協会・広報部
「JFAnews プレゼント応募」係

①名前、②郵便番号・住所、③電話番号、④希望プレゼント名、⑤JFAnewsのご感想・ご意見などを明記の上、郵送でお送りください。

当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。発送は2021年8月下旬の予定ですが新型コロナウイルスの感染拡大対策の影響により、お届けに大幅な遅れが生じる場合があります。予めご了承ください。

※収集した個人情報は厳重に管理し、他の目的には使用いたしません。また、お送りいただいた葉書は返却いたしません。

公益財団法人日本サッカー協会 機関誌

JFA news

発行人：須原清貴

発行所：公益財団法人日本サッカー協会

〒113-8311

東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15) JFAハウス

TEL.050-2018-1990(代) / FAX.03-3830-2005

URL <https://www.jfa.jp>

監修：公益財団法人日本サッカー協会 広報部

編集：編集長 加藤秀樹

JFAnews編集部 / (株)ウォールニクス

印刷：サンメッセ(株)

定価：600円/本体545円

日本サッカー協会(JFA)は現在、主にウェブ会議システム等を用いて会議や会見、取材等を実施しています。本誌の取材につきましてもウェブ会議システムや電話、書面による取材で皆さまに変わらぬ情報を届けてまいります。

JFAはこうした取り組みが新型コロナウイルス感染拡大を抑制し、一日も早い終息に寄与するとともに、働き方改革の推進などより良い社会の実現に向けた仕組みづくりの一助になればと考えております。

次号2021年8月情報号は、2021年8月23日発売予定

[特集テーマ] 選手のリーダーシップ

※特集テーマ・内容は変更となる場合があります

ご購入のお知らせ

・インターネットからのご購入

日本サッカー協会 Official Online Shop

<https://webshop.jfa.jp/fs/jfagoods/c/top>

※クレジットカード決済のみ。

上記サイトでは本誌のほかJFA関連発行物の購入が可能です。

・年間購読

JFAnewsの年間購読料は、送料・税込みで1年間(12冊)5,000円で、年間2,200円お得です。

ご希望の方は上記インターネットよりお申し込みください。

・チーム登録をされている購読者さまへ

JFAnews発送における住所変更、名義変更を希望される場合は、JFA公式ウェブサイトの「JFAへの登録」よりJFA IDシステムにログインしていただき、変更をお願いします。



よろこびがつなぐ世界へ

KIRIN



新しい応援、ひろがる。



KIRIN

2019年6月~9月A代表戦出場時間トップ11 © JFA

#届けてキリン



SAMURAI BLUE



発行人 須原 謙
発行所 公益財団法人日本サッカー協会

〒113-8311
東京都文京区サッカー通り(本郷3丁目10番15号)JFAハウス
電話050(2018)1990(代)



定価600円(本体545円)